山梨県韮崎市

SHIDAIKUBO SITE

次第窪遺跡

2003

韮崎市教育委員会
峡北地域振興局

『次第窪遺跡』発掘調査報告書正誤表

ページ	訂正箇所詳細			訂正内容(誤→正)
-	凡例			"4. 土器実測図断面内の「・」は繊維を含むことを示す。"を追加する。
P2	左段	25行目		いずれ長さ→いずれも長さ
P5	左段	23行目		72号柱穴(PT72)→92号柱穴(PT92)
	右段	40行目		2節 遺物→3節 遺物
P7	左段	37・38行目		レキ→小礫
P8	左段	16・19行目		P2O5mg/g→P2O5mg/g
P13～P14	第4図	Eセクション	標高	627.671→527.671
			土層No.	9→9a
		Cセクション	土層No.	14→4
			土層No.	b→6
			土層No.	17→7
		Dセクション	土層No.	下図参照のこと
P18	第9図	Aセクション	土層No.	6→カクラン
P22	第15図 (土層説明)	4号住 1.	シマリ	○→◎
		4号住 3.	粘性	○→△
		4号住 6.	キメ	細→ヤヤ細
P25	第21図 (土層説明)	SD-1 1.	混入物	黄褐色→褐色 黒色粒子→黒色土粒子
		SD-2 1.	混入物	黒色粒子→黒色土粒子
		SD-2 2.	キメ	細→粗
		PT-57 1.	混入物	褐色5%、炭焼土わずかに入る。→褐色土5%、黒色土粒子、炭、焼土わずかに入る。
P27	第23図 (断面図)	A～Dセクション	標高	"524.600"挿入
	第23図 (土層説明)	3・4・5号溝 3.	混入物	礫→黄色礫
		3・4・5号溝 3.	キメ	細→粗
		3・4・5号溝 5.	混入物	4%→40%
	第23図 (平面図)	セクションポイント名	西側	「C'」→「C」
P29	第26図 (平面図)	1号掘立と柱穴群	土坑No.	SO3→SD3、SO4→SD4、SD7→SD6、SD6→SD7
			ピットNo.	60→66、151→131、144→134、39→139
P42	第2表	1行目		1・2区東側→2・3区東側 (図版 第4図SecE・F 参照)
		No3	キメ	細→粗
		No5	キメ	細→ヤヤ粗
			粘性	○→◎
		No9		混入物内容の "整地層か。" 以外を削除する。
		No9 9b層	キメ	細→ヤヤ細
			シマリ	◎→○
		No12	粘性	×→○
		No13	混入物	白色粒子3%→白色土粒子3%
		No17	混入物	拳大礫入る。→地山、拳大礫入る。
		No19	混入物	3cmφ小礫1%→3cmφ礫1%
			キメ	ヤヤ細→ヤヤ粗
		No20	土層	灰黒褐色土層→暗灰褐色土層
		No22	土層	欠番→暗灰褐色土層
			混入物	3層に炭化物、焼土わずかに入る。
			キメ	細
			シマリ	○
			粘性	△
		No24	混入物	炭化物→炭
		37行目		1・2区西側→2区西側 (図版 第4図SecB 参照)
P43	第3表	4行目 No14	シマリ	○→◎
		18行目		2区西側南→2区西側南 (図版 第5図SecG 参照)
		24行目		P8→P8 (図版 第4図SecA 参照)
		P8 No8	混入物	黄褐色粒子→黄褐色土粒子
		35行目		Q9-S10→Q9-S10 (図版 第4図SecD 参照)
		Q9-S10 No2	混入物	黒色粒子→黒色土粒子
		Q9-S10 No4	混入物	黄褐色粒土中に→黄褐色土中に
		Q9-S10 No5	混入物	黒色粒子→黒色土粒子
		Q9-S10 No6	混入物	黒色粒子→黒色土粒子
		Q9-S10 No7	混入物	灰褐色粒土→灰褐色土粒子
		Q9-S10 No8	混入物	灰褐色粒土→灰褐色土粒子
		Q9-S10 No11	キメ	細→粗
		Q9-S10 No13	混入物	炭化物70%→炭化物7%
		60行目		Q9-T10→Q9-T10 (図版 第4図SecC 参照)
		Q9-T10 No2	混入物	黒色粒子→黒色土粒子
		Q9-T10 No4	混入物	黒色粒子→黒色土粒子
		Q9-T10 No9	混入物	黄褐色粒子→黄褐色土粒子、
		Q9-T10 No10	混入物	黄褐色→黄褐色土
		Q9-T10 No11	混入物	黄褐色粒子→黄褐色土粒子
		Q9-T10 No12	混入物	黄褐色粒子→黄褐色土粒子
		Q9-T10 No13	混入物	黄褐色粒子→黄褐色土粒子
		Q9-T10 No14	混入物	黒色粒子→黒色土粒子
		Q9-T10 No16		削除
P44	第4表	Pit021	混入物	入る°→入る。
		Pit034	混入物	入る°→入る。
P47	第8表	SD-07	切り合い	SD-6を切る→SD-6に切られる
P49	第12表	No24	残存	胴部片→口縁部片
P51	第14表	No44	残存	胴部片→底部片
		No9	残存	胴部片→口縁部片
-	写真図版図	調査区全体図		調査区全景(上が南)

蓋崎市教育委員会
平成16年 3月末日現在

山梨県韮崎市

SHIDAIKUBO SITE

次第窪遺跡

2003

韮崎市教育委員会
峡北地域振興局

序　文

韮崎市穴山町は、史跡新府城跡の防塁として名を残す能見城跡のある、歴史的なまちであります。町内ではすでにいくつもの遺跡が確認され、新府城・能見城が造築された中世の時期だけでなく、古くは縄文時代からこの地に人々が生活していたことがわかっております。

今回、県道17号線バイパス建設事業にともない、穴山町次第窪周辺の遺跡について次第窪遺跡として発掘調査を行ない、記録保存することとなりました。調査では、中世の遺物や平安時代の住居跡を確認することができました。また県内でも珍しい縄文時代早期の土器が出土するなど、大きな成果をあげております。こうした歴史的意義のある次第窪遺跡は、地元の歴史を語り継ぐうえで大きな財産になるものです。この調査報告の成果が、今後ながく語り継がれ、韮崎の歴史を学びつたえる一助となれば幸いです。

最後になりましたが、今回の調査ならびに報告書作成にあたり、関係機関・関係諸氏より多大なるご理解・ご尽力を賜りましたことにつきまして、深く感謝をいたすとともに、厚く御礼申し上げます。

平成15年３月28日

韮崎市教育委員会

教育長　輿　石　　薫

例　　言

1．本書は、山梨県韮崎市穴山町字次第窪地内に所在する次第窪遺跡の発掘調査報告書である。

2．本調査は、県道17号線バイパス建設事業に先立ち、韮崎市教育委員会が平成13年度に発掘調査、平成14年度に報告書作成を行なった。

3．本書の執筆は、第4章をパリノ・サーヴェイ株式会社、それ以外は秋山圭子が担当し、編集は秋山がおこなった。

4．本調査および報告書作成にあたり、地元の皆様をはじめ、多くの方々や関係機関に御教示と御理解・御尽力をいただきました。記して深く感謝いたします。

5．本報告書にかかわる出土品および記録図面・写真等は、韮崎市教育委員会に保管してある。

6．調査組織

調査主体：　韮崎市教育委員会

発掘調査・整理担当：　秋山　圭子

発掘調査参加者：　秋山花子、阿部純一、石原ひろみ、上野慎司、上野理江、小沢千尋、小沢雄介、河西裕耶、輿石久美、島津かおり、鈴木裕太郎、中込幸子、橋本大介、比奈田可つゑ、藤原和美、細川二三子、宮沢俊彦

整理作業参加者：　阿部純一、阿部由美子、石原ひろみ、上野慎司、上野理江、内山こずえ、小沢千尋、小沢雄介、小野初美、木内純子、輿石久美、島津かおり、鈴木裕太郎、中込幸子、橋本大介

事務局（韮崎市教育委員会教育課生涯学習推進室学術文化財係）：教育長　輿石　薫、　課　長　真壁静夫（前任）・新藤　稔（平成14年度）、　室　長　長野栄太、リーダー　山下孝司、閏間俊明、秋山圭子

凡　　例

1．本書の挿図縮尺は、各図ごとに示した。

2．断面図中の水糸高は海抜高（m）で示した。

3．遺物観察表のうち各項目の表示単位は、長さ・幅・厚さがmm、重量がgとした。

目　次

序　文
例　言
凡　例
目　次

第１章　調査の経緯と方法 …… 1

第２章　遺跡周辺の環境 …… 1
　１節　地理的環境 …… 1
　２節　歴史的環境 …… 1

第３章　遺構と遺物 …… 1
　１節　各区の概要 …… 1
　２節　遺構 …… 2
　３節　遺物 …… 5

第４章　自然科学分析 …… 7

写 真 図 版

第１章　　調査の経緯と方法

主要地方道韮崎須玉小淵沢線（県道穴山バイパス）建設事業にともない、峡北地域振興局より依頼を受けた韮崎市教育委員会が、事業対象地区の試掘調査を実施した。その結果、対象地区内に遺跡があることがわかった。このため峡北地域振興局と韮崎市教育委員会が協議をおこない、遺跡の様子を記録としてながく後世に残すため、同地区を次第窪遺跡とし事前に発掘調査することとなった。対象面積は約2000m²である。

発掘調査は平成13年７月23日から同年11月28日まで実施した。調査の利便化を図るため、調査区内に４m区画のグリッドを設定した。また全体を便宜的に３区に分け、北寄りを１区・中央を２区・南寄りを３区とした。調査の効率上、１区から２区途中までを前半期の調査、それ以南を後半期の調査とし、表土剥ぎを２回に分けて行なった。遺構のほとんどは２区に集中している。なお、報告書作成業務は平成14年度に実施した。

第２章 遺跡周辺の環境

１節　地理的環境

韮崎市は山梨県の北西部に位置し、北に八ヶ岳、西に南アルプス、東に茅ヶ岳、遠く南東に富士山を望む。 市内を南北に貫流する釜無川は南アルプスに源を発し、秩父山地から流れ出る塩川とともに、市内の地形を分かつ変化点となっている。市内は、釜無川右岸の河岸段丘地域、八ヶ岳岩屑流が釜無川・塩川に開析されてできた七里岩台地上地域、塩川右岸の河岸段丘地域（通称藤井平）、茅ヶ岳西南麓の穂坂丘陵地域の4地域に区分される。そのうち、次第窪遺跡は七里岩台地上に立地する。

七里岩は市内を南北に走る台地で、長野県富士見町蔦木から韮崎市の南東端まで約30kmにおよぶ。西を釜無川、東を塩川に開析され、川との比高は約50～80m、急崖が屹立する。台地の幅は南下するほどに狭くなり、遺跡周辺では東西1.5kmほどである。台地上は小さな円頂丘と窪地が散在する流れ山地形となっており、小円頂丘部分には遺跡、さらに窪地部分には湧水や湿地が分布する。

次第窪遺跡はこの七里岩の西端崖線近くにある。標高は約525mをはかる。遺跡から台地の端まではわずかに50mほどで、その西は比高差約90mの急崖をへて釜無川に至る。周囲の眺望も開けている。調査区は南北に長く、南端は沢に接しているため、平坦地から沢にかけての地形変化がみられる。とくに調査区中央（２区）から調査区南側（３区）にかけては、この沢へと急激に落ち込む地形になっている。

２節　歴史的環境

次第窪遺跡周辺で確認されている人々の生活の痕跡は、古くは縄文時代にさかのぼる（第２図･第１表）。遺跡の南方３kmには縄文時代前～中期の大集落跡（坂井遺跡⑭）、遺跡から谷をはさみ南東には縄文時代中～後期の集落跡（宿尻遺跡②）がある。古墳時代前期には、遺跡南東の小円頂丘に集落跡（伊藤窪第２遺跡④）、また遺跡南方3.5kmに方形周溝墓と住居跡が多数確認された大集落跡（坂井南遺跡⑮　第２図⑭南）が形成された。中世になると、武田勝頼があらたに甲斐国の府中とした新府城跡（⑦）や、その北の防塁ともいわれる能見城跡（③）などがつくられ、この一帯は武田氏勢力の盛衰、あるいは東国の覇権争いの一舞台となる。

次第窪遺跡周辺は、ながきにわたり人々に選ばれつづけた場所である。

第３章　遺構と遺物

１節　各区の概要

(1)　１区　　調査区北寄りO－８グリッド以北を１区とした。１区では、地表面から地山までわずかに数cm程、耕作土直下が地山層となっていた。この一帯は、昭和34年の台風で甚大な被害を受けた七里岩の西側、釜無川流域の復興の為に、大量の土を採取･搬出しており、すでに本来の地形はとどめていなかった。そのため1区では遺構が全く確認されなかった。

(2)　２区　　調査区中央を２区とした。南にある沢に向かい傾斜地になっている。ここでは表土付近で人為的な整地層がみられるものの、その下位から遺

構・遺物が確認された。今回確認した遺構はすべてこの区に集中している。遺物・遺構はいずれも黒色の強い暗灰褐色土層中で確認されている。

(3) ３区　　調査区南寄りX-13グリッド以南を３区とした。かつて流路であったようで、全体的に南の沢に向かいわずかに傾斜する。南端は、沢に向かって急激に落ち込んでいる。地山は灰褐色で粘性が高い。３区ではトレンチ調査を実施した。地山直上の暗灰褐色土層では遺物が若干出土したが、遺構は確認されなかった。

２節　遺構

２区では、平安時代の竪穴式住居跡６軒、土坑13基・柱穴196基、集石土坑４基、掘立柱建物跡２棟、溝５条が確認された。ここでは、各遺構について順に説明する。

１号住居跡（第６・７・８図）

S・T-11・12グリッドに位置する。東西4.1m×南北4.5m（推定）の隅丸方形（推定）プランである。貼り床直上層で検出された。貼り床はカマド前面でおよそ東西２m×南北１mの範囲で残っていた。周溝は北壁で検出された。

カマドは北壁中央部に設置されている。カマド内１層は堅くしまった焼土層である。カマドの焼土周辺から礫が５点出土した。いずれ長さ約15cm以下で、カマド構築部材の一部と考えられる。カマドの袖石となりうる大型礫は出土しなかったが、カマド前面側に長楕円形のわずかな掘り込みがみられるので、少なくともカマド前面側には袖石を立てた構造であることが推測できる。カマド破壊時に構築材も原位置から移動したものと思われる。

このほか、T-12杭近くで西にのびる細い溝は、本住居の間仕切りである可能性も残る。

遺物は平安時代の土師器甕などが出土している。

２号・６号・７号住居跡（第９～13図）

S・T-9・10グリッドに位置する。南北約4.2m×東西約4.2mの方形プランである。１号・２号溝に切られる。

同一平面プラン内で２度建替えをおこなっている。名称は、新しい住居から順に２号・６号・７号住居跡とした。

なお、調査の効率上、１区から２区途中までを前半期の調査、それ以南を後半期の調査とし、表土剥ぎを２回に分けて行なった。本住居跡の北半分については、前半部分の調査範囲に入っていたのだが、前半期の調査では、本住居跡の北部分を見落としてしまった。調査区のセクション図（Cライン）には、本住居跡の土層と思われる層序が明確に見られ、これについては調査時点でも気づいていたが、硬化した貼り床がなかったこと、遺物の出土が極めて少なかったことから住居跡の一端であると判断できなかった。これについては深く反省するものである。本住居跡の平面図中、破線になっているところは推定されるラインである。

２号住居跡

建替えの最終段階の住居跡。南壁の東寄りにカマドがあるが、２号溝に切られて東半分は欠損している。残存するカマド西半分では、カマド構築材であったとおもわれる扁平な石が５つ出土しており、礫直下の土層にはわずかに焼土が入る。また掘り方を見ると、袖石を設置したとみられる掘りこみが４ヶ所確認できる。カマドの構築材として大型の礫を使用していたことがうかがえる。

貼り床はカマド脇から住居中央にかけて残っていた。この貼り床はとても堅くしまっている。

この貼り床から約３cm上面で炭化材が散在し、これと同レベルで焼土が分布する。さらにこの焼土とともにローム粒が塊となって出土している。この焼土・ローム塊の下の貼り床の一部は著しく焼けて赤色化し、すぐ脇に赤く焼けた極めてかたいローム塊が検出された。焼土とともに検出された床直上のローム塊は住居の中央部寄りにあり、火災によって崩落した土屋根の可能性があろう。また、赤く焼けたかたいローム塊も同様に考えられる。

カマド周辺から土師器坏片と土師器甕片が出土している。また、カマドの西の床面から鉄製品が出土している。

なお、本住居跡の炭化材および土壌については、サンプルを採取し、自然科学分析を行なった。

６号住居跡

南壁中央部にカマドを持つ。こちらのカマドからは礫は検出されなかった。建替えで２号住居をつくる際に、古いカマドは壊され、新しい場所にカマドを移したものとおもわれる。掘り方には、カマド前

面に袖石を置いたとみられる掘り込みが残る。貼り床は、２号住居跡貼り床をはがした後に検出された。この貼り床は６号住居跡カマド前面から帯状に住居中央まで続く。

７号住居跡

６号住居跡の貼り床をはがした後、さらに下位から床と思われる硬化面を検出した。この硬化面を７号住居跡の床面とした。床面は古いカマド前面に残っており、この段階から古いカマドを使用していた事がわかる。しかし、この床面は２号・６号住居跡の床ほど硬くしまっておらず、床面範囲も６号住居跡の貼り床面の範囲内に収まってしまうため、６号住居跡床面の一部である可能性も残る。

２・６・７号住居跡については、出土遺物も少なく３住居の使用時期を判断することは難しい。カマドの位置が南壁にある点、また建替え後の２号住居跡ではカマドが東コーナーに寄りつつある点を考えると、平安時代後期の住居跡と推定できよう。

３号住居跡　欠番

４号住居跡（第14・15図）

W-11グリッドに位置する。規模･形態・時期は不明、カマドのみ検出。焼土とともに粘土質の塊が見られ（６層）、この遺構を破壊したカマド跡と判断した。６層はカマド中央には見られず、袖部分だけにみられる。本来のカマドの構造をうかがわせるわずかな痕跡であろうか。形態からみて、カマドは北壁に設置されていたものと思われる。袖石を設置したと思われる掘り込みも確認できる。また、カマド前面が低くなっているものの、北側に向かっての傾斜があまりなく、平坦な断面となっている。

この住居跡では周溝などは確認されなかった。

カマド付近から土師器甕の小破片が３点出土している。

５号住居跡（第14・16図）

V-11グリッドに位置する。規模･形態は不明。カマドのみ検出。当初土器がまとまって出土したため５号土坑として調査をしたが、掘り方の観察からカマドの可能性があると判断し、５号住居跡カマドと名称を変更した。しかしまとまって出土した土器の周辺からは焼土は検出されていない。

この遺構では平安時代最末期の羽釜１個体が壊れて出土した。遺物は南北に長く分布し、口縁部は遺物集中の南端から出土している。横にたおれた羽釜が上からの圧力を受けてつぶれた様子がうかがえる。

溝（第22～26図）

溝状遺構は5条確認された。４号溝をのぞき、等高線に沿っておおよそ南北方向に伸びる。

１号・２号溝

Q・S・T-９・10グリッドに位置する。南北方向に走る2条の溝のうち、西側を1号溝、東側を２号溝とした。２つの溝は１mほど離れてほぼ平行に走る。おおよそ等高線に沿ってのびており、1号溝はやや短い。２号・６号・７号住居跡を切る。

両溝ともに北寄りでは、遺構上層に拳大ほどの礫が検出されているが、対照的に南寄り（２・６・７号住居跡以南）では礫は検出されていない。覆土はシルト質できめ細かくしまりがある。他の遺構には見られない色調である。１号溝上層から内耳土器、２号溝上層から土師器坏・甕片、下層から灰釉陶器壺片が出土している。図中R-９グリッドとS-９グリッド内の遺構輪郭については、調査中に気付く事ができなかったため、推定線として破線で表現した。

出土遺物や遺構の切り合いからみて、平安時代後期～中世の遺構と思われる。

３号溝

U・V・W-12・13グリッドに位置する。５号溝を切る。おおよそ等高線に沿う。上層から中層にかけて一面に拳大ほどの礫が検出された。この礫は１号集石下層でみられた赤色礫ではない。土師器甕片・石鏃・磨製石鏃・凹み石などが出土している。時期は不明である。

４号溝

V・W・X-11・12・13グリッドに位置する。４号集石を切る。上層では一部に拳大の礫がみられた。他の溝とは異なり、等高線に沿っていない。また覆土も３号・５号溝と異なる。この溝を周辺の地籍図と合わせてみると、かつて使われていた古い道と一致した（第３図）。

よって本遺構は、古道跡とみられる。この古道がいつ作られ、いつまで使われたかについては不明であるが、上層から内耳土器片が２点出土し、中世の遺構と思われる４号集石を切ることから、中世以降につくられた道跡の可能性がある。

5号溝

T・U・V-12グリッドに位置する。3号溝に切られる。覆土は暗灰褐色土。東西両脇に細い溝が沿う。時期不明。

1号集石（第17図）

R-9グリッドに位置する。掘りこみは直径約130cm、深さ約80cmをはかる。斜面地につくられており、掘りこみの壁面は東に開いた馬蹄形状である。つまり東側には掘りこみの立上がりがない。

上層に拳大～人頭大の礫が検出された。また土坑壁面と底面には、偏平に割られた礫（約20～50cm四方）が、貼りつけ敷き詰めたように設置されていた。上層の礫は青色で、割ってあるものが多いが、偏平なものはない。これに対して壁面・底面の礫はいずれも赤く、偏平に割られている。特に底面の礫は大きな板状で、平らに敷き詰めてある。青い石と赤い石、黒い覆土のコントラストはとても印象的で、この遺構をつくる際に人為的に石の選択がなされたと考えずにはいられない。

壁面・底面の礫（以下、下層礫とする）をみると、土坑の掘りこみは円形であるものの、礫の設置は西南西－東北東を軸とした長方形を意識していた様にもみえる。地形を見ると、ちょうど東北東から東南にかけて下がっていく斜面地となっており、この軸を意識して構築されたものとおもわれる。

上層礫と下層礫の間には、粘性の高い灰黒土層が確認された。灰黒色土中から炭が1点出土した。また底面の偏平礫の下からは、わずかに焼土が検出された。覆土中に骨粉は含まれていなかったが、火葬あるいは埋葬に関する遺構の可能性を考え、灰黒色土の土壌サンプルと炭のサンプルを採取し、自然科学分析を行なった。

前半調査時、1号集石の西南を1号溝が走ることに気付くことができなかったが、後半調査時に両遺構の重複に気付いた。しかし切り合いの観察はすでに不可能であったため、整理段階で前後関係について解決を試みた。1号集石の上層礫は南から西にかけて散漫な分布となっており、1号・2号溝の覆土の色調などからみても、1号・2号溝が新しいものと思われる。また土坑壁・底面の礫（下層礫）は上層礫よりも分布範囲が狭く、実際に破壊の痕跡はないため、1号溝プランにかかっていないものと思われる。ただ、この判断も整理段階で下したもので、確定的な結論とは言い切れない。

本遺構は、2・6・7号住居跡より新しい1号・2号溝に切られていること、覆土が黒いことなどから、平安時代末期から中世の所産と思われる。

なお、七里岩台地の岩盤の礫は、礫肌がぶつぶつして赤化しており、1号集石の下層礫と似通っている。そのためこの遺構の赤化礫は、被熱による色調とは断言できない。むしろ遺構内から焼土がほとんど検出されていないことからみても、この遺構の礫は被熱によって赤化したのではなく、「赤い」礫を選んで設置したと見たほうが良いかもしれない。

2号集石（第18図）

P-9グリッドに位置する。1号溝が途切れた東にある。南北2.1m（推定）、東西1.5mの不整楕円形で、覆土は暗灰褐色土である。底面から30～40cm浮いて礫が検出されている。この礫と同レベルで寛永通宝が出土している。

3号集石（第19図）

T-10グリッド東寄りに位置する。北西－南東を長軸とした長方形である。長軸1m×短軸0.7m、深さ約10cm。検出時、遺構プランの軸を見誤り遺構の長軸にそってセクション図を計測することができなかった。図中Bラインは遺構の軸にほぼ直交して計測したエレベーションである。遺構の長軸方向については、南東側のレベルがやや低くなるが、地形に沿った傾斜とみられる。覆土にはごくわずかに炭化物が混じり、粘性がやや高い。焼土は検出されなかった。遺構の機能を推定するため、覆土の一部を土壌サンプルとして採取し、自然科学分析を行なった。時期不明。

4号集石（第20図）

V-13グリッドに位置する。平面形態は、直径約80cmの円形で、南半分を4号溝に切られる。底面中央に長さ30cm以上、厚さ約10cmの平らな大礫があり、その周囲を長さ約10cm大の礫が囲む。この礫の分布は遺構底面プランと一致し、底面にいくつもの礫を敷いている様に見える。覆土中には炭化物が多く入り、黒味の強い土層である。また礫の下部にはごく少量の炭化物と焼土が散漫に分布していた。時期は確定できないが、1号集石と同じく平安時代末から中世の所産であると思われる。

なお、長坂町の横針中山遺跡で本遺構と似た集石土坑が検出されている。この遺跡は寺院の脇にあり、集石土坑は中世の所産であることがわかっている。本書第4章の自然科学分析でも指摘されているが、こうした類例を参考にし、本遺跡1号集石とともに、本遺構も中世期の所産である可能性を指摘したい。

１号土坑（SD－１）（第21図）

P-７グリッドに位置する。長径1m、短径0.8mの不整円形。覆土はしまりのない暗褐色土である。

土坑底面は東側に斜めに入り込み、深さは約1.2mをはかる。遺物はなく、時期は不明である。

２号土坑（SD－２）（第21図）

R-９グリッドに位置する。直径約60cmの円形で、深さ約55cm、覆土はややしまりのある暗褐色土である。

西に接する掘りこみは、２号土坑と覆土の違いは見られなかった。

57号柱穴（PT－57）（第21図）

V-10グリッドに位置する。約55cm四方の隅丸方形で、底面も同様に方形プランである。深さは約65cm。覆土は黒灰褐色土である。中層の壁寄りから赤化した礫が出土した。

72号柱穴（PT－72）（第21図）

W-11グリッドに位置する。約50cm四方の隅丸方形で、底面も同様に方形プランである。深さは約60cm。覆土は黒灰褐色土である。こちらは下層の壁寄りに赤化した偏平な礫が出土した。この礫も、前述のPT－57同様、柱穴の真ん中ではなく壁寄りから出土している。柱穴内で柱を支えるために入れられたか、あるいは柱を抜いた後に入れられたか、いずれにしても方形プランで覆土も似通い、礫が出土している点で、共通点の多い２柱穴である。また周辺のPT-54（V-11グリッド）も同じく方形プランで、深さ約50cmをはかる。掘立柱建物跡とするには至らないが、同時期の同様な機能を持つ柱穴群と考えられよう。

なお、１号集石の項で記したが、柱穴内から出土した赤色の礫は被熱による赤化ではなく、礫本来の色調であると思われる。

掘立柱建物跡（ＨＴ－１）（第26図）

S-11グリッドに位置する。南北方向に長軸を持つ２間×１間の構造。各柱穴の径は約20cm～30cmである。

東：PT1（51cm）・PT144（43cm）・PT192（19cm）
西：PT62（36cm）・PT２（29cm）・PT52（34.5cm）

で構成される（カッコ内は柱穴の深さ）。覆土はいずれも黒灰褐色土である。PT－192については、他のPTと若干ラインがずれ、浅めなので、本遺構の柱穴ではない可能性がある。形態から見ればむしろ調査区外に北東の一本を想定したほうが自然であろうか。

覆土の黒灰褐色土は、市内の他の遺跡において確認されている中世の遺構の覆土と似ている。断言はできないが、中世の遺構である可能性が高い。

その他のＰＴについて（第26図・第４～７表）

前述のとおり、柱穴のうち直径が細く覆土の色調が黒いものは、中世の遺構であると思われる。なかにはPT－57・92・54のように、柱穴の平面プランが正方形で深さが40～50cmほどある柱穴もある。こうした柱穴は他の柱穴とは規格が異なり、興味深い。

また、遺構名をあげることはできないが、１号掘立から西に続く柱穴群のなかには、おそらく中世の柵列と認識できるものが含まれていると思われる。この柱穴群はちょうど南東に向かい傾斜がきつくなり始めるあたりに検出されている。調査中、点を線に発展させる事はできなかったが、深さ10cm前後で径が小さめのものは、等高線に沿って調査区を横断するように帯状に検出される感があった。これらは柵列の可能性がある。柵列はおそらく一本ではなく、短めの柵列が何本も存在するのであろう。

さらに、T-11杭を中心として、深さ５～10cmの細い柱穴が円形に確認された。この円形配置の柱穴群は平坦地の端部にあり、ここから南は南東方向へ傾斜がきつくなる。覆土は１号掘立に比べ黒くはない。これより東の斜面下からは諸磯期の土器が多く確認されていることから、あるいは縄文時代前期、諸磯式土器期の住居跡の可能性もある。円形に配置された柱穴群の中央部からは遺物出土や焼土検出はなかった。

こうした配置の柱穴群がどのような機能を持つ遺構であったのかわからないが、今後さらにこうした柱穴群の類例を探していく必要があろう。

２節　遺　物

遺構外出土の土器について

第31図から第36図は遺構外出土土器である。縄文

時代早期末の土器と前期諸磯式土器が最も多く、ほかに弥生時代甕、古墳時代土師器甕・壷、平安時代土師器甕・坏、須恵器甕・蓋、羽釜、中世内耳土器などが出土した。

縄文時代諸磯式土器は諸磯C２・C３期の土器が主体で、結節浮線文や、矢羽状沈線に小さいボタン状貼付けが施されているものが多い。また大きめのボタン状貼付け文を施した土器片もみられる。

第35図17は手づくねで成形してある。土偶の手の部分かもしれないが、胎土はより新しい土器と似ている。また第35図18は瓦製の円盤である。中央部の穿孔は貫通していない。

第36図16・17は須恵器である。16は頸部に櫛描の波状文を施した須恵器甕、17は須恵器蓋である。

縄文時代早期の土器について

次第窪遺跡では、遺構外から縄文時代早期末の土器が多数出土した。時期別遺物総重量は、縄文時代早期末が最も多い。遺跡では該期の遺構は確認されなかったが、この場所が当時の人々の生活の舞台であったことはまちがいない。

第31図１～11は押型文土器である。胎土に金色粒子を含む。１～４は縦位の山形文が施されている。一般に関東などでは、この山形文は太い帯状に施されることが多い。次第窪遺跡の資料は、施文の幅がせまく、施文具の押し付けが弱いのが特徴である。５～11は楕円形の施文がなされる。山梨県上野原町新井遺跡や境川村西原遺跡などでも押型文土器が出土しているが、新井遺跡・西原遺跡例は楕円が大きいのに対して、次第窪例は楕円が小さく、均一ならびになっている。

12～21は沈線が施されている。15・16は胎土に長石が入り、器厚が薄く灰色の色調であることから東海系の土器である可能性がある。この土器に使われた施文具は打越式土器の施文具と似ており、およそ同時期の所産と考えられる。

22・24～29・34・37・39は条痕文地文に爪形文を施している。文様構成は茅山下層式土器と同じであるため、並行する時期の土器と思われる。茅山下層式土器は県内では出土しておらず、文様構成は同じで胎土に雲母を含む在地特有の土器群が認識されている（大月市外ガイド遺跡・都留市中谷遺跡）。しかし次第窪遺跡の資料は、胎土に雲母をあまり含まず、山梨県内で在地特有の土器とされる一群とも一線を画す可能性がある。

23・33・36は結節沈線が施され、やはり茅山下層式土器並行とおもわれる。

以上の土器のなかには21・24・27・37など田戸上層式土器に類似するものもみられるとのご指摘を頂いた（山梨県埋蔵文化財センター　小野正文氏による）。

第32図10は打越式土器である。１号集石付近から出土した一群を中心に、遺構外出土土器が多数接合したため、復元作業を行なった。器高約41cm（推定）、口径約28cm（推定）、尖底であろう。

施文具に貝殻を用い、口縁部から縦沈線を垂下させ、その直下に刺突状の押引きを施して口縁部の区画を行なっている。さらに胴上部には、やはり貝殻で山形に押引きをおこなっている。胴部は貝殻による条痕文を地文とし、やや丁寧なナデ調整がみられる。

貝殻による山形の施文がしっかりとなされており、打越式土器のなかでも古い時期に位置付けられよう。この時期の土器でこれほど残りが良いものはなく、貴重な資料といえる。

次第窪遺跡で出土した縄文時代早期末の土器をみてみると、古くは田戸上層式土器と思われるものから打越式土器までの時間幅が見えてくる。沈線文の土器、押型文土器、あるいは無文の土器についても同様の時期に当てはまってくるものとおもわれる。県内の該期の土器はいまだ出土数が少ない。当時の様相を探る上で、本資料は貴重な追加例となろう。

今回、次第窪遺跡の縄文時代早期末土器の報告にあたり、山梨県埋蔵文化財センター　小野正文氏、境川村教育委員会　野崎進氏には資料を実見していただき、コメントを賜った。さらに県内外の資料についてもご教示いただいた。特に、他地域との胎土の相違は、両氏のご指摘によるものである。ここに記して深く感謝するとともに、お礼申し上げます。

石器群について

P-８グリッド・O-８グリッドでは、石核を中心にいくつもの石器が出土している。第38図の礫器はいずれもこのグリッドからの出土である。これらは遺構外出土遺物として光波計測で取上げたが、残念ながらデータの不備で出土地点を示す事ができない。

これらの石器は、形状などから縄文時代早期の石器群と考えられる。本書に図示した遺物の他に、周辺から大型剥片などが数点出土している。該期の遺構は確認されなかったが、遺構外から土器が出土しており、平坦地から沢に向かうこの斜面地で当時何らかの活動が営まれていたとおもわれる。

磨製石鏃について

３号溝より出土した磨製石斧は、長さ2.6cm、幅1.6cm、厚さ２mmをはかる。粘板岩製。先端部と基部（穿孔部以下）を欠損する。

磨製石鏃は山梨県内で48点出土しており、村松佳幸氏により集成がなされている（註1）。

県内出土のものはすべてが無茎凹基式で、特に八ヶ岳南麓では弥生時代前期の遺物とともに出土している例もあるという。主に弥生時代中期に磨製石鏃が流入したといわれる関東地区に比べ、やや早くから出土する傾向がある（註1）。

本資料の形態は、基部欠損により不明だが、氏の捉えた県内の磨製石鏃の特徴にたがわないのかもしれない。また本遺跡でも弥生時代中期の遺物が出土しており、本資料も同時期の遺物である可能性はある。

なお、図中の裏面側の孔を観察すると、穿たれた孔は石鏃の内部にむかって細くなっている。これに対して図中表側の孔には、この孔径の差がみられない。穿孔部が欠損しているため推測の域を出ないが、一方向（図中では裏面側）から穿孔された可能性もある。

（註1） 村松佳幸　2001「山梨県出土の磨製石鏃－その形態と分布について－」『立命館大学考古学論集』）。

羽釜について

５号住居跡カマド出土の羽釜は、器高約16cm・口径約18.5cm・底径約13.5cmをはかる。胎土に長石を多く含む。内外面ともに粗いナデが施されている。鍔は、張出し部の高さや厚みが不均一で、やはり調整も粗い。全体的に粗雑なつくりにみえる。低部外面には、胴部の胎土以上に多量のレキが含まれている。特に５～８mmのレキが多くみられる。製作時、底部に砂利が敷かれた状態であったことが想定される。

羽釜は10世紀前半（甲斐型Ⅵ期）から11世紀後半（甲斐型Ⅸ期）にみられる。出現から時が経つにつれ、粗雑なつくりになる。本資料は調整が極めて粗く、11世紀代のものであると思われる。

また、この羽釜は器高が約16cmと低く、ずんどうなつくりであることも特徴である。

第４章　自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

出土した炭化材の樹種や集石土坑の用途などについて調査をするため、樹種同定、植物珪酸体分析、土壌理化学分析、脂肪酸分析、微細遺物分析を実施する。

１．試料

分析試料は、２号住居跡および集石土坑から採取した土壌および炭化物である。

・２号住居跡試料は、床面採取の炭化物混じりの土壌４点（炭１～４）と焼土１点である。炭１～４について樹種同定を実施し、焼土と炭３については住居構築材、特に屋根材に関する資料を得るため植物珪酸体分析を実施する。

・集石Ⅰ試料は、礫直上採取の土壌１点および炭化物３点である。土壌については土壌理化学分析・脂肪酸分析・微細遺物分析を実施するとともに、燃料材の推定を目的として植物珪酸体分析を実施する。また、炭化物については樹種同定を実施する。

・集石Ⅳ試料は、礫直上採取の土壌１点である。土壌理化学分析・脂肪酸分析・微細遺物分析を実施する。さらに、燃料材の推定、集石Ⅰとの比較対照を目的として植物珪酸体分析も併せて実施する。

２．分析方法

紙面の都合上、本報告書への掲載は割愛する。

３．結果

（１）樹種同定

結果を表１に示す。炭化材は全て落葉広葉樹で、３種類（コナラ属コナラ亜属クヌギ節・コナラ属コナラ亜属コナラ節・クリ）に同定された。

（２）植物珪酸体分析

結果を表２に示す。２号住居跡から採取された炭

化物混じり土壌（炭３）と焼土、集石Ⅰ・Ⅳから採取した土壌からは、珪化組織片が認められない。

なお各試料からは、保存状態の良くない単体の植物珪酸体が検出される。この中には、タケ亜科、ススキ属を含むウシクサ族、イチゴツナギ亜科、キビ型・ヒゲシバ型・ダンチク型短細胞珪酸体、不明機動細胞珪酸体が検出される。これら検出された植物珪酸体の中では、タケ亜科が多い傾向にある。

（３）微細遺物分析

集石Ⅰ・集石Ⅳから採取した土壌の両試料とも、炭化材の細片が多数検出されるが、種実遺体や骨・貝類等は検出されない。

（４）土壌理化学分析

結果を表３に示す。集石Ⅰは黒色を呈する軽埴土からなる。各成分の測定値は腐植含量が9.78%、リン酸含量が1.84P2O5mg/g、カルシウム含量が5.93CaOmg/gを示す。集石Ⅳも黒色を呈する軽埴土からなる。各成分の測定値は、腐植含量が6.65%、リン酸含量が0.99P2O5mg/g、カルシウム含量が10.03CaOmg/gを示す。

（５）脂肪酸分析

結果を図１、表４に示す。脂肪酸組成は、集石Ⅰ、集石Ⅳともに組成が類似する。中級脂肪酸（炭素数16～18）がほとんどを占めるが、高級脂肪酸（炭素数20以上）もわずかに含まれる。一方、ステロール組成では、集石Ⅰでは種類数が少なく検出され、集石Ⅳでは5種類が検出される。

４．考察

（１）住居構築材の検討

２号住居跡から採取した土壌・焼土からは、珪化組織片は全く認められなかった。屋根材等に利用されたイネ科植物の痕跡が残存していることを想定していたものの、今回は明らかにすることはできない。

２号住居跡から出土した炭化材（炭１～４）の樹種はクヌギ節とコナラ節であった。いずれも出土状況から住居構築材の一部と考えられる。クヌギ節とコナラ節は、共に重硬で強度の高い材質を有することから、構築材としては適材と考えられる。

（２）集石土坑の燃料材

集石Ⅰと集石Ⅳの土壌からは、全く珪化組織片が認められなかった。焚付け材や燃料材として利用されたイネ科植物の存在が想定されたが、これら種類については明らかにできない。一方、集石Ⅰから出土した炭化材の樹種は、全て落葉広葉樹のクリであった。この結果は、２号住居跡の住居構築材と考えられる炭化材の樹種と種類が全く異なることから、クリは燃料材等として選択的に利用された可能性が考えられる。なお、クリは薪炭材としてはクヌギ節・コナラ節に劣るものの、鍛冶等の燃料材としてはマツ炭と共に最良の一つとされる。これはクリが柔らかい木炭となるため、燃えやすく高温が得やすいこと等によると考えられる。

（３）集石土坑の用途推定

集石土坑覆土のカルシウム含量は大きい傾向にあるが、土壌中において移動・拡散しやすいため、ここではカルシウムの含量を補足的に扱う。またリン酸含量は、集石Ⅰ・集石Ⅳともに外的要因によるリン酸成分の富化を指摘することができない。

脂肪酸組成では、動物油・植物油ともに多く含まれる成分とされる中級脂肪酸の割合が高い。しかし中級脂肪酸は経年変化によって分解し、今回は土坑の用途や内容物を示す指標にならない。また僅かに検出された高級脂肪酸は、動物の脳や神経に多く含まれるとされている。またドコサヘキサエン酸も僅かに検出されている。

ステロール組成は、集石Ⅰではその組成はコプロスタノール・コレステロールのみと単純である。一方集石Ⅳでは、動物に由来するコレステロールなどや、土壌に含まれる植物質（腐植など）に由来するカンペステロールなどが検出されるが両ステロール間に大きな差は認められない。

以上の分析結果、動物質に由来する脂質（脂肪酸・ステロール）が認められるものの、その割合は顕著ではない。また、集石Ⅳでは植物質に由来する脂質と混在していることから、現段階では動・植物どちらに由来するか判断は難しい。

次第窪遺跡の集石Ⅰ・集石Ⅳは、土坑覆土におけるリン酸含量の値は低く、遺体埋納の痕跡や骨片などの微細遺物も認められていない。また、脂肪酸分析においても動物質に由来すると判断される顕著な結果が得られていないことから、今回の分析結果からは、遺体埋納の可能性については示唆できない。ただし、本遺構では、基本層序などとの比較対照分

析を実施していないことや高級脂肪酸やステロールなどの検出成分中に僅かに動物質に由来すると考えられる成分も認められている。そのため、今後も同様な遺構について分析調査を実施し、用途に関する検証を行いたいと考えている。

引用文献　本報告書では割愛。

表１　次第窪遺跡の樹種同定結果

遺構	試料名	樹種
２号住居跡	炭１	コナラ属コナラ亜属コナラ節
	炭２	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
	炭３	コナラ属コナラ亜属コナラ節
	炭４	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
集石Ⅰ	炭	クリ
	炭	クリ
	炭	クリ

表２　次第窪遺跡の植物珪酸体分析結果

種類 / 試料番号	２号住居跡 炭３	２号住居跡 焼土	集石Ⅰ 土壌	集石Ⅳ 土壌
イネ科葉部短細胞珪酸体				
タケ亜科	40	9	28	1
ウシクサ族ススキ属	8	1	1	−
イチゴツナギ亜科	1	−	−	−
不明キビ型	9	5	5	−
不明ヒゲシバ型	10	1	−	−
不明ダンチク型	5	6	4	1
イネ科葉身機動細胞珪酸体				
タケ亜科	12	5	16	1
ウシクサ族	2	−	2	−
不明	8	1	5	1
合計				
イネ科葉部短細胞珪酸体	73	22	38	2
イネ科葉身機動細胞珪酸体	22	6	23	2
総計	95	28	61	4

表４　脂肪酸分析結果

種類 / 試料番号	集石Ⅰ 土壌	集石Ⅳ 土壌
脂肪酸組成		
ミリスチン酸(C14)	8.80	5.39
パルミチン酸(C16)	29.22	28.82
パルミトレイン酸(C16:1)	3.52	8.67
ステアリン酸(C18)	10.96	5.15
オレイン酸(C18:1)	31.99	35.60
リノール酸(C18:2)	7.33	8.80
γリノレン酸(C18:3)	−	−
αリノレン酸(C18:3)	0.55	0.76
アラキジン酸(C20)	1.46	0.77
イコセン酸(C20:1)	2.28	−
アラキドン酸(C20:4)	−	0.54
ベヘン酸(C22)	−	2.36
ドコセン酸(C22:1trans)	−	−
エルカ酸(C22:1cis)	−	−
イコサペンタエン酸(C20:5)	−	−
リグノセリン酸(C24)	1.79	1.79
テトラコセン酸(C24:1)	−	−
ドコサヘキサエン酸(C22:6)	2.10	1.36
ステロール組成		
コプロスタノール	24.16	8.29
コレステロール	75.84	31.11
エルゴステロール	−	14.79
カンペステロール	−	13.96
スティグマステロール	−	31.85
シトステロール	−	−

凡例）−：未検出を示す

表３　次第窪遺跡の土壌理化学分析結果

試料名	土色	土性	腐植含量(%)	P_2O_5 (mg/g)	CaO (mg/g)
集石Ⅰ	黒色（10YR1.7/1）	軽埴土（LiC）	9.78	1.84	5.93
集石Ⅳ	黒色（10YR2/1）	軽埴土（LiC）	6.56	0.99	10.03

1）土色はマンセル表色系に準じた新版標準土色帖（農林省農林水産技術会議監修,1967）に基づく。
2）土性は土壌調査ハンドブック（ペドロジスト懇談会編,1984）の野外土性に基づく。

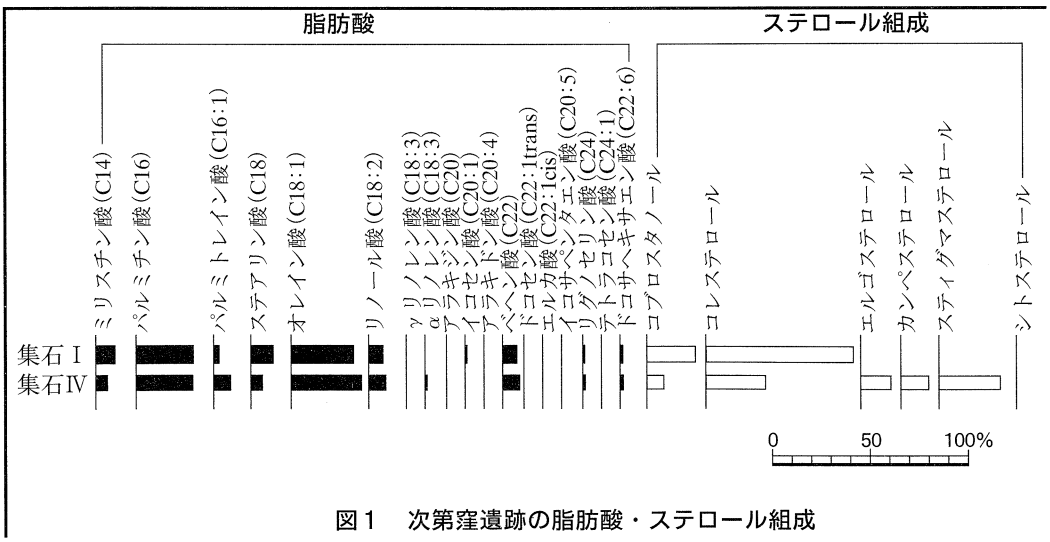
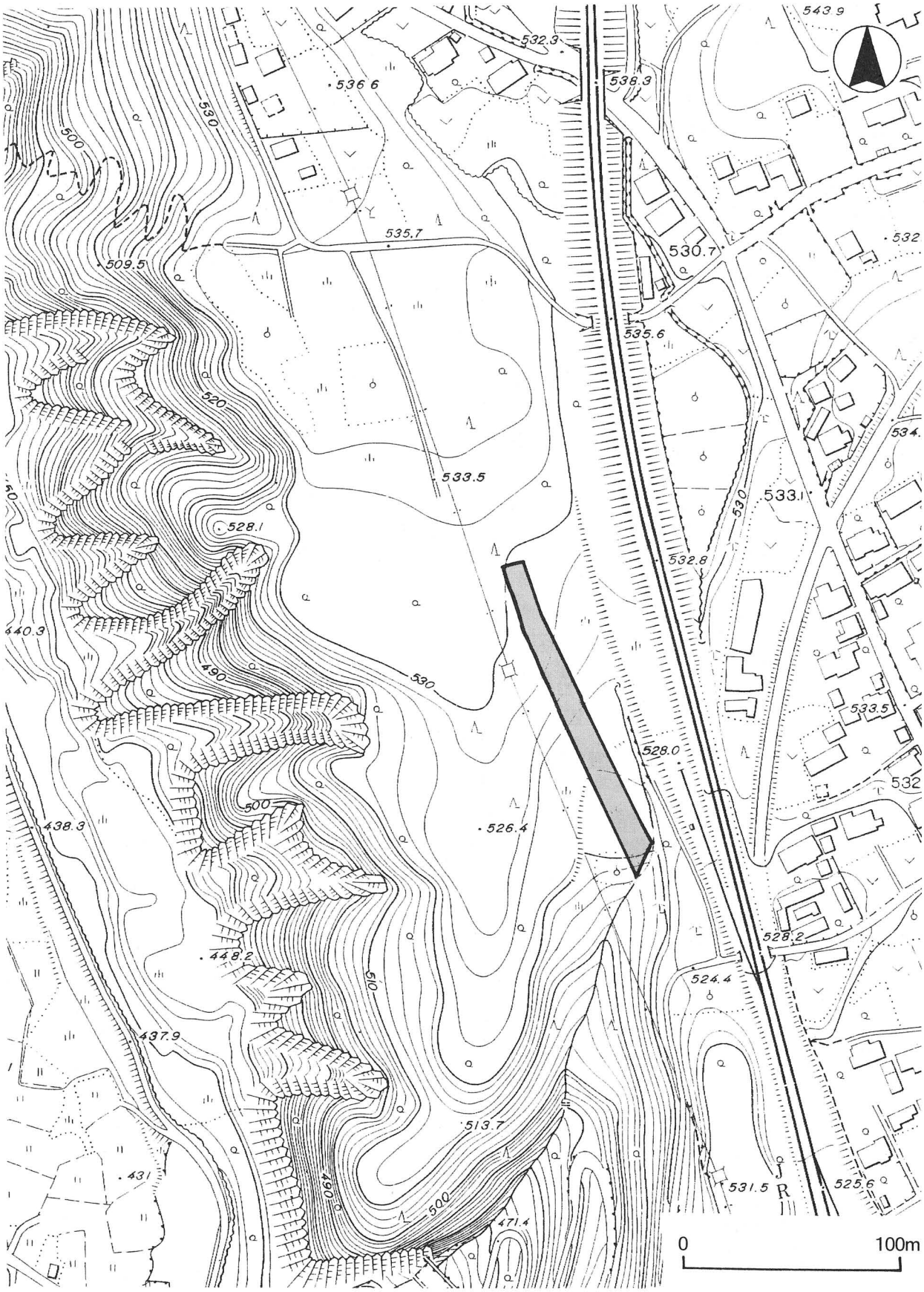
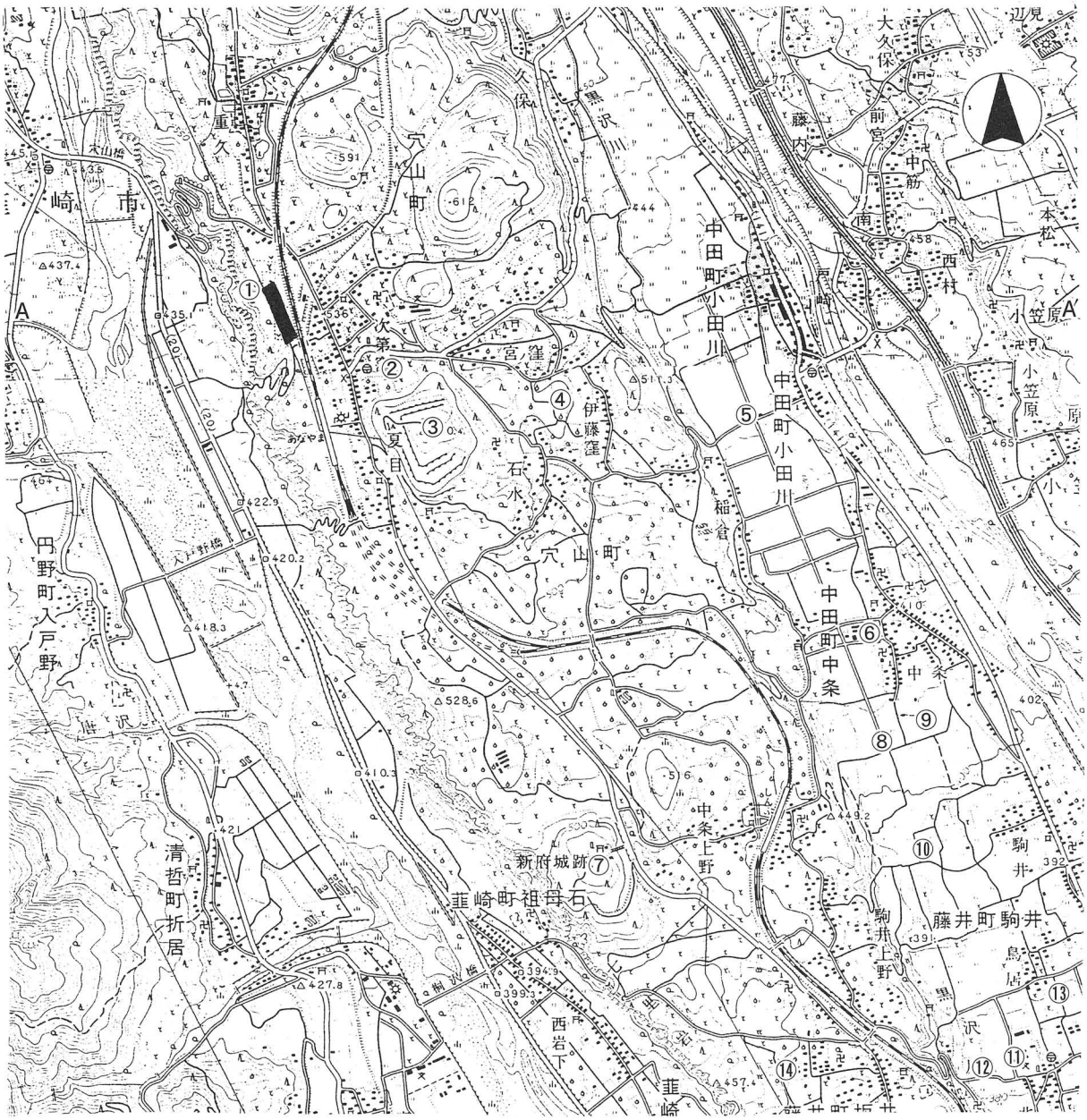
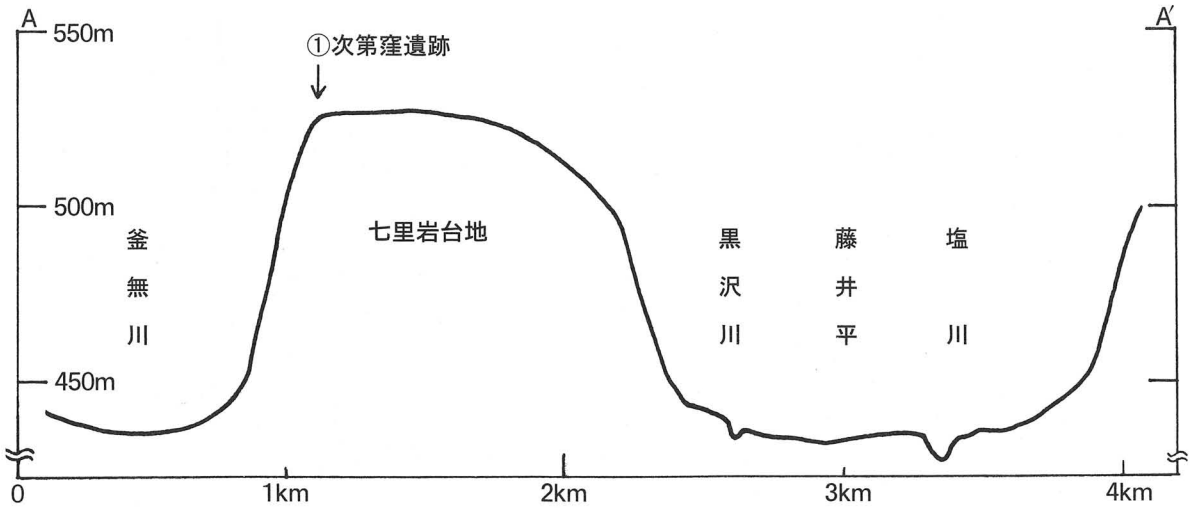


図１　次第窪遺跡の脂肪酸・ステロール組成

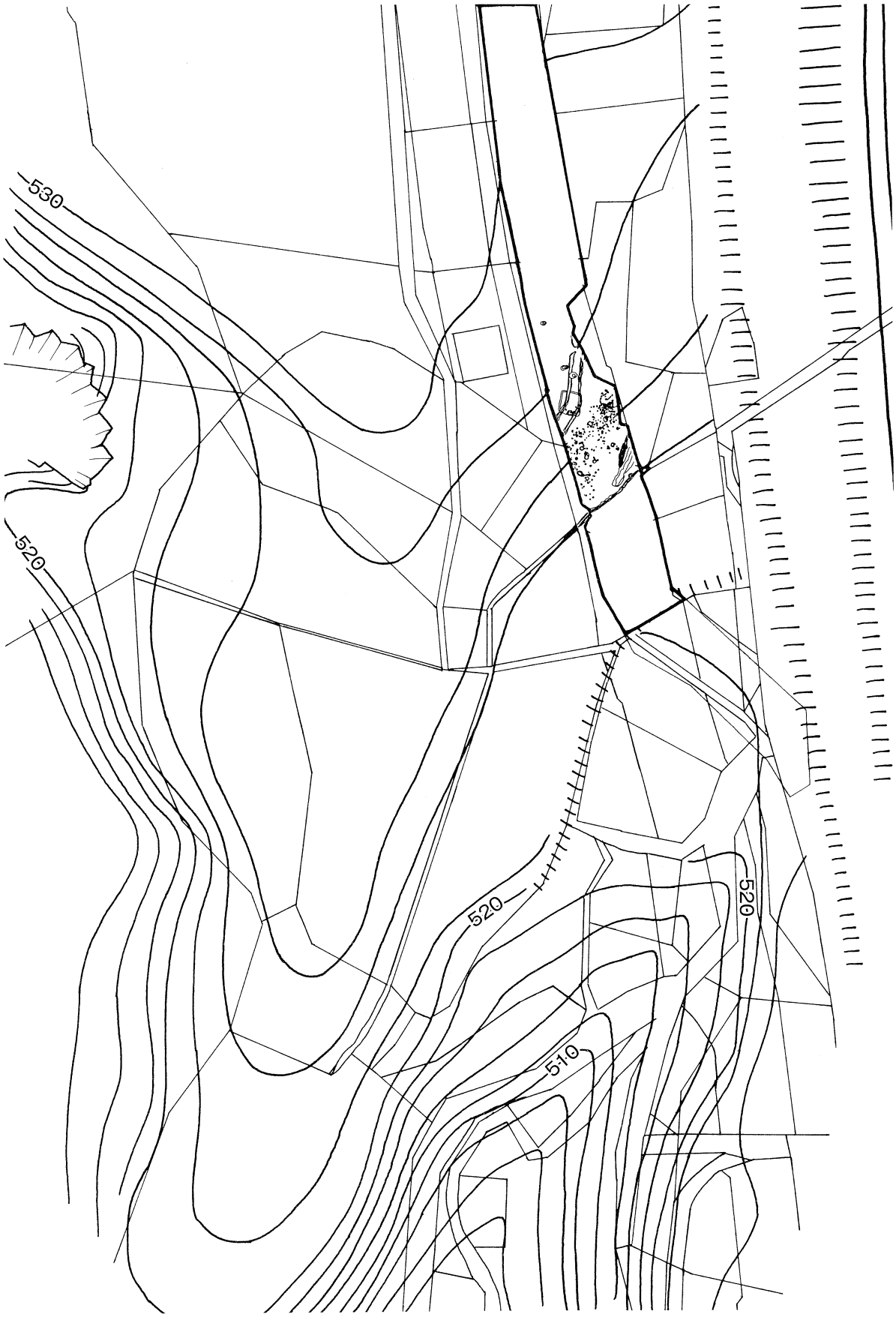


第１図　次第窪遺跡位置図（S＝1／2,500）

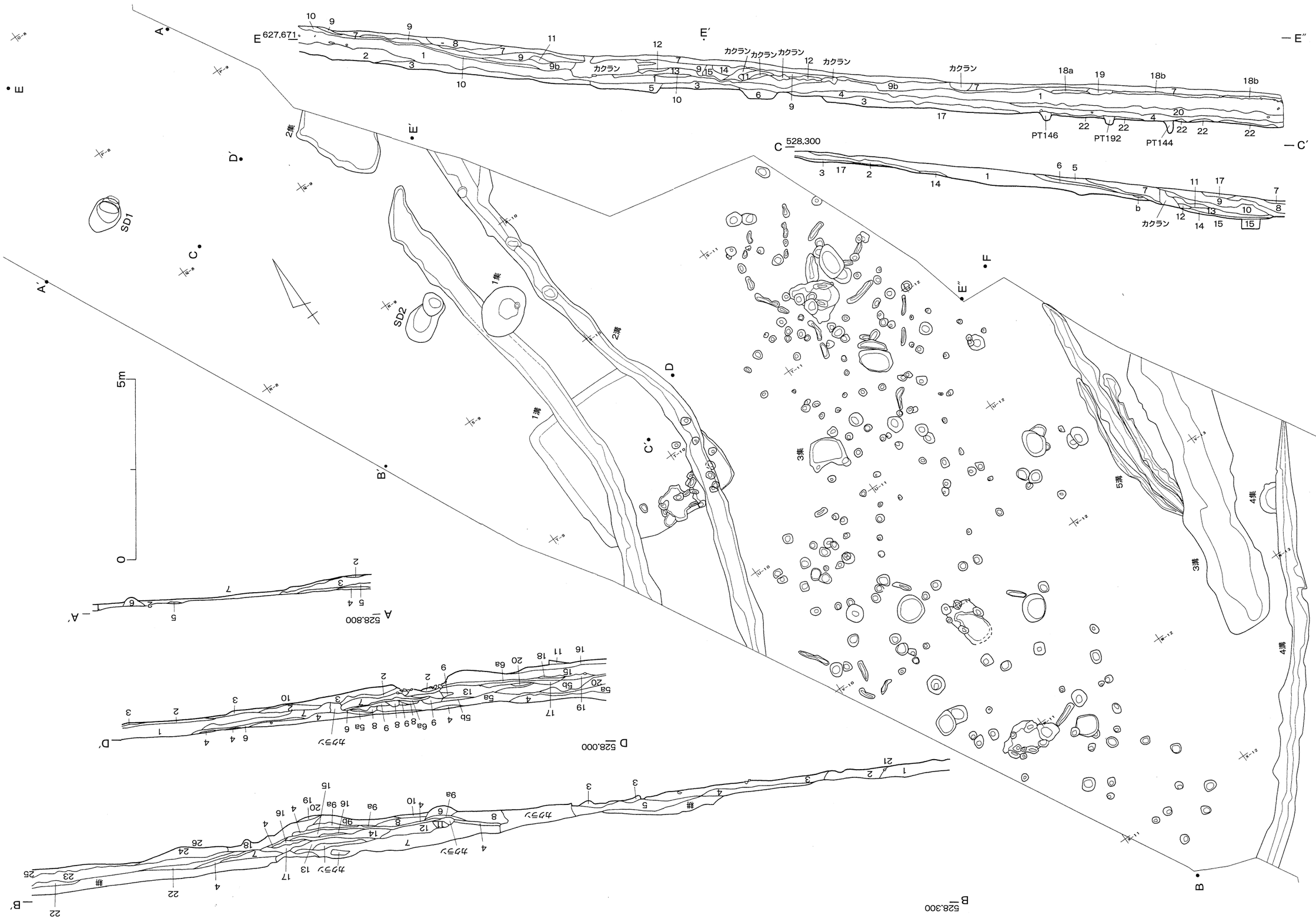




第２図　次第窪遺跡と周辺の遺跡・地形（S＝1／25,000）

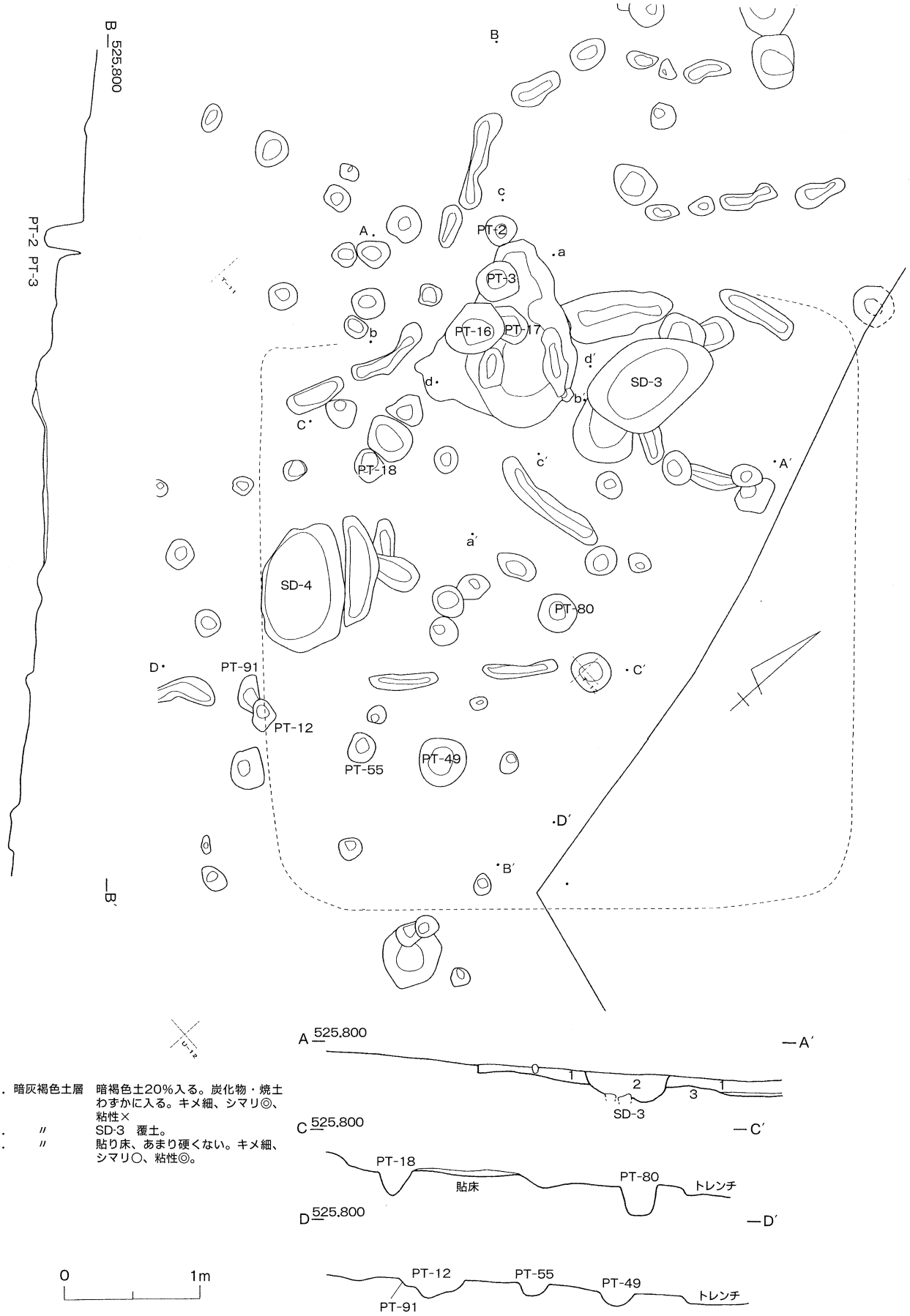


第３図　調査区全体図と周辺の地割り（Ｓ＝1／1,000）



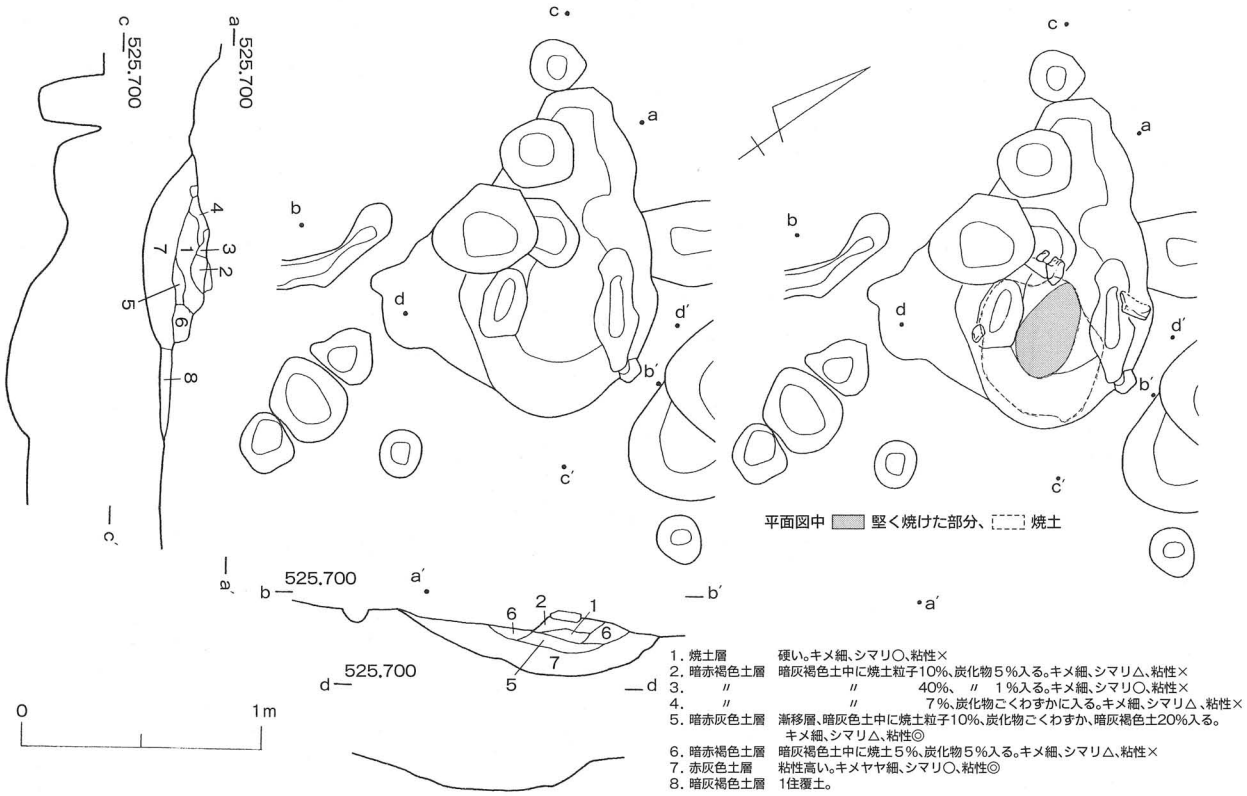
第4図　2区全体図　断面図（S=1／100）

第５図　２区南寄り～３区北寄り平・断面図（S＝1／150）



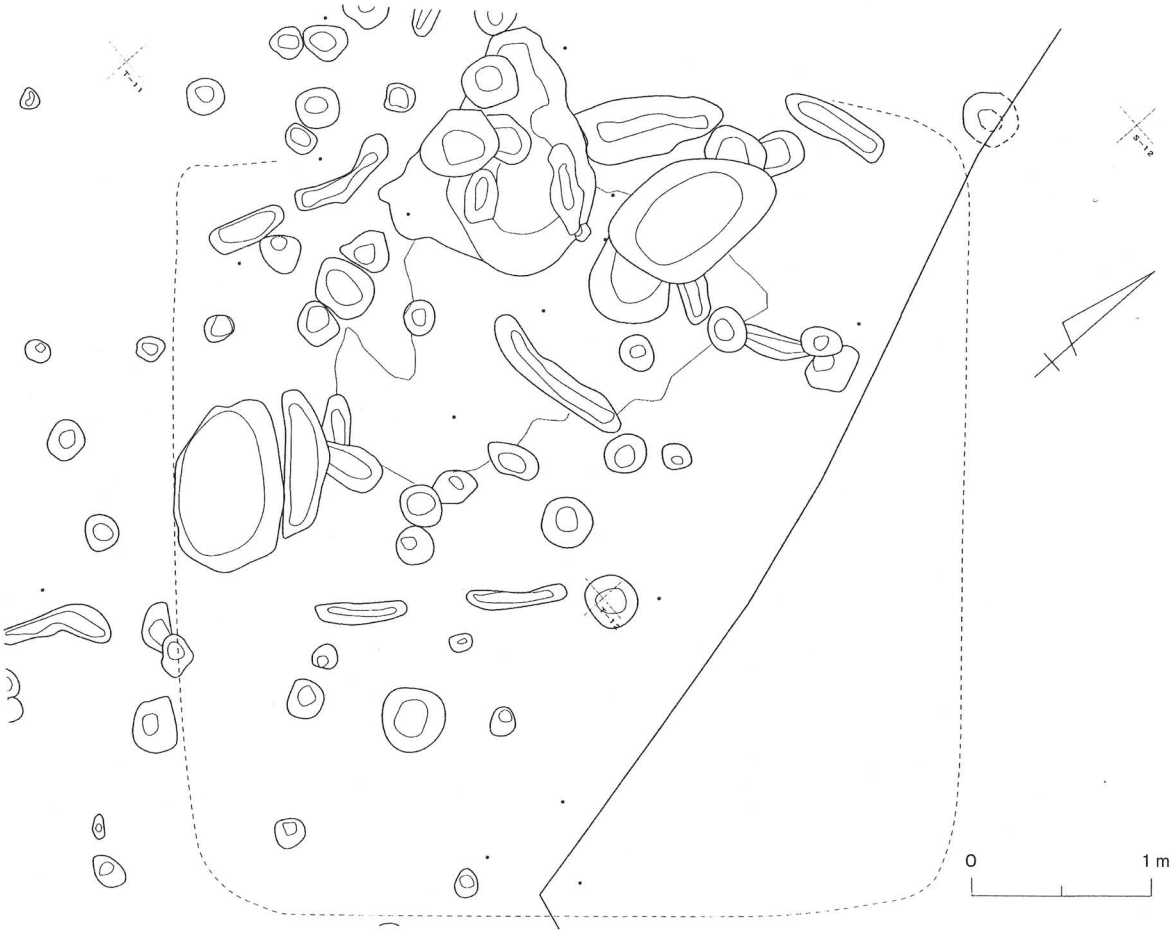
1．暗灰褐色土層　暗褐色土20%入る。炭化物・焼土わずかに入る。キメ細、シマリ◎、粘性×
2．　〃　SD-3　覆土。
3．　〃　貼り床、あまり硬くない。キメ細、シマリ○、粘性◎。

第６図　１号住居跡　平・断面図（S＝1／40）

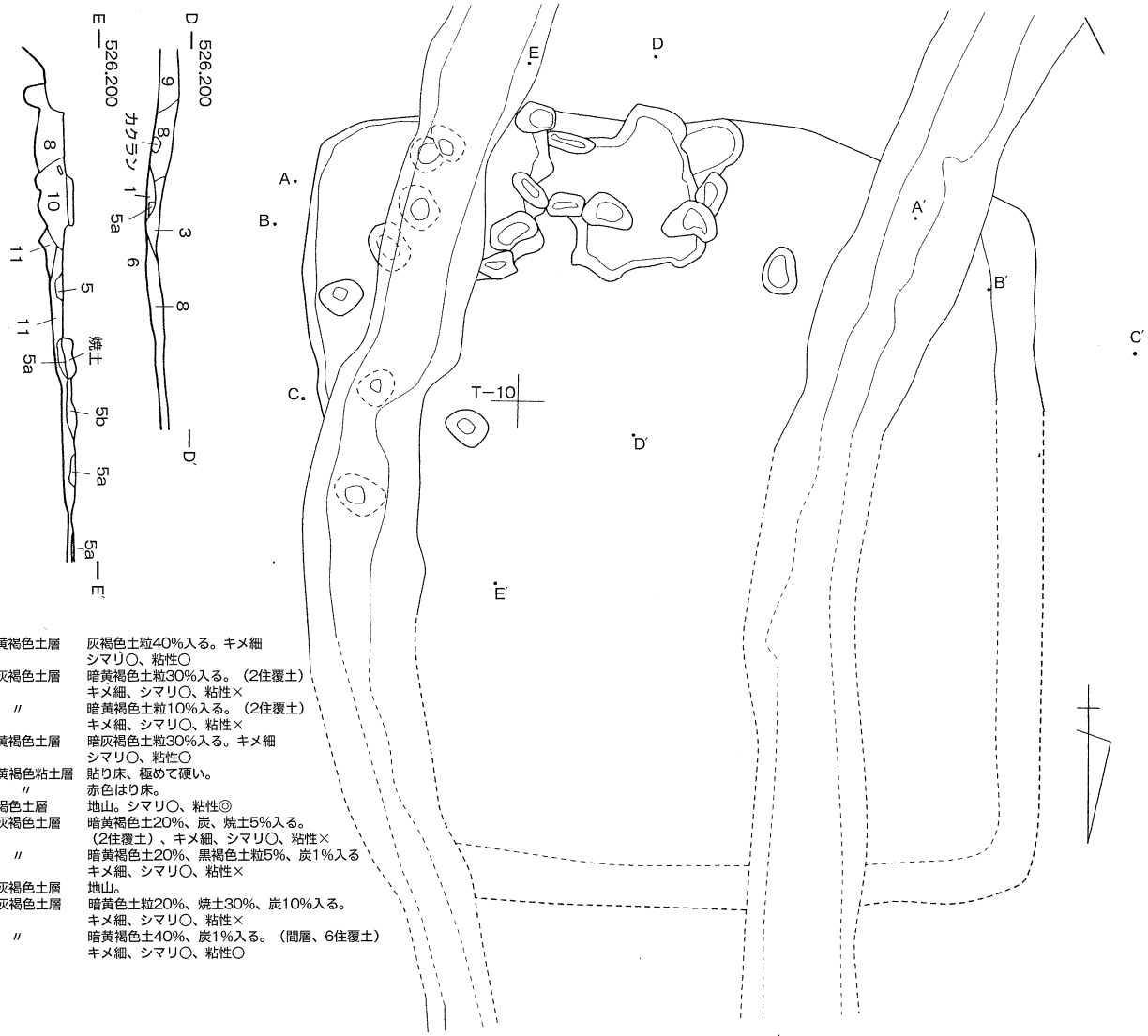


1. 焼土層　硬い。キメ細、シマリ○、粘性×
2. 暗赤褐色土層　暗灰褐色土中に焼土粒子10%、炭化物５%入る。キメ細、シマリ△、粘性×
3. 〃　〃　40%、〃　１%入る。キメ細、シマリ○、粘性×
4. 〃　〃　７%、炭化物ごくわずかに入る。キメ細、シマリ△、粘性×
5. 暗赤灰色土層　漸移層、暗灰色土中に焼土粒子10%、炭化物ごくわずか、暗灰褐色土20%入る。キメ細、シマリ△、粘性◎
6. 暗赤褐色土層　暗灰褐色土中に焼土５%、炭化物５%入る。キメ細、シマリ△、粘性×
7. 赤灰色土層　粘性高い。キメヤヤ細、シマリ○、粘性◎
8. 暗灰褐色土層　1住覆土。

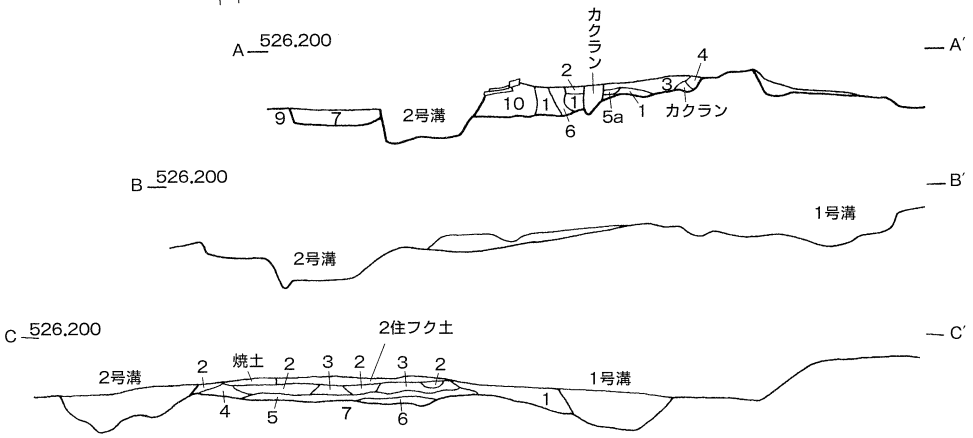
第７図　１号住居跡　カマド平・断面図（S＝１／30）



第8図　１号住居跡　貼り床平面図（S＝1／40）



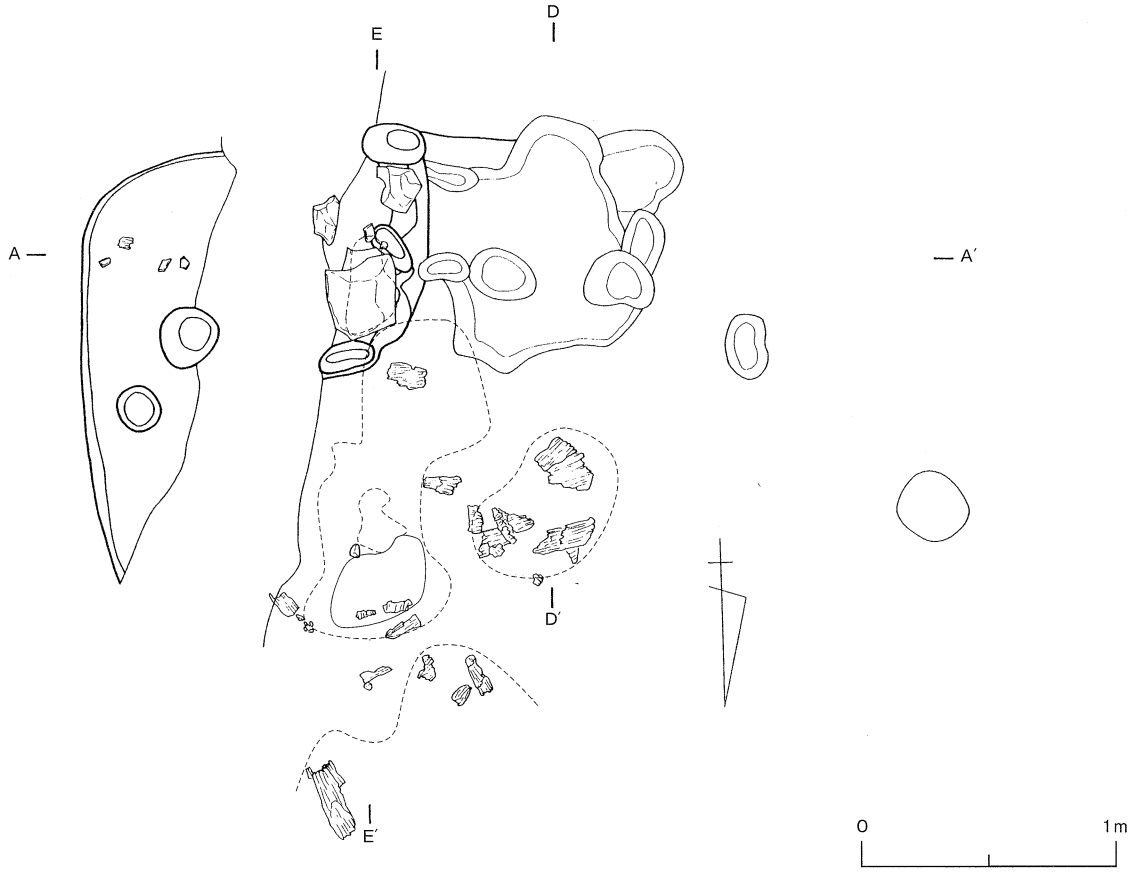
1. 暗黄褐色土層　灰褐色土粒40%入る。キメ細 シマリ○、粘性○
2. 暗灰褐色土層　暗黄褐色土粒30%入る。（2住覆土） キメ細、シマリ○、粘性×
3. 〃　暗黄褐色土粒10%入る。（2住覆土） キメ細、シマリ○、粘性×
4. 暗黄褐色土層　暗灰褐色土粒30%入る。キメ細 シマリ○、粘性○
5a 暗黄褐色粘土層　貼り床、極めて硬い。
5b 〃　赤色はり床。
6. 黄褐色土層　地山。シマリ○、粘性◎
7. 暗灰褐色土層　暗黄褐色土20%、炭、焼土5%入る。（2住覆土）、キメ細、シマリ○、粘性×
8. 〃　暗黄褐色土20%、黒褐色土粒5%、炭1%入る キメ細、シマリ○、粘性×
9. 明灰褐色土層　地山。
10. 暗灰褐色土層　暗黄色土粒20%、焼土30%、炭10%入る。キメ細、シマリ○、粘性×
11. 〃　暗黄褐色土40%、炭1%入る。（間層、6住覆土） キメ細、シマリ○、粘性○



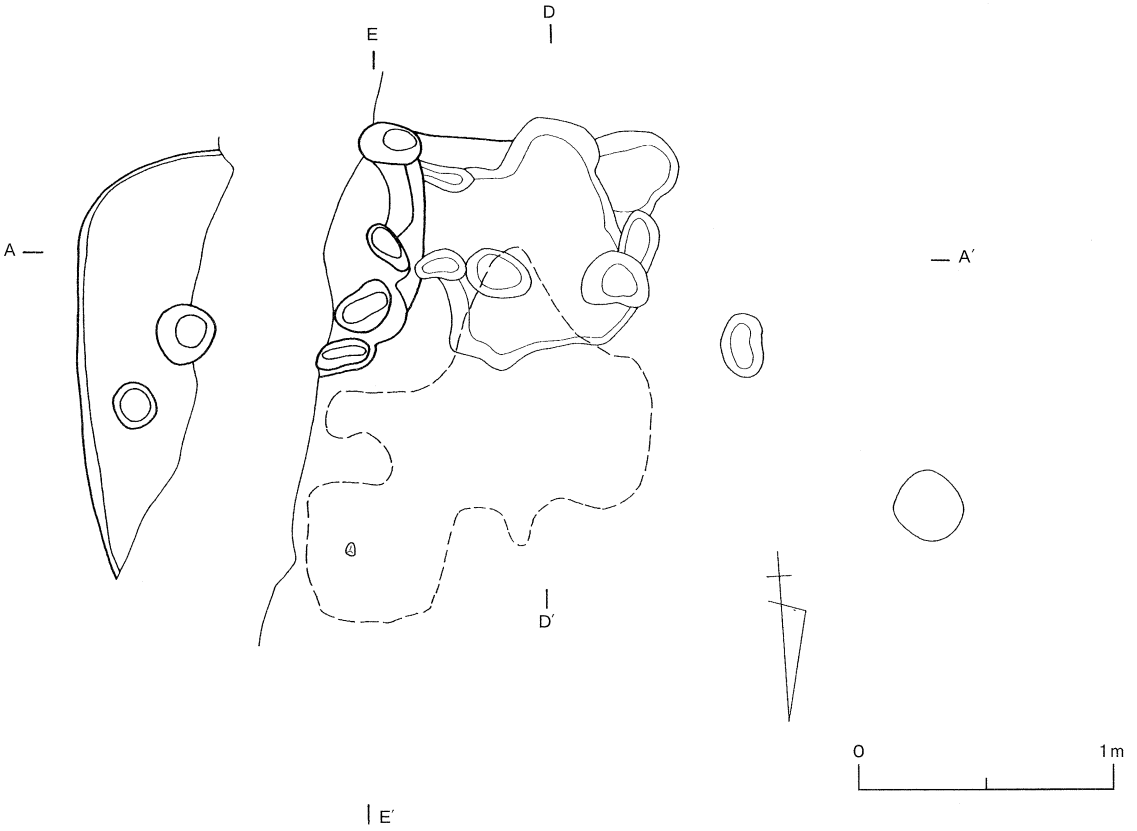
1. 灰褐色土層　黄白色粘土粒（5〜10mmφ）10%入る。
2. 黄白褐色粘土層　2住貼り床。極めて硬くしまる。シマリ◎
3. 暗灰褐色土層　黄褐色土30%、焼土、炭1%入る。キメ細、シマリ○、粘性△
4. 〃　〃 40%、炭1%入る。キメ細、シマリ○、粘性○
5. 6住貼り床。
6. 7住貼り床。
7. 暗黄褐色土層　地山。キメ細、シマリ○、粘性○

0　1m

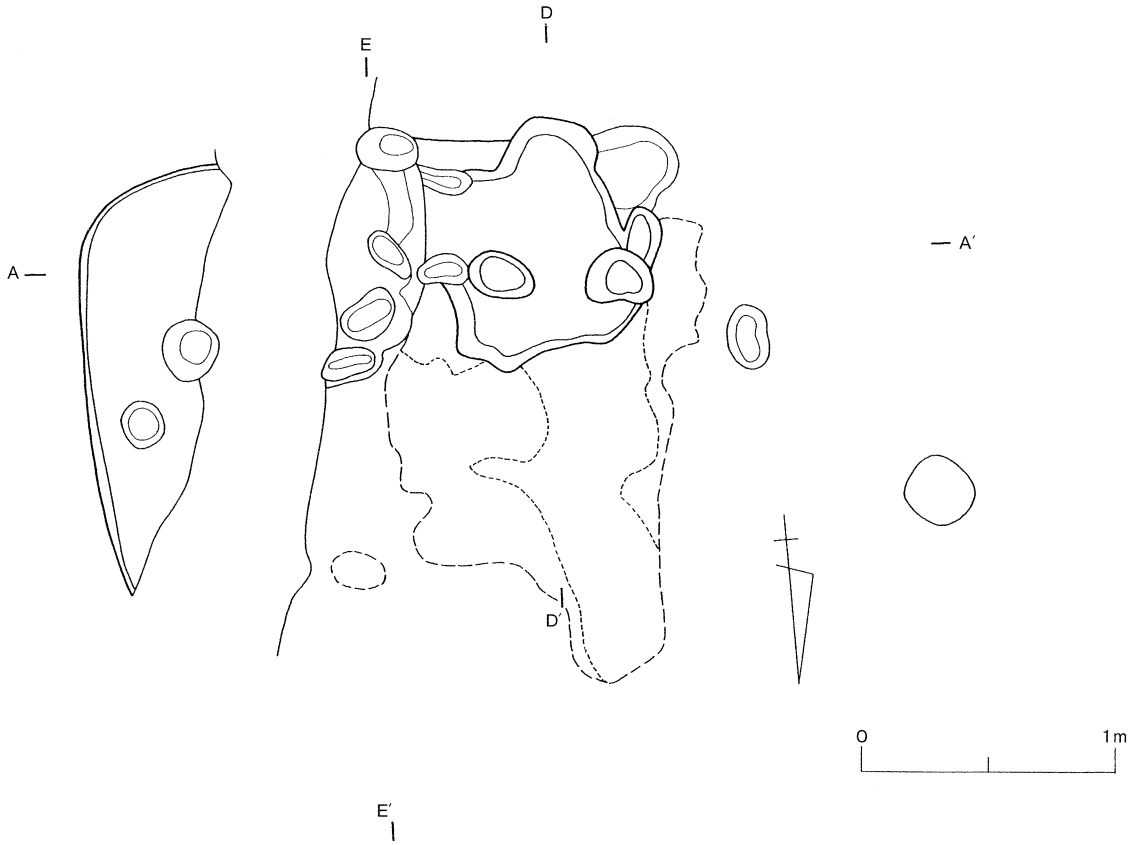
第9図　2・6・7号住居跡　平・断面図（S＝1／40）



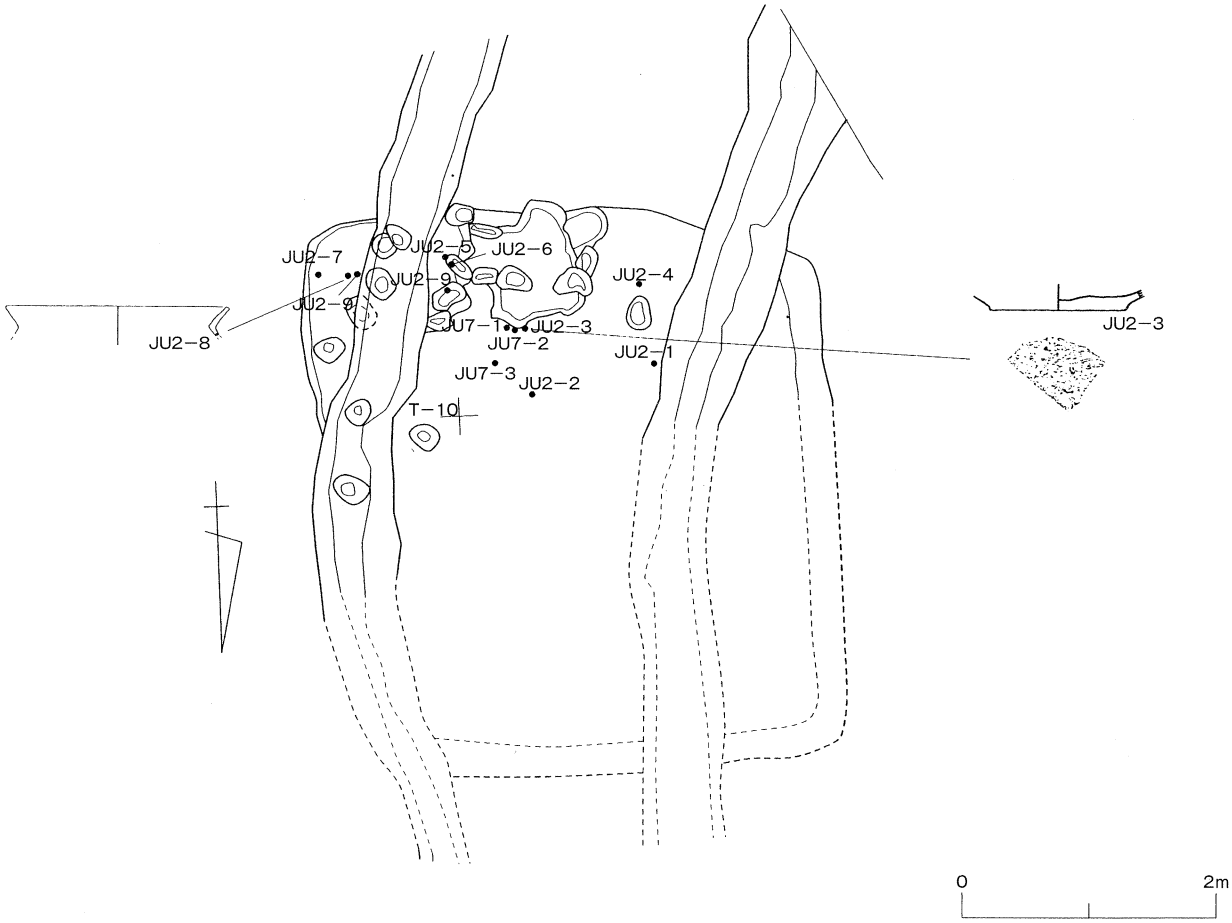
第10図　2号住居跡　焼土・炭・カマド検出状況（S=1／30）



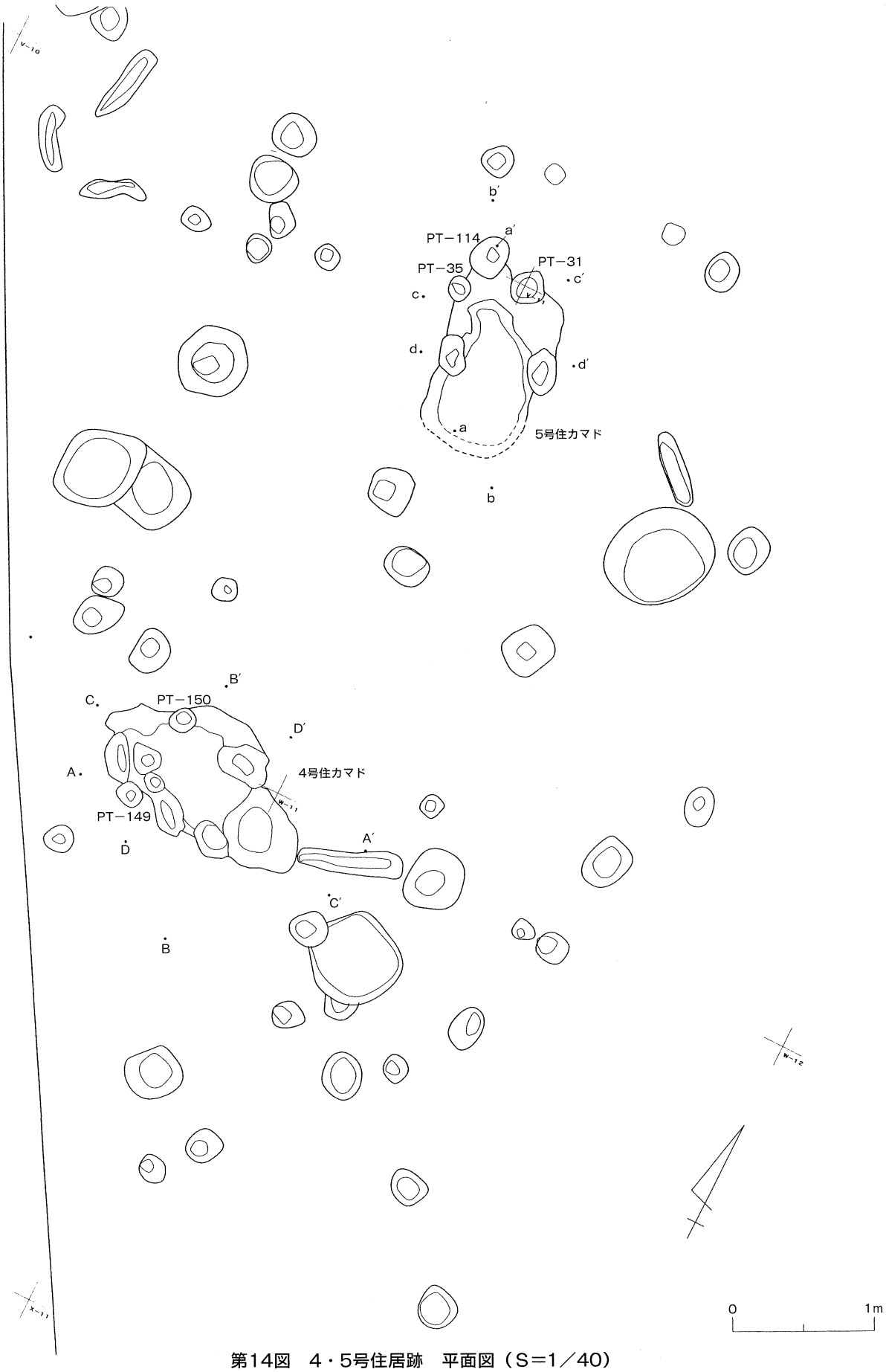
第11図　2号住居跡　カマド完掘図（S=1／30）



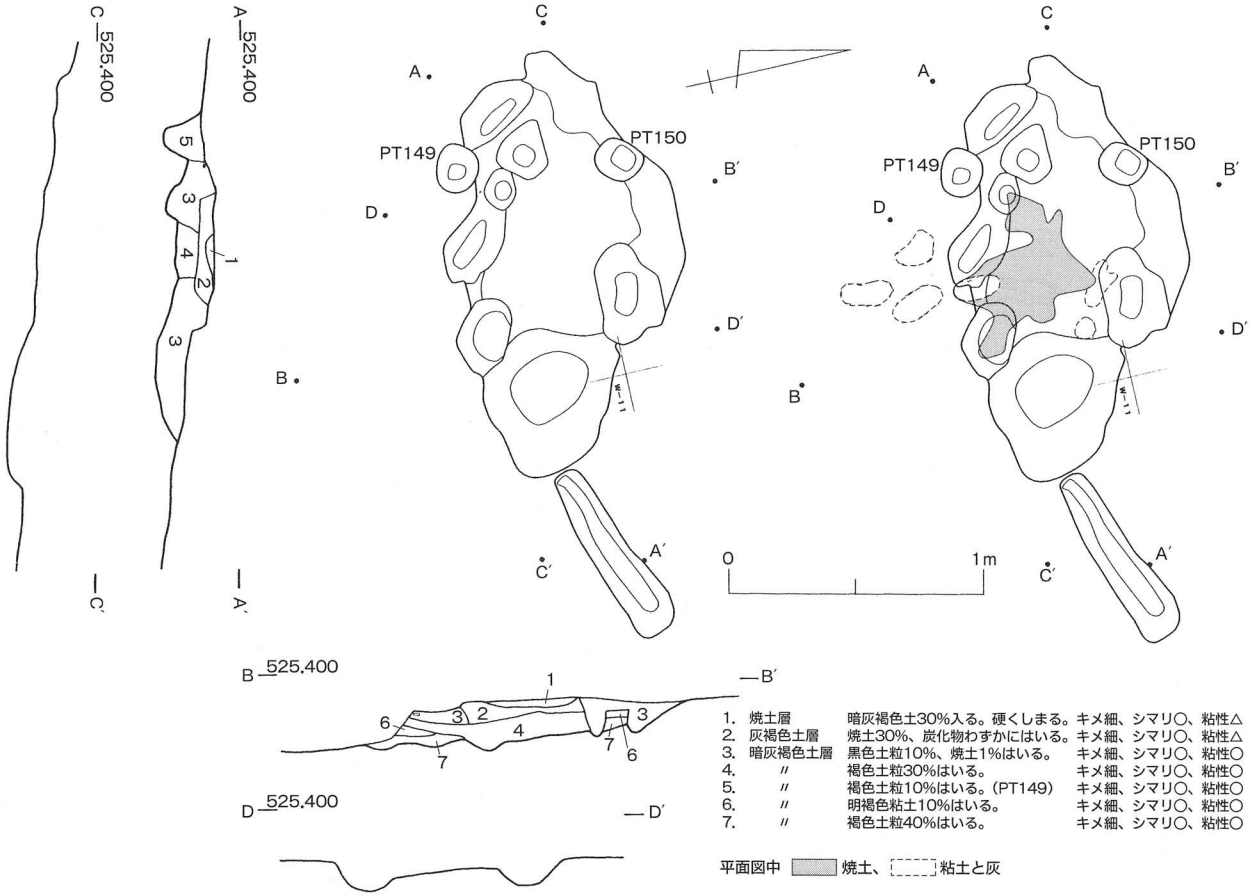
第12図　6・7号住居跡　カマド完掘図（S=1／30）



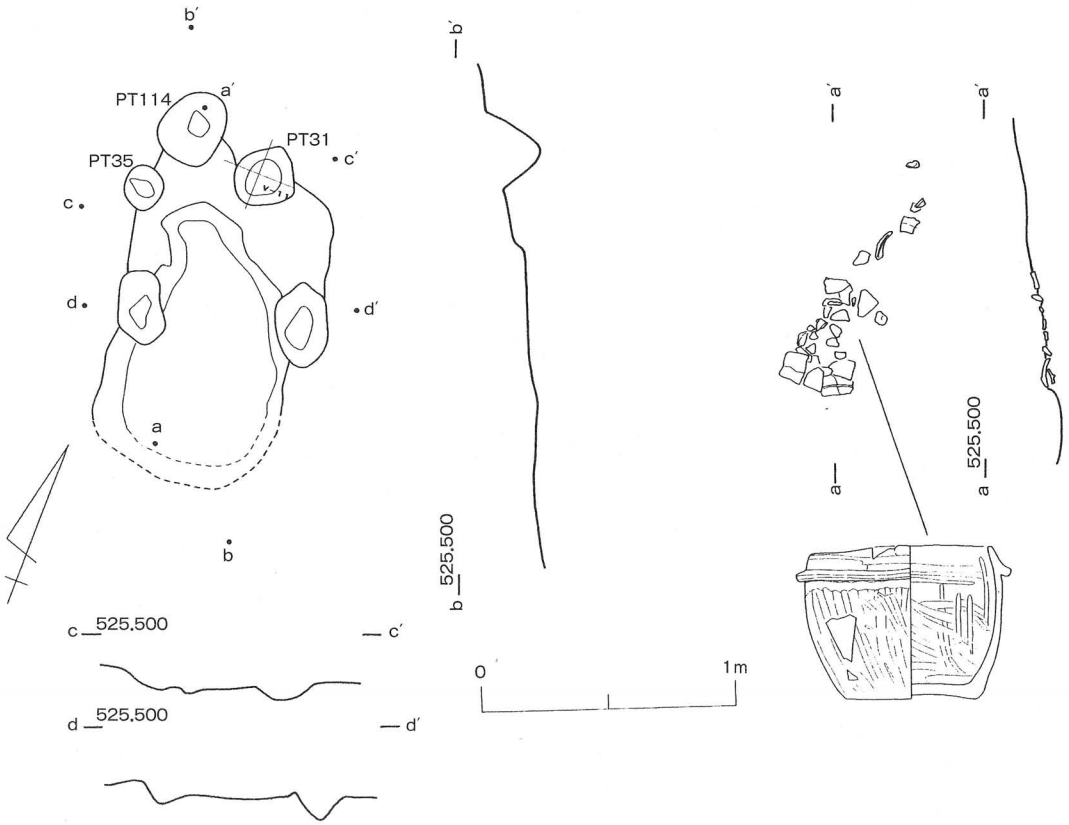
第13図　2・6・7号住居跡　遺物出土状況（S=1／60）



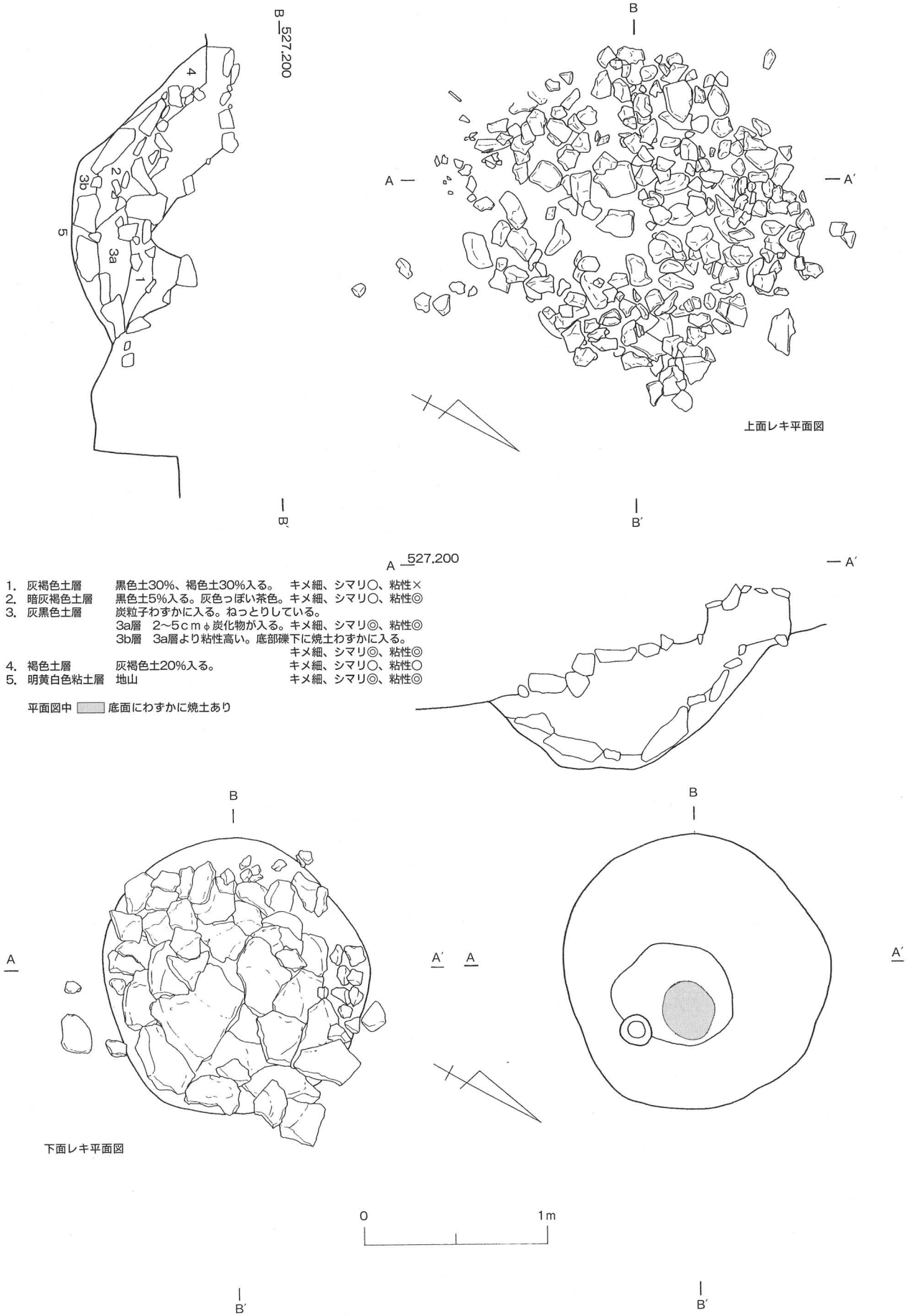
第14図　4・5号住居跡　平面図（S＝1／40）



第15図　4号住居跡　カマド平・断面図、焼土検出状況（S=1／30）

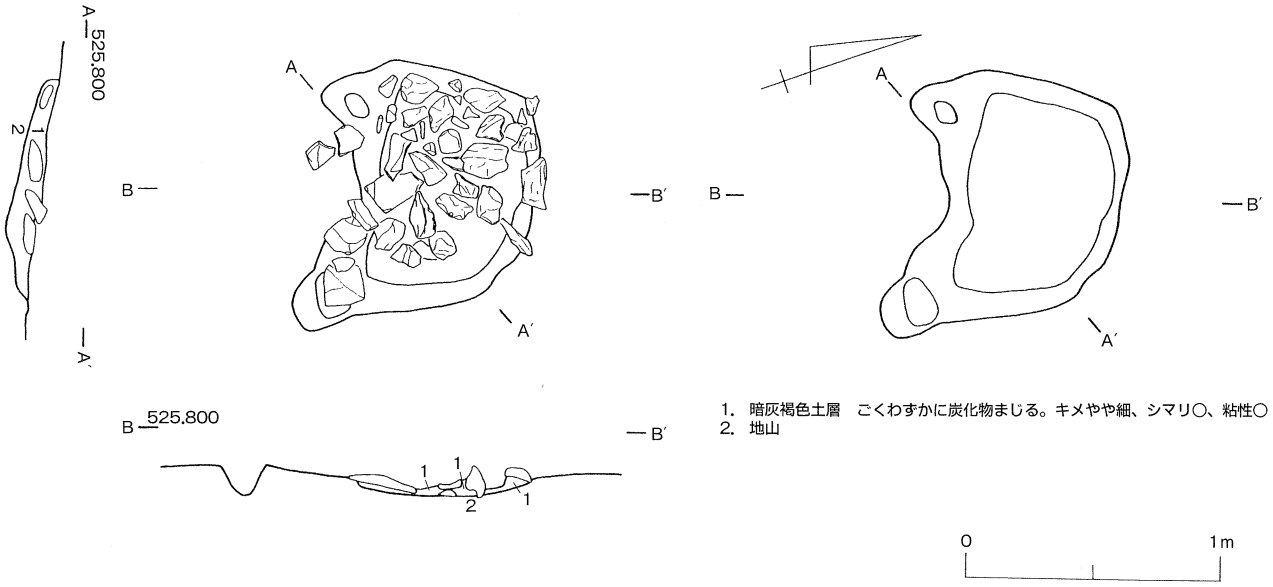


第16図　5号住居跡　カマド平・断面図、遺物出土状況（S=1／30）

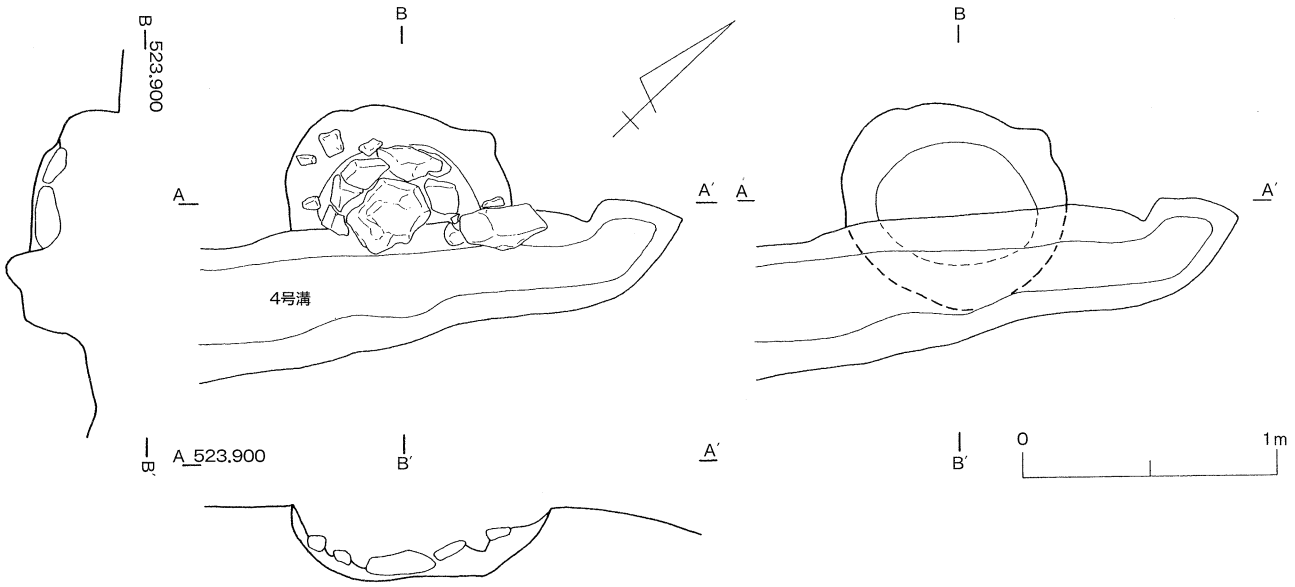


第17図　1号集石　断面図、上面レキ・下面レキ平面図、完掘図（S＝1／30）

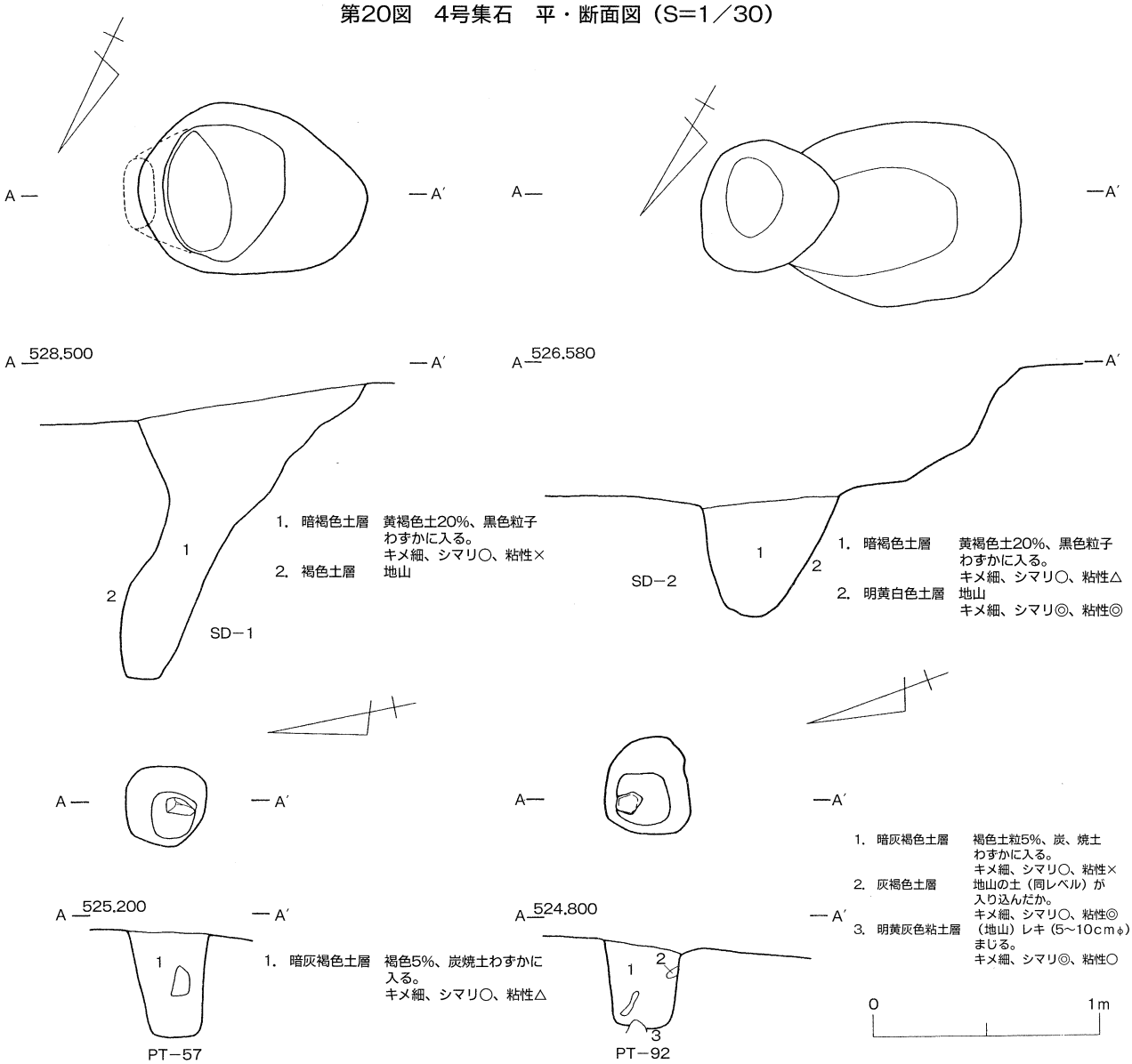
第18図　2号集石　平・断面図（S=1／30）



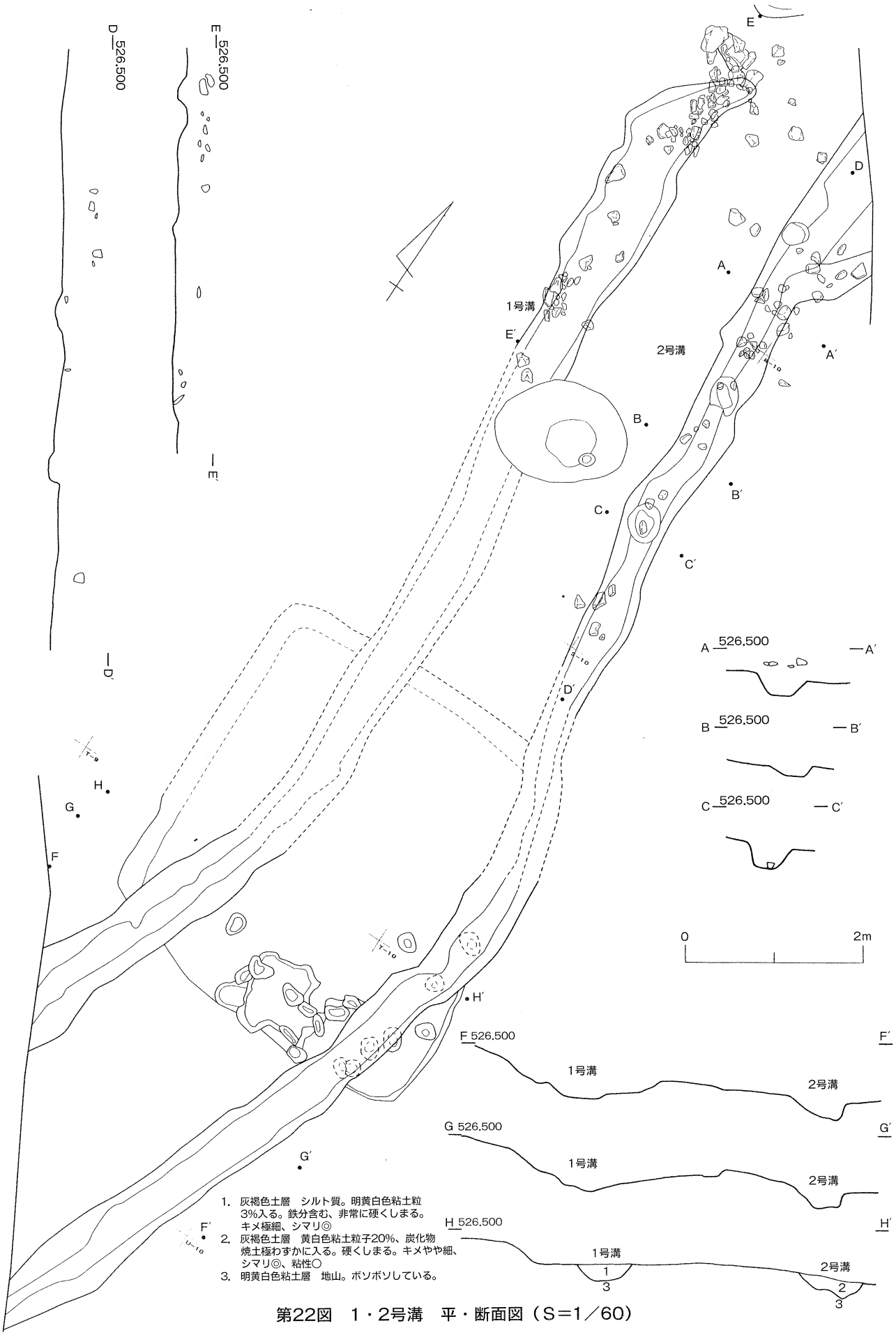
第19図　3号集石　平・断面図（S=1／30）



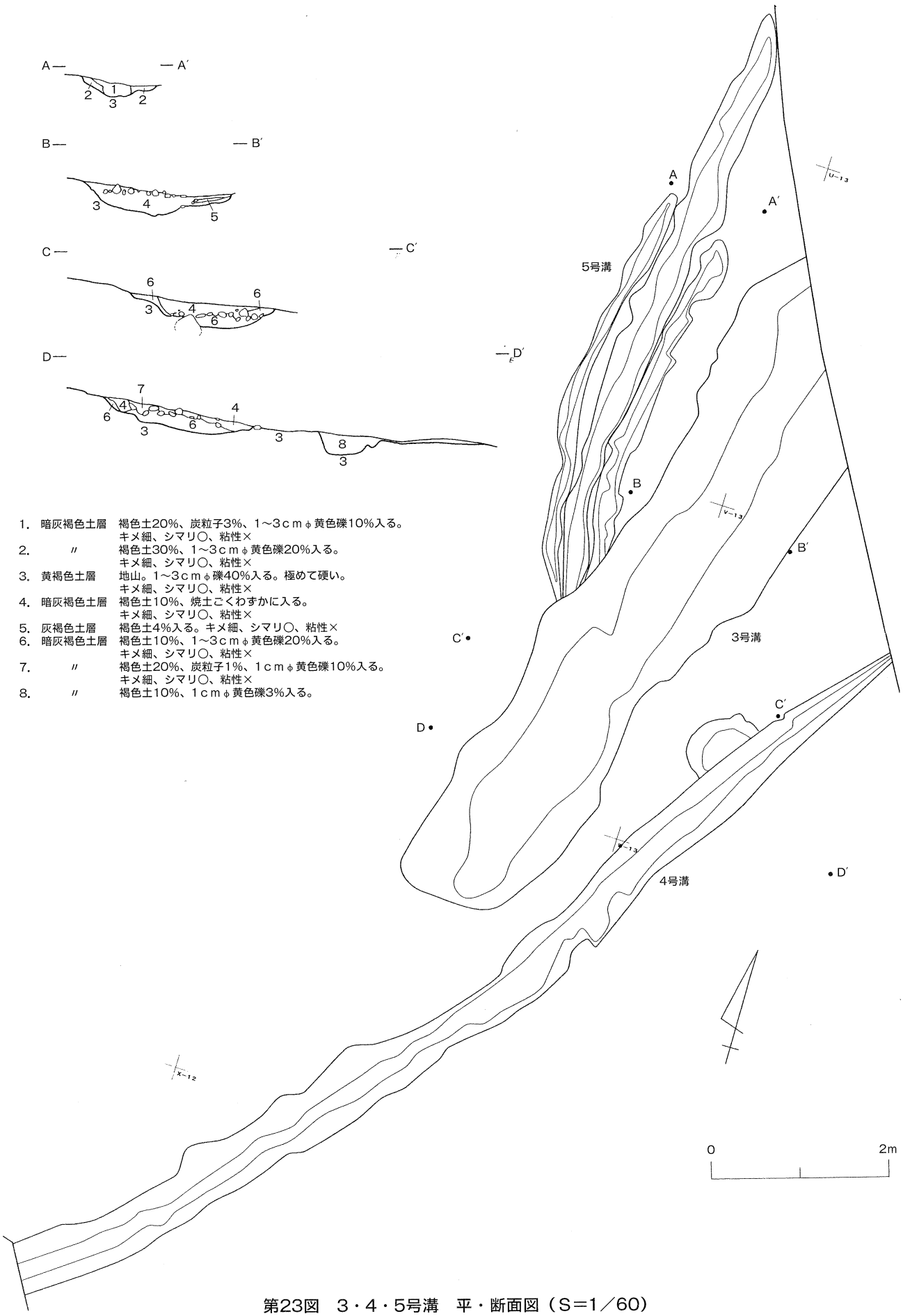
第20図　4号集石　平・断面図（S=1／30）



第21図　SD−1・2、PT−57・92　平・断面図（S=1／30）

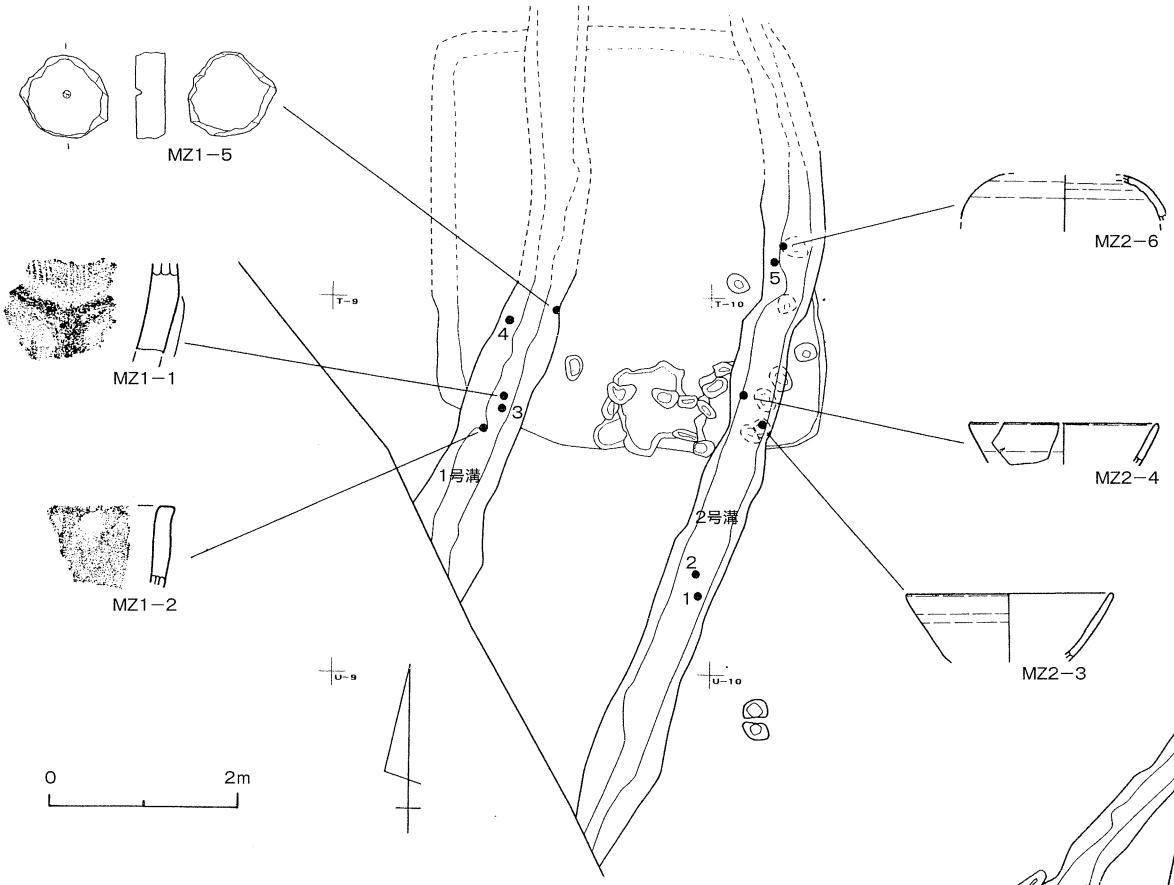


第22図　1・2号溝　平・断面図（S＝1／60）

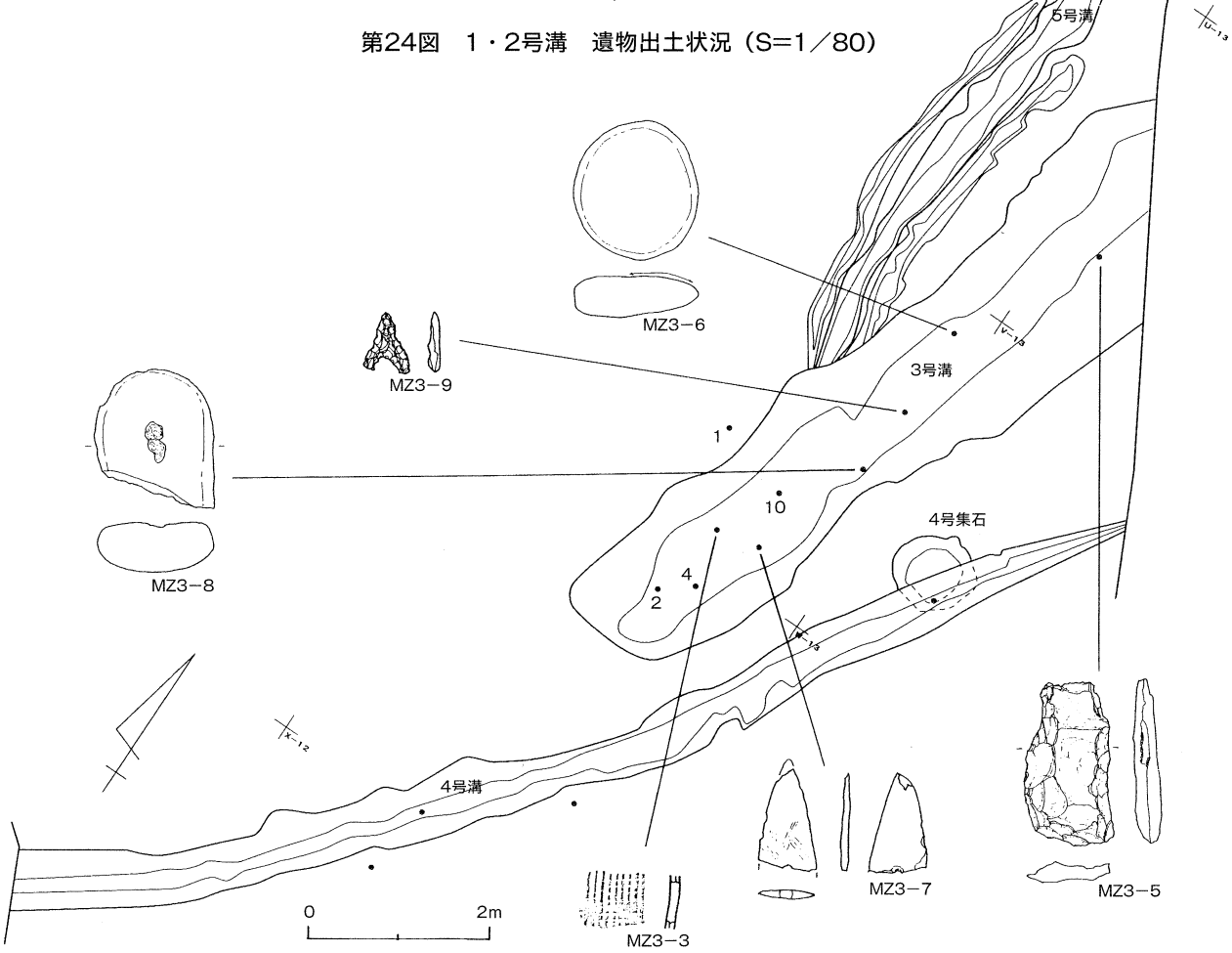


1. 暗灰褐色土層　褐色土20%、炭粒子3%、1～3cmφ黄色礫10%入る。
　　キメ細、シマリ○、粘性×
2. 〃　褐色土30%、1～3cmφ黄色礫20%入る。
　　キメ細、シマリ○、粘性×
3. 黄褐色土層　地山。1～3cmφ礫40%入る。極めて硬い。
　　キメ細、シマリ○、粘性×
4. 暗灰褐色土層　褐色土10%、焼土ごくわずかに入る。
　　キメ細、シマリ○、粘性×
5. 灰褐色土層　褐色土4%入る。キメ細、シマリ○、粘性×
6. 暗灰褐色土層　褐色土10%、1～3cmφ黄色礫20%入る。
　　キメ細、シマリ○、粘性×
7. 〃　褐色土20%、炭粒子1%、1cmφ黄色礫10%入る。
　　キメ細、シマリ○、粘性×
8. 〃　褐色土10%、1cmφ黄色礫3%入る。

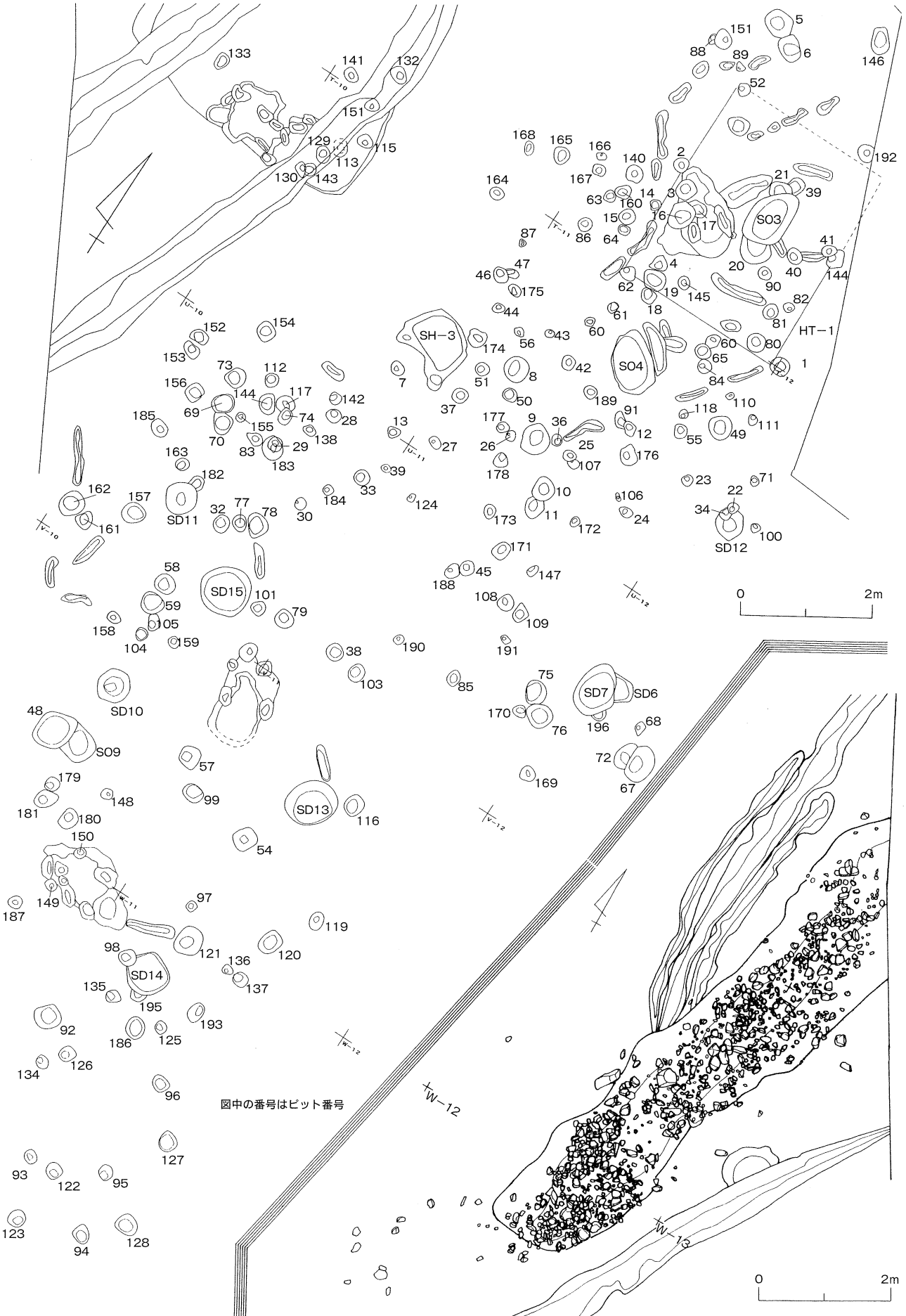
第23図　3・4・5号溝　平・断面図（S＝1／60）



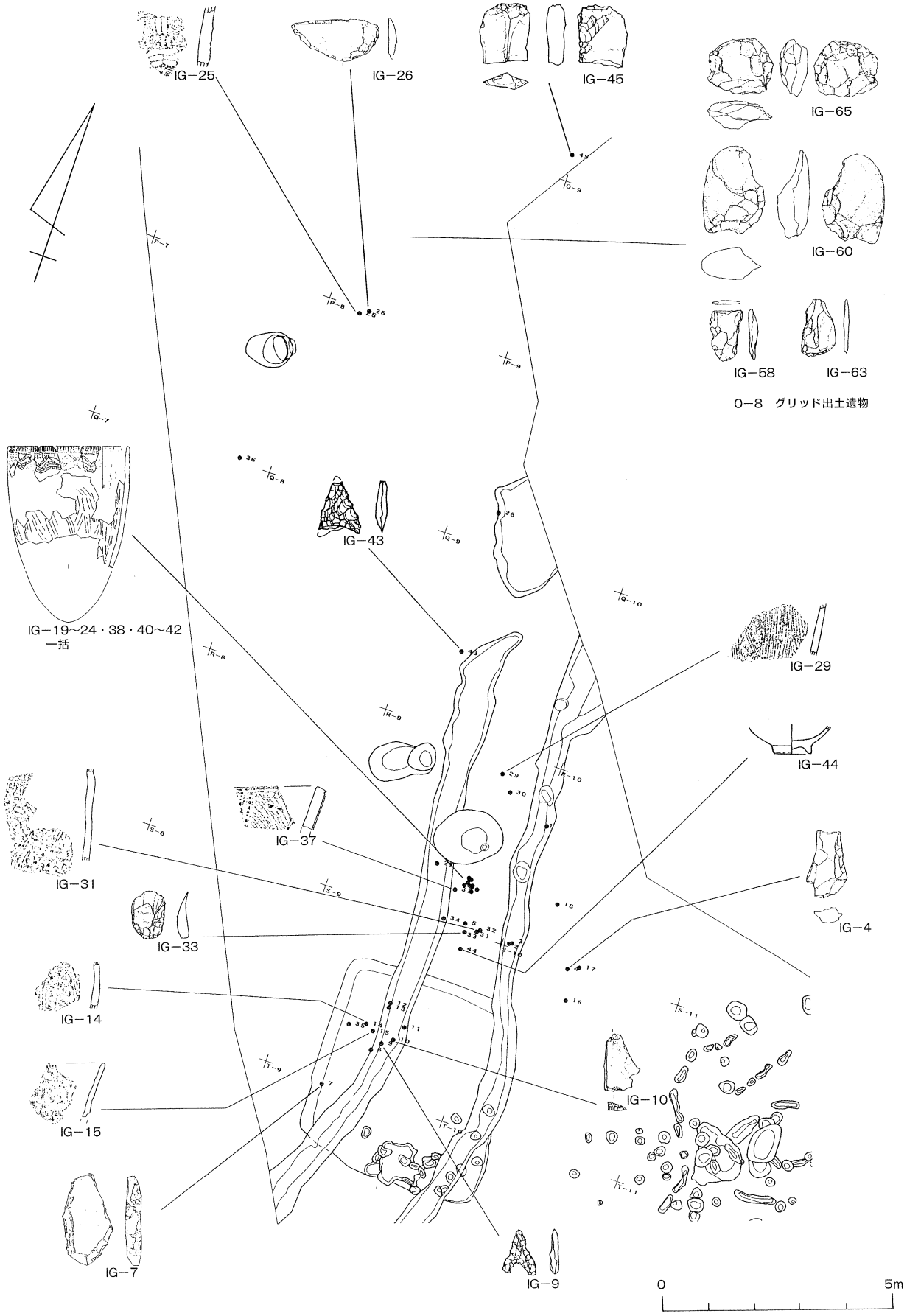
第24図　1・2号溝　遺物出土状況（S=1／80）



第25図　3・4・5号溝　遺物出土状況（S=1／80）

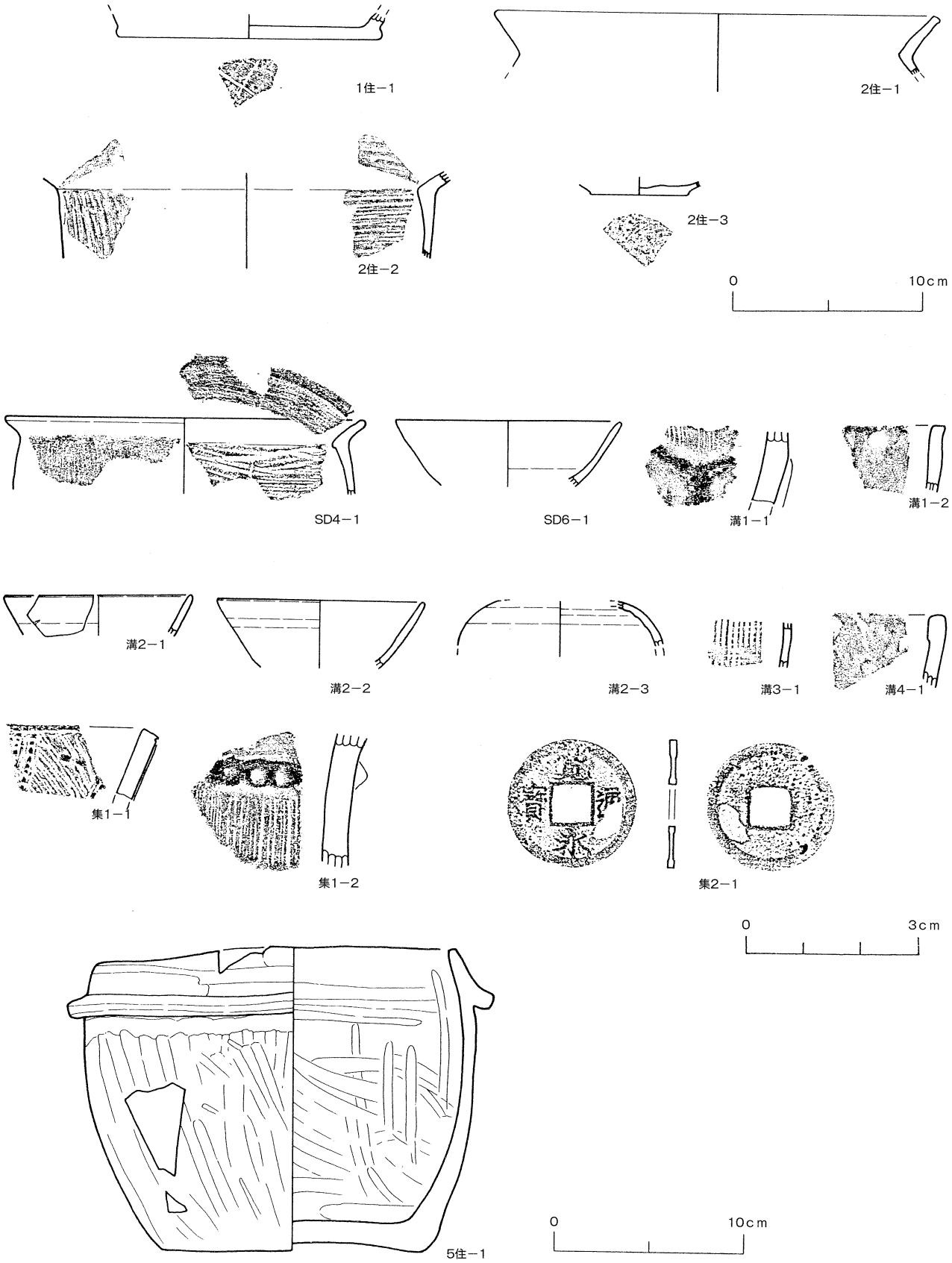


第26図　1号掘立(HT−1)と柱穴群(上)・3号溝レキ出土状況(下)　(S=1／80)

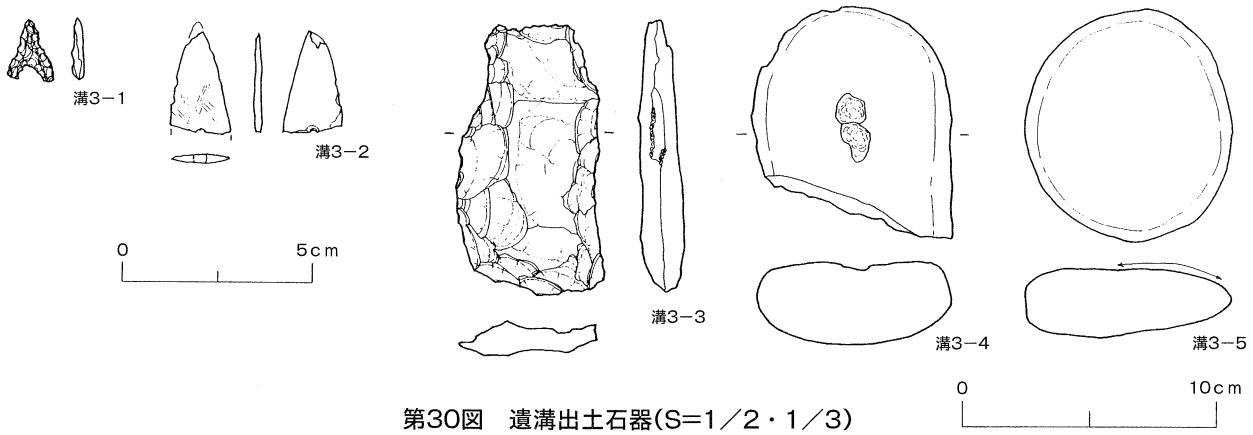


第27図　遺構外　遺物出土状況（1）（S＝1／120）

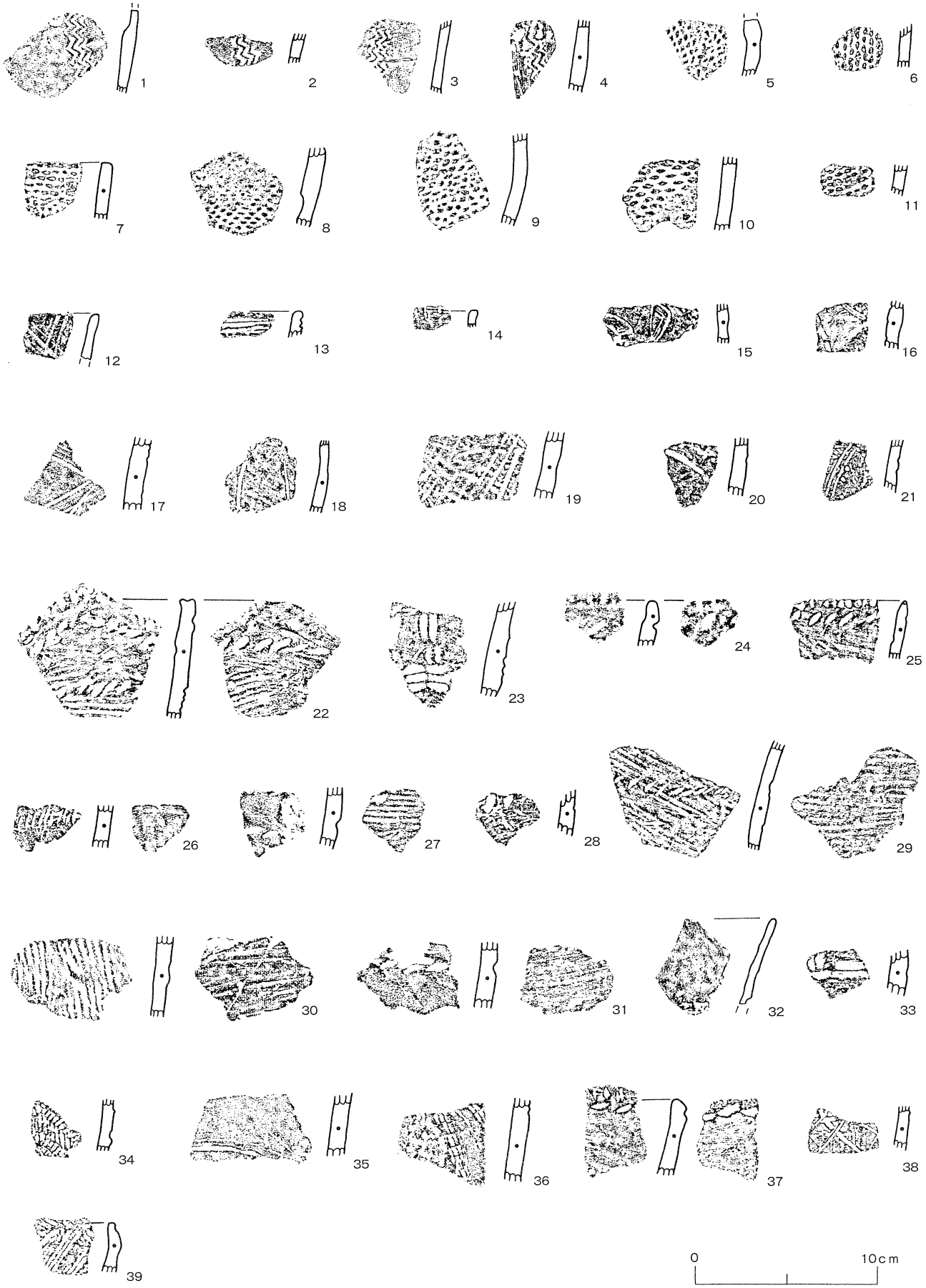
第28図　遺構外　遺物出土状況（2）（S＝1／120）



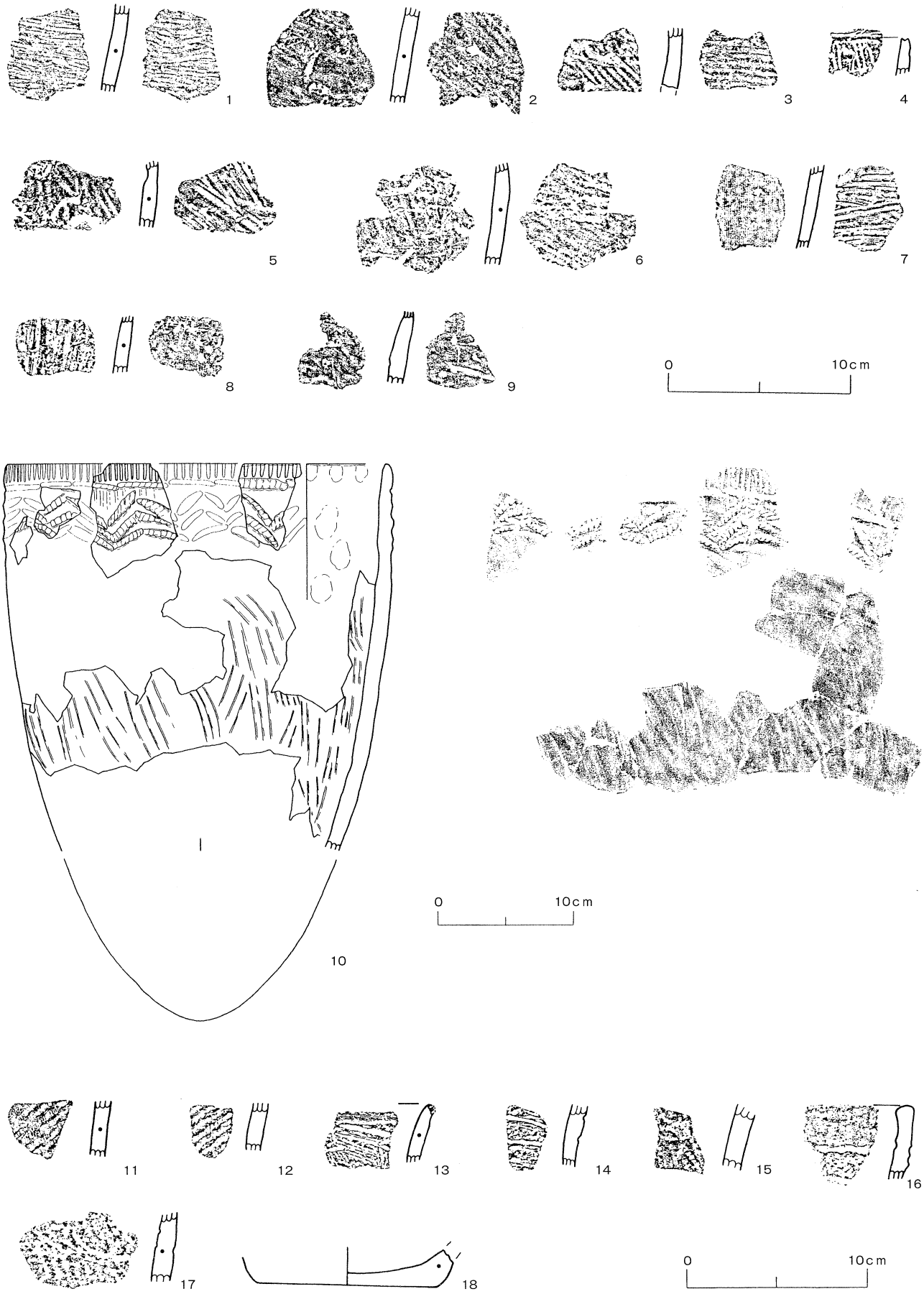
第29図　遺構出土遺物（S＝1／3・1／1）



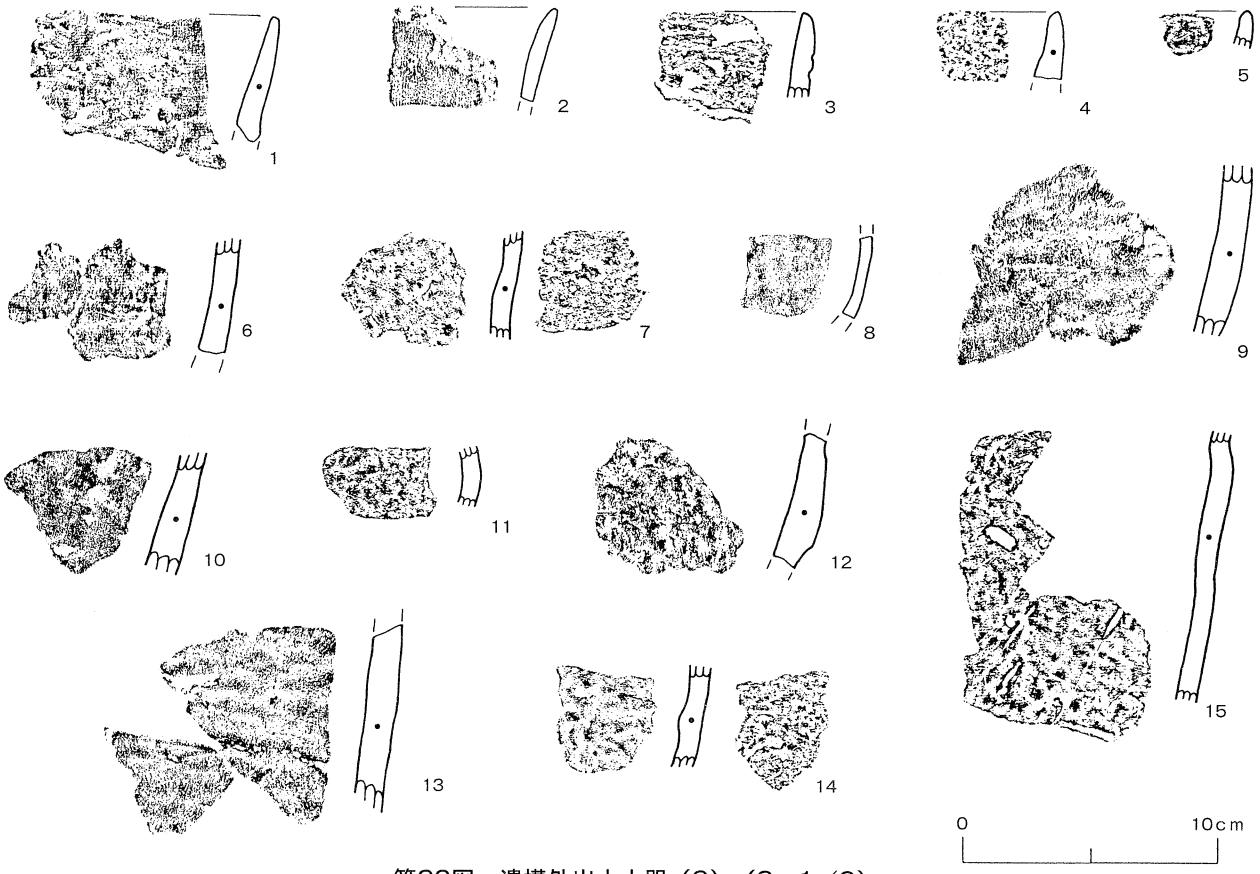
第30図　遺溝出土石器(S=1／2・1／3)



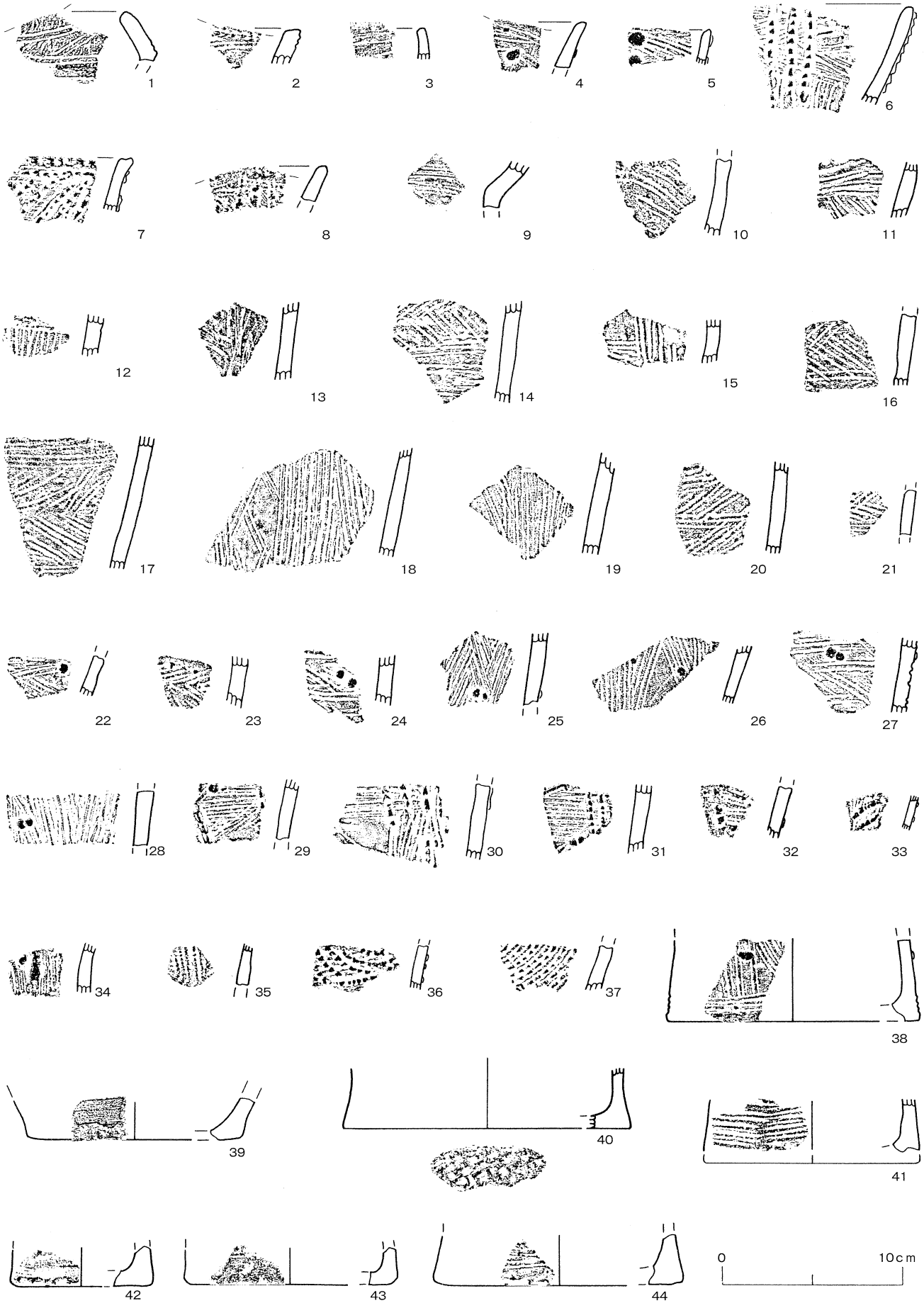
第31図　遺構外出土土器（1）（S＝1／3）



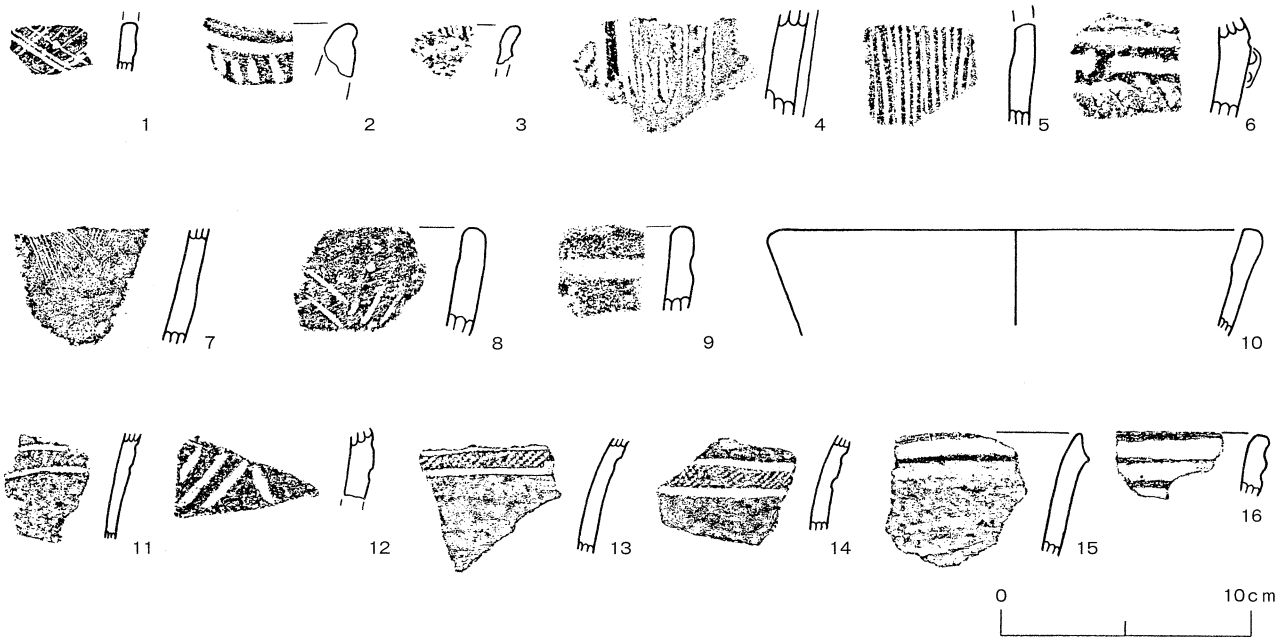
第32図　遺構外出土土器（2）（S=1／3・1／4）

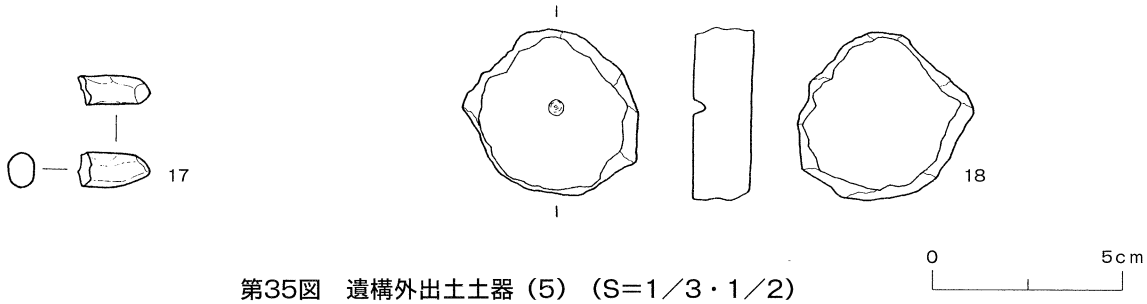


第33図　遺構外出土土器（3）（S＝1／3）

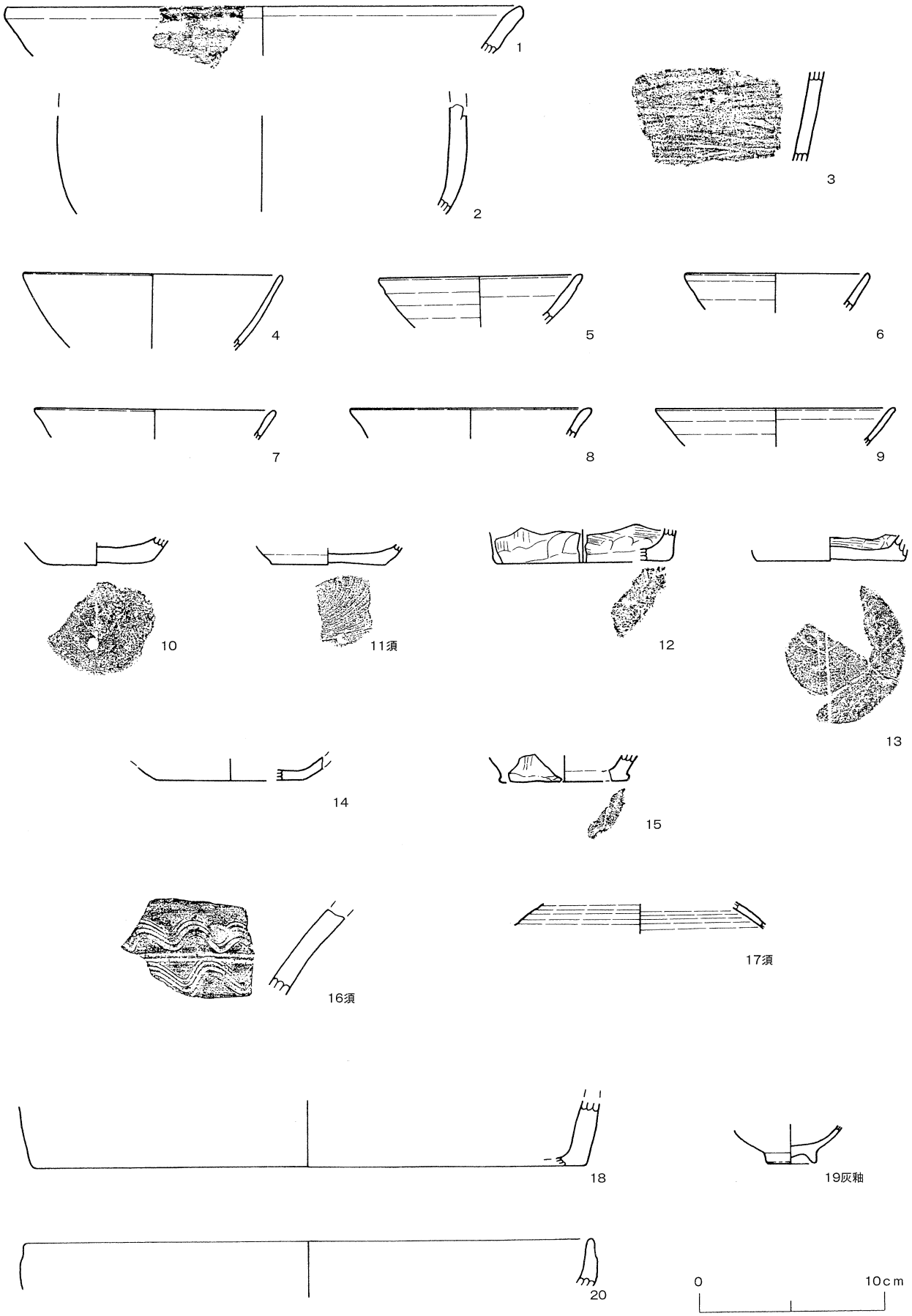


第34図　遺構外出土土器（4）（S=1／3）

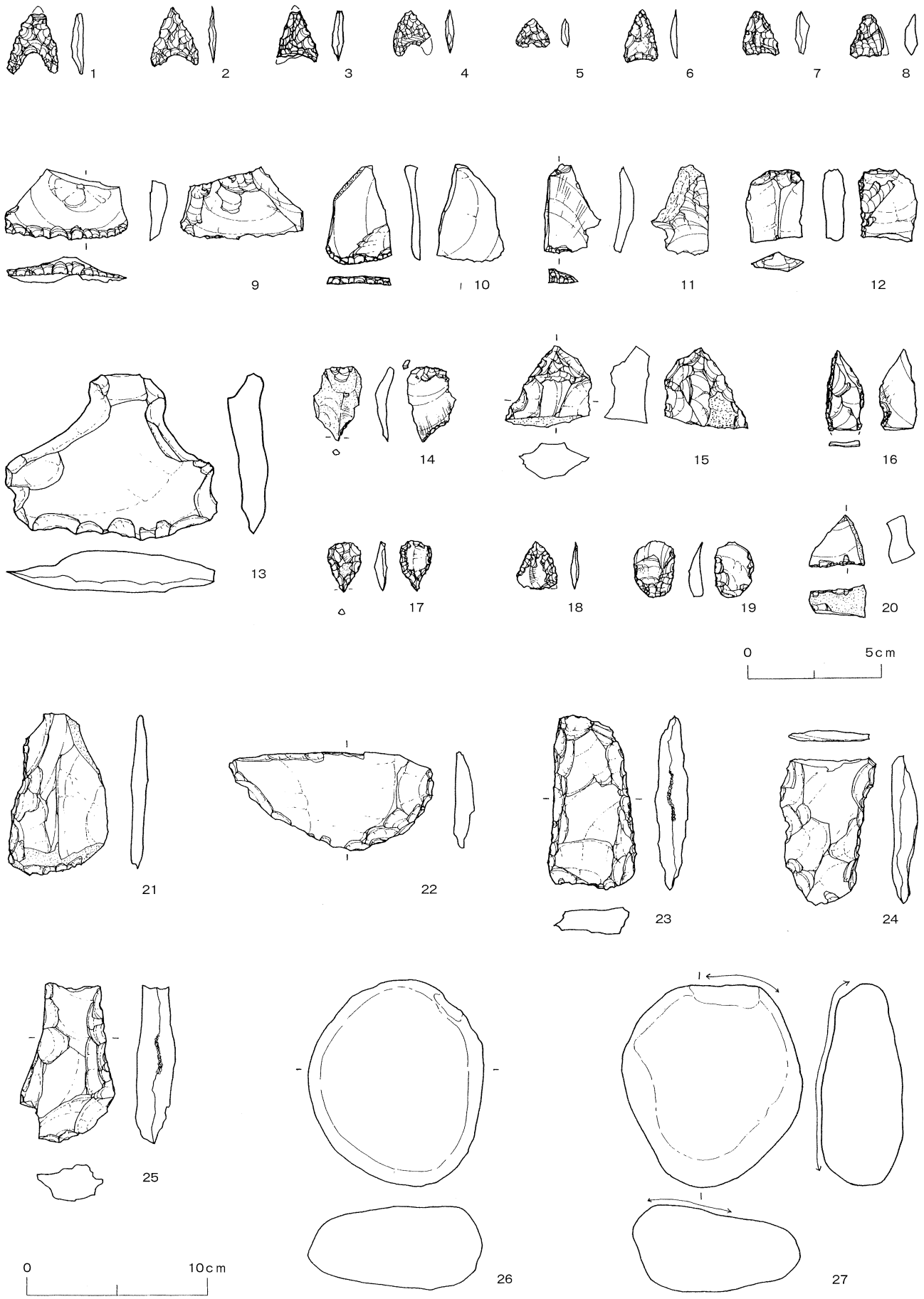




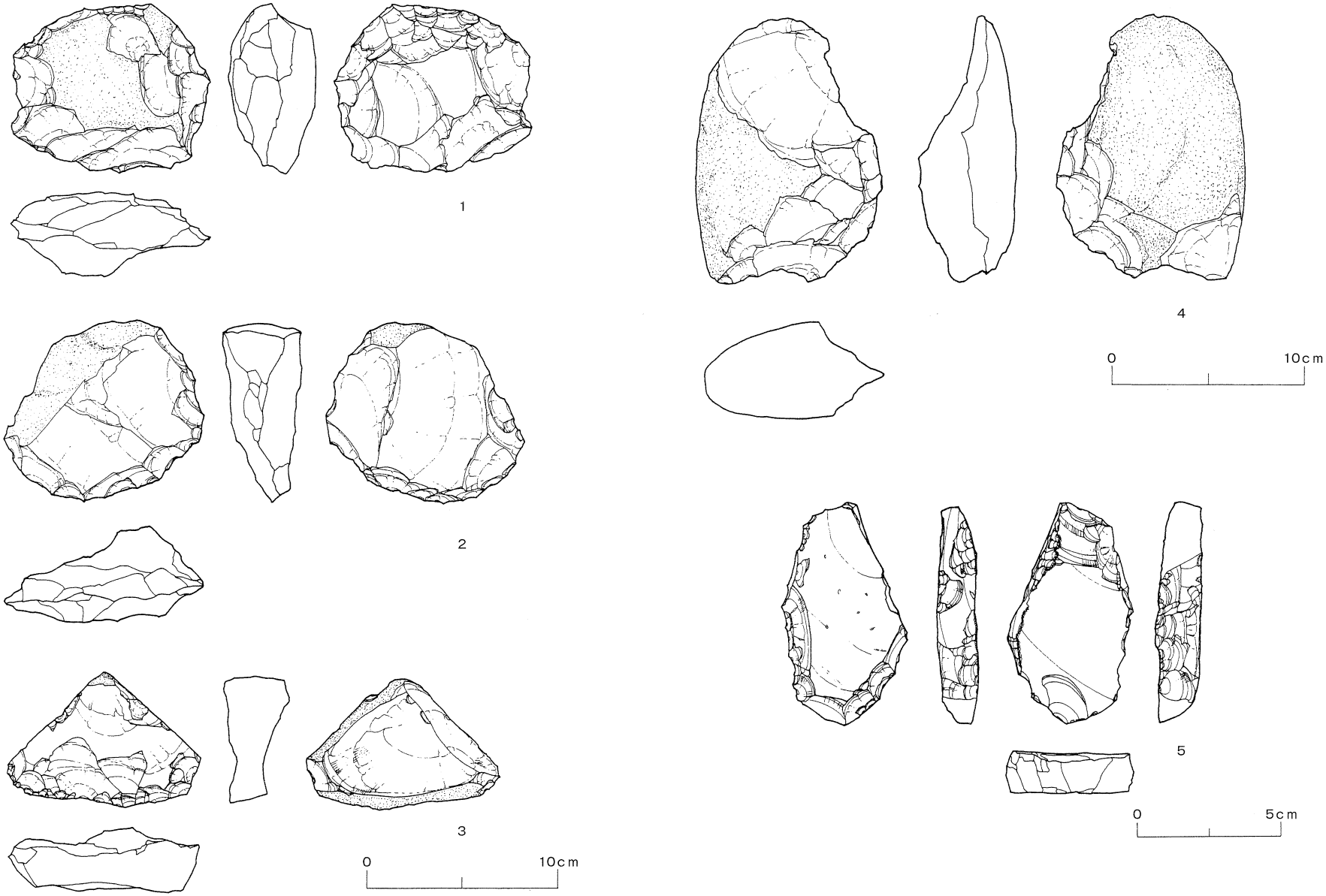
第35図　遺構外出土土器（5）（S=1／3・1／2）



第36図　遺構外出土土器（6）（S＝1／3）



第37図　遺構外出土石器（1）（S=1／2・1／3）



第38図　遺構外出土石器（2）（S=1／2・1／3）

番号	遺　跡　名	時　代　区　分	備　　考
1	次第窪遺跡	縄文・弥生・古墳・平安・中世	平成13年度　韮崎市教育委員会調査
2	宿　尻　遺　跡	縄文・古墳・平安	平成３年度　山梨県埋蔵文化財ｾﾝﾀｰ調査 平成12年度　韮崎市遺跡調査会調査
3	能　見　城　跡	中世	平成13年度　韮崎市教育委員会調査 平成９年度　韮崎市教育委員会調査
4	伊藤窪第２遺跡	縄文・古墳・中世	平成２年度　韮崎市遺跡調査会調査
5	中　道　遺　跡	縄文・平安	昭和60年度　韮崎市教育委員会調査
6	中田小学校遺跡	縄文・弥生・奈良・平安	昭和59年度　韮崎市教育委員会調査
7	新　府　城　跡	中世	国指定史跡
8	金　山　遺　跡	中世～近世	昭和60年度　韮崎市教育委員会調査
9	前　田　遺　跡	平安	昭和62年度　韮崎市教育委員会調査
10	宮ノ前第２遺跡	奈良・平安	平成２年度　韮崎市教育委員会調査
11	宮　ノ　前　遺　跡	縄文・平安	昭和63年度～平成２年度　韮崎市遺跡調査会調査
12	三　宮　地　遺　跡	縄文・平安	平成10年度　韮崎市教育委員会調査
13	堂　の　前　遺　跡	弥生・奈良・平安	昭和61年度　韮崎市教育委員会調査
14	坂　井　遺　跡	縄文	志村滝蔵『坂井』地方書院　昭和40年 平成10年度　韮崎市遺跡調査会調査
15	坂　井　南　遺　跡	古墳・平安	昭和60年度・63年度　韮崎市教育委員会調査

第1表　次第窪遺跡と周辺の遺跡

	1･2区東側				
No	土　　層	混　　入　　物	キメ	シマリ	粘性
1	暗灰褐色土層	灰褐色土30%入る。	細	△	×
2	暗褐色土層	灰褐色土30%入る。	細	△	×
3	暗灰褐色土層	黒色土20%、暗褐色土(地山）30%入る。漸移層。	細	○	◎
4	黒褐色土層	炭化物･焼土わずかに入る。	細	○	○
5	灰黒褐色土層	SH‐2覆土。炭化物わずか、焼土ごくわずかに入る。	細	○	○
6	暗灰褐色土層	MZ‐2覆土。炭化物ごくわずかに入る。5層より明るい。	細	○	○
7	黄褐色土層	ロームブロック中に暗褐色土わずかに入る。整地層か。	粗	◎	◎
8	暗灰褐色土層	ローム粒子20%、3～5cmφロームブロック5%入る。	細	○	×
9	暗黄褐色土層	暗灰褐色土中にローム粒子入る。　整地層か。	粗	○	◎
		9a層　ローム粒子30%入る。	細	◎	△
		9b層　ローム粒子40%入る。	細	◎	○
10	暗灰褐色土層	黒色土20%入る。	細	○	△
11	灰褐色土層	シルト質。炭化物ごくわずかに入る。	極細	○	×
12	暗灰褐色土層	1～2cmφ小礫5%入る。	ヤヤ細	○	×
13	灰白褐色土層	白色粒子3%、鉄分を含む褐色礫(2～5mmφ）7%入る。	粗	◎	△
14	暗褐色土層	3～5cmφロームブロック30%、ローム粒子10%入る。	粗	○	○
15	暗褐色土層	1～3cmφロームブロック5%、ローム粒子10%入る。	ヤヤ細	○	×
16	暗褐色土層	地山。	細	◎	○
17	暗灰褐色粘土層	拳大礫入る。	細	◎	◎
18	暗灰褐色土層	18a層　粘性やや高い	細	◎	○
		18b層　粘性高い	細	◎	◎
19	暗灰褐色土層	3mmφ小礫7%、3cmφ小礫1%入る。	ヤヤ細	△	○
20	灰黒褐色土層	黒褐色土中に灰褐色土層が入る。4層より灰色が強い。	細	○	○
21	暗灰褐色土層	褐色土20%、1～3cmφローム粒子10%入る。	細	○	△
22	欠番				
23	灰褐色土層	ローム粒子20%、鉄分細粒多く入る。	細	○	○
24	暗灰褐色土層	ローム粒子5%、炭化物ごくわずかに入る。	細	○	○
25	暗灰褐色土層	ローム粒子20%、3～5cmφ礫10%入る。	細	◎	△
26	暗灰褐色土層	ローム粒子5%、3～5cmφ礫3%入る。	細	○	◎
27	黄褐色土層	ローム粒子50%、暗灰褐色土50%入る。	ヤヤ粗	○	○
28	灰色土層	鉄分やや多い。	細	○	○
29	黒灰色土層	1～3cmφ黄褐色(地山)粒子7%入る。粘性高い。	細	○	◎
30	黄褐色土層	地山。　砂礫質。金色がかる。	粗	○	△
	1･2区西側				
No	土　　層	混　　入　　物	キメ	シマリ	粘性
1	黒褐色土層	5～7cmφ褐色土（地山）塊斑に10%入る。	細	×	×
2	暗灰褐色土層	黒褐色土40%、褐色地山粒子10%入る。	細	×	×
3	暗灰褐色土層	黒褐色土30%、褐色地山粒子10%入る。	細	×	×
4	灰褐色土層	5cmφ礫10%入る。ボソボソしている。	細	×	○
5	暗灰褐色土層	褐色土30%、5～10cmφ地山塊斑に入る。	細	×	×
6	明灰褐色土層	MZ‐2覆土	細	○	○
7	暗灰褐色土層	ロームブロック・炭粒子・黒褐色土・褐色土が斑に入る。整地層か。	細	◎	×
8	暗灰褐色土層	褐色土30%入る。	細	○	×
9	明灰褐色土層	9a層　シルト質。	細	○	×
		9b層　シルト質。褐色土20%入る。	細	○	×
10	暗灰褐色土層	明黄灰色土30%入る。漸移層。	細	○	×

第2表　調査区土層説明一覧（1）

11	灰褐色土層	粘質土。	細	◎	◎
12	暗灰褐色土層	褐色土30%、ローム粒子40%入る。	細	○	○
13	暗灰褐色土層	褐色土30%、ローム粒子3%入る。	細	×	×
14	暗灰褐色土層	シルト質。褐色土30%、3cmφローム粒子斑に3%入る。	細	○	×
15	暗灰褐色土層	シルト質。褐色土30%、3cmφローム粒子1%入る。	細	○	×
16	暗灰褐色土層	黒色土20%、褐色土10%入る。	細	×	×
17	暗灰褐色土層	黒色土20%、褐色土20%入る。	細	×	×
18	灰褐色土層	褐色土中に暗褐色土斑に30%入る。	細	○	×
19	灰褐色土層	MZ‐1覆土	極細	◎	◎
20	明白色粘土層	地山。粘性きわめて高い。	細	◎	◎
21	暗灰褐色粘土層	地山。粘性きわめて高い。	細	◎	◎
22	灰褐色土層	黄褐色土粒子多く入る。	細	×	×
23	暗灰褐色土層	シルト質。黄褐色土10%、炭粒子ごくわずかに入る。	細	○	×
24	暗褐色土層	黄褐色土10%、炭粒子3%入る。	細	○	×
25	褐色土層		細	×	×
26	明褐色土層	地山。	細	×	×
	2区西側南				
No	土　層	混　入　物	キメ	シマリ	粘性
1	暗灰褐色土層	褐色土30%入る。	細	○	△
2	暗灰褐色土層	褐色土20%入る。	細	○	○
3	灰色粘土層	地山。鉄分多く、極めて硬い。	細	◎	◎
	P8				
No	土　層	混　入　物	キメ	シマリ	粘性
1	暗黄褐色土層	1cmφローム粒子5%入る。	細	○	×
2	灰褐色土層	褐色土中に暗褐色土が斑に30%入る。	細	○	×
3	暗褐色土層	炭粒子3%、黄褐色土粒子10%入る。やや黒い層。	細	△	×
4	暗褐色土層	炭粒子1%、黄褐色土粒子40%入る。	細	○	×
5	暗灰褐色土層	黄褐色土粒子10%、炭粒子ごくわずかに入る。灰色でシルト質。Q9～S10セクション第1層と同一。	細	○	×
6	撹乱		細	○	×
7	明褐色土層	地山。黄褐色土粒子が入る。	細	○	×
8	暗褐色土層	炭粒子1%、黄褐色粒子20%入る。3層よりはやや黄褐色土が多い。	細	△	○
	Q9‐S10				
No	土　層	混　入　物	キメ	シマリ	粘性
1	暗灰褐色土層	最も灰色の層、7より黒い。	細	○	×
2	暗褐色土層	褐色土中に黒色粒子20%入る。	細	○	×
3	褐色土層	漸移層。	細	○	×
4	暗黄褐色土層	黄褐色粒土中にロームブロック、灰褐色土40%、炭化物微量に入る。極めて硬い。	細	○	◎
5	暗灰褐色土層	5a層　暗黄褐色土30%、黒色粒子3%入る。6層より明るい。	細	○	×
		5b層　5aよりも黄色い、暗黄褐色土40%入る。	細	○	×
6	暗灰褐色土層	6a層　暗灰褐色土中に暗黄褐色土20%、黒色粒子3%、炭化物微量に入る。	細	○	×
		6b層　6a層が粘質になったもの。	細	△	×
7	褐色土層	灰褐色粒土10%、炭化物5%入る。	細	△	×
8	褐色土層	灰褐色粒土20%、炭化物3%入る。7層より灰白色。	細	○	×
9	暗灰褐色土層	黄褐色土3%、暗黄褐色土30%、炭化物7%入る。	細	○	×
10	褐色土層	地山。東西セクション地山と同一。	細	◎	×
11	明黄白色粘土層	地山。	細	◎	◎
12	灰褐色土層		細	△	◎
13	暗灰褐色土層	暗黄褐色土40%、炭化物70%入る。	細	○	×
14	暗灰褐色土層	暗黄褐色土10%、炭化物5%入る。	細	○	×
15	褐色土層	黄褐色土5%やや鉄分を含んだような色。	ヤヤ粗	△	×
16	暗黄灰色土層	黄褐色土30%、やや鉄分を含んだような色。漸移層。	粗	○	◎
17	暗灰褐色土層	黒色土10%、灰褐色土10%、黄褐色土20%入る。	ヤヤ細	○	×
18	灰褐色土層	黒色土5%、灰褐色土10%入る。17より灰色。	細	○	×
19	暗黄褐色土層	褐色土中にロームブロック40%、炭化物わずかに入る。	ヤヤ粗	○	○
20	暗黄褐色土層	褐色土中にロームブロック（3～5cmφ）45%、炭化物わずかに入る。	細	○	◎
	Q9‐T10				
No	土　層	混　入　物	キメ	シマリ	粘性
1	暗褐色土層	暗灰褐色土30%入る、東西ｾｸｼｮﾝ中の最も灰色の層。	細	△	×
2	暗褐色土層	黒色粒子30%、褐色土20%入る、東西セクション中の最も黒い層。	細	△	×
3	暗褐色土層	漸移層。	細	△	×
4	暗褐色土層	2層中の黒色粒子10%、褐色土30%入る。漸移層。	細	△	×
5	暗褐色土層	黒色土30%、炭化粒子わずかに入る。2層に次いで黒い層。	細	△	×
6	褐色土層	黄褐色粒子わずかに入る。	細	○	×
7	褐色土層	ロームブロックが40%程ボコボコ入る。極めて硬い。	粗	◎	◎
8	褐色土層	炭化粒子5%、黄褐色土3～5cmφブロック30%入る。硬い。	細	◎	○
9	暗褐色土層	炭化粒子10%、黄褐色粒子1cmφブロック20%入る。	細	◎	○
10	暗黄褐色土層	炭化粒子5%、黄褐色3～10cmφブロック50%入る。	ヤヤ粗	○	○
11	暗褐色土層	黄褐色粒子20%入る。	細	○	○
12	褐色土層	黄褐色粒子3～5cmφブロック30%入る。	細	○	○
13	褐色土層	黄褐色粒子10%入る。ボソボソしている。	ヤヤ細	△	×
14	暗褐色土層	黒色粒子10%入る。	細	○	×
15	灰褐色土層	鉄分入る。	細	○	×
16	明黄褐色土層	最下層。	細	○	○
17	褐色土層	地山。	細	○	◎

第3表　調査区土層説明一覧（2）

Pit no.	位　置	土　　層	混　　入　　物	きめ	しまり	粘性	切り合い	深さ (cm)
Pit-001	1住床面確認	黒灰褐色土層	褐色土粒子5%、炭化物わずかに入る。	細	○	×		47
Pit-002	1住西	暗灰褐色土層	褐色土粒子10%、炭化物·焼土わずかに入る。	細	○	×	不明	27
Pit-003	1住炉西	黒灰褐色土層	褐色土粒子5%、炭化物わずかに入る。	細	○	×	1住を切る	13
Pit-004	1住炉西	黒灰褐色土層	褐色土粒子5%、炭化物わずかに入る。	細	○	×	1住を切る	10
Pit-005	1住北	黒灰褐色土層	褐色土粒子5%入る。	細	○	×	PT-006に切られる	34
Pit-006	1住北	暗灰褐色土層	褐色土粒子5%入る。	細	○	×	PT-005を切る	23
Pit-007	SH-3西	黒灰褐色土層	褐色土粒子3%入る。SH-003よりも黒い。	細	○	×	SH-003を切る	17
Pit-008	1住西	暗灰褐色土層		細	○	×		14
Pit-009	1住西南	暗灰褐色土層	褐色土粒子10%入る。	細	○	△		15
Pit-010	1住西南	黒灰褐色土層	褐色土粒子10%入る。	細	○	×	PT-011を切る	13
Pit-011	1住西南	暗灰褐色土層	褐色土粒子20%入る。	細	○	×	PT-010に切られる	12
Pit-012	1住南	黒灰褐色土層		細	○	×	PT-091を切る	13
Pit-013	SH-3南	黒灰褐色土層		細	○	×		17
Pit-014	1住西	黒灰褐色土層	褐色土粒子5%、炭化物わずかに入る。	細	○	×		18.5
Pit-015	1住西	暗灰褐色土層	褐色土粒子10%入る。	細	○	×		15
Pit-016	1住内	暗灰褐色土層	褐色土粒子20%入る。	細	○	×	PT-017を切る	20
Pit-017	1住内	暗灰褐色土層	褐色土粒子30%入る。	細	○	×	PT-016に切られる	-
Pit-018	1住西	完掘により不明		細	○	×	PT-019と切り合う	24
Pit-019	1住西	暗灰褐色土層	褐色土粒子20%入る。	細	○	×	PT-018と切り合う	18
Pit-020	1住内	暗灰褐色土層	褐色土粒子20%入る。	細	○	×	SD-003に切られる	12
Pit-021	1住内	暗灰褐色土層	褐色土粒子20%入る°	細	○	×	SD-003に切られる、PT-039を切る	14
Pit-022	1住南	黒灰褐色土層		細	○	×	SD-012·PT-034を切る	13
Pit-023	1住南	黒灰褐色土層		細	○	×		11
Pit-024	1住南	黒灰褐色土層	炭化物1%入る。	細	○	○		13
Pit-025	1住南	暗灰褐色土層	焼土わずかに入る。	細	○	×	PT-107を切る	10.5
Pit-026	SH-3南	暗灰褐色土層	褐色土粒子20%入る。	細	○	×		11.5
Pit-027	SH-3南	黒灰褐色土層	焼土わずかに入る。	細	○	×		23
Pit-028	SH-3西南	黒灰褐色土層	炭化物·焼土わずかに入る。	細	○	×		13
Pit-029	SH-3西南	黒灰褐色土層	炭化物わずかに入る。	細	○	×		23
Pit-030	SH-3西南	黒灰褐色土層	炭化物·焼土わずかに入る。	細	○	×		18.5
Pit-031	V-11真下	黒灰褐色土層		細	○	×		7
Pit-032	V-11北西	黒灰褐色土層	炭化物わずかに入る。	細	○	×		11
Pit-033	U-11南	暗灰褐色土層	褐色土粒子20%入る。	細	○	×		14
Pit-034	1住南	暗灰褐色土層	褐色土粒子20%入る°	細	○	×	PT-022に切られる、SD-012を切る	8
Pit-035	V-11西	暗灰褐色土層	褐色土粒子20%、焼土わずかに入る。	細	○	×	SD-005に切られる	9
Pit-036	1住南	暗灰褐色土層	褐色土粒子20%、焼土わずかに入る。	細	○	×		13
Pit-037	SH-3南	黒灰褐色土層	炭化物わずかに入る。	細	○	×		12
Pit-038	V-11東	暗灰褐色土層	褐色土粒子20%、焼土わずかに入る。	細	○	×		10
Pit-039	1住内	暗灰褐色土層	褐色土粒子20%入る。	細	○	×	PT-021に切られる	12
Pit-040	1住床面確認	暗灰褐色土層	褐色土粒子20%入る。	細	○	×		7.5
Pit-041	1住内	暗灰褐色土層	褐色土粒子25%入る。	細	○	×	PT-144を切る	8
Pit-042	1住内	暗灰褐色土層	褐色土粒子30%入る。	細	○	×		9
Pit-043	1住内	暗灰褐色土層	褐色土粒子20%入る。	細	○	×		14.5
Pit-044	1住内	暗灰褐色土層	褐色土粒子20%入る。	細	○	×		12.5
Pit-045	U-11南東	暗灰褐色土層	褐色土粒子20%、炭化物わずかに入る。	細	○	×		13
Pit-046	SH-3東北	黒灰褐色土層	焼土·炭化物わずかに入る。	細	○	×	PT-047を切る	21
Pit-047	SH-3東北	暗灰褐色土層	褐色土粒子20%入る。	細	○	×	PT-046に切られる	14
Pit-048	W-11北西	黒灰褐色土層	焼土わずかに入る	細	○	×	SD-009を切る	17
Pit-049	1住内	暗灰褐色土層	炭化物わずかに入る、焼土ごくわずかに入る。	細	○	×		13
Pit-050	SH-3東	暗灰褐色土層	褐色土粒子30%入る。	細	○	×		8
Pit-051	SH-3東	暗灰褐色土層	褐色土粒子30%入る。	細	○	×		11
Pit-052	1住北	暗灰褐色土層	褐色土粒子20%入る。	細	○	×		34.5
Pit-053	1住北	暗灰褐色土層	褐色土粒子20%入る。	細	○	×		12

第4表　遺構土層説明一覧（1）

Pit-054	V-11南	黒灰褐色土層	褐色土粒子5%、炭化物1%入る。	細	○	△	方形プラン	50
Pit-055	1住南	暗灰褐色土層	褐色土粒子20%入る。	細	○	×		9
Pit-056	SH-3東	暗灰褐色土層	褐色土粒子30%入る。	細	○	×		13
Pit-057	V-11南西	黒灰褐色土層	褐色土粒子5%、炭化物·焼土わずかに入る。	細	○	△	方形プラン	49
Pit-058	V-11北西	暗灰褐色土層	褐色土粒子10%入る。	細	◎	×		19
Pit-059	V-11北西	暗灰褐色土層	褐色土粒子10%入る。	細	◎	×		16
Pit-060	1住西	暗灰褐色土層	褐色土粒子10%入る。	細	○	×		9
Pit-061	SD-4西北	暗灰褐色土層	褐色土粒子20%入る。	細	○	×		7
Pit-062	1住西	黒灰褐色土層	焼土わずかに入る。	細	◎	×		5
Pit-063	1住西	暗灰褐色土層	褐色土粒子30%入る。	細	○	×		36
Pit-064	1住西	暗灰褐色土層	褐色土粒子20%入る。	細	○	×		7
Pit-065	1住内	暗灰褐色土層	褐色土粒子10%入る。	ヤヤ粗	△	×	PT-066を切る	11
Pit-066	1住内	暗灰褐色土層	褐色土粒子20%入る。	ヤヤ粗	△	×	PT-065に切られる	8
Pit-067	U-12南	黒灰褐色土層	褐色土粒子5%入る。	細	○	×	PT-072を切る	30
Pit-068	U-12南	暗灰褐色土層	褐色土粒子20%入る、炭化物入る。	細	○	×		18
Pit-069	U-10南	黒灰褐色土層		細	△	×	PT-070を切る	10
Pit-070	U-10南	暗灰褐色土層	褐色土粒子20%入る。	細	△	×	PT-069に切られる	15.5
Pit-071	1住南	暗灰褐色土層	褐色土粒子30%入る。	粗	△	×		16
Pit-072	V-12東	暗灰褐色土層	褐色土粒子30%入る、5cmφ礫入る。	粗	○	×	PT-067に切られる	27
Pit-073	U-10南	暗灰褐色土層	褐色土粒子20%入る。	細	○	×		9
Pit-074	U-10南	黒灰褐色土層	焼土·炭化物わずかに入る。	細	◎	×	PT-117を切る	8.5
Pit-075	U-12南	暗灰褐色土層	褐色土粒子10%入る、焼土·炭化物わずかに入る。	ヤヤ粗	○	×	PT-076に切られる	16
Pit-076	U-12南	暗灰褐色土層	褐色土粒子20%入る。	細	○	×	PT-075を切る	13
Pit-077	V-11北	暗灰褐色土層	褐色土粒子20%入る。	細	○	×	PT-078と切り合う	7
Pit-078	V-11北	暗灰褐色土層	褐色土粒子20%入る。	細	○	×	PT-077と切り合う	13
Pit-079	V-11北	暗灰褐色土層	褐色土粒子20%入る、焼土わずかに入る。	細	◎	×		7
Pit-080	1住内	黒灰褐色土層	褐色土粒子5%入る。	細	◎	×		24
Pit-081	1住内	黒灰褐色土層	褐色土粒子5%入る。	細	◎	×		11
Pit-082	1住内	黒灰褐色土層		細	○	×		13
Pit-083	U-10南	暗灰褐色土層	褐色土粒子20%入る。	細	◎	×		8
Pit-084	1住内	暗灰褐色土層	褐色土粒子10%、焼土わずかに入る。	細	○	×		10
Pit-085	V-11東	暗灰褐色土層	褐色土粒子20%入る。	細	◎	○		24
Pit-086	1住西	暗灰褐色土層	褐色土粒子20%、黒色土粒子5%入る。	細	○	×		9
Pit-087	1住西	黒灰褐色土層	褐色土粒子5%、炭化物わずかに入る。	細	○	×		6.5
Pit-088	1住北	暗灰褐色土層	褐色土粒子30%入る。	細	○	×		9
Pit-089	1住北	暗灰褐色土層	褐色土粒子20%、炭化物わずかに入る。	細	○	×		12
Pit-090	1住内	暗灰褐色土層	褐色土粒子30%、黒褐色土粒子5%、明黄褐色土粒子5%入る。	ヤヤ粗	○	×		6
Pit-091	1住西南	暗灰褐色土層	褐色土粒子20%入る。	ヤヤ粗	○	×	PT-012に切られる	8
Pit-092	W-11南	黒灰褐色土層	褐色土粒子10%入る。	細	○	×		37
Pit-093	PT-92南	黒灰褐色土層	炭化物·焼土わずかに入る。	細	○	×		12
Pit-094	4住カマド南			細	○	×		16
Pit-095	PT-92南	暗灰褐色土層	褐色土粒子20%入る。	細	○	×		12
Pit-096	PT-92南東	暗灰褐色土層	褐色土粒子20%、焼土わずかに入る。	細	○	×		14
Pit-097	4住カマド東			細	○	×		17
Pit-098	4住カマド南	黒灰褐色土層	褐色土粒子10%、炭化物わずかに入る。	細	○	×	SD-014を切る	17
Pit-099	4住カマド北	暗灰褐色土層	褐色土粒子20%入る、炭化物·焼土わずかに入る。	細	○	△		13.5
Pit-100	1住南	暗灰褐色土層	褐色土粒子15%入る。	細	○	×		6.5
Pit-101	V-11北	暗灰褐色土層	褐色土粒子15%入る。	細	○	×	PT-102を切る	9
Pit-102	V-11北	欠番						
Pit-103	V-11東	暗灰褐色土層	褐色土粒子30%入る。	細	○	×		15
Pit-104	V-11西	暗灰褐色土層	褐色土粒子15%入る。	細	○	×		11
Pit-105	V-11西	暗灰褐色土層	褐色土粒子15%、炭化物わずかに入る。	細	○	×		10
Pit-106	1住南	暗灰褐色土層	褐色土粒子30%、炭化物わずかに入る。	細	○	△		12
Pit-107	1住南	暗灰褐色土層	褐色土粒子20%、炭化物わずかに入る。	細	○	△	PT-025に切られる	13
Pit-108	U-12西	黒灰褐色土層	炭化物·焼土わずかに入る。	細	◎	×		14
Pit-109	U-12西	暗灰褐色土層	褐色土粒子20%、3cmφ礫1%入る。	細	○	×		11
Pit-110	1住内	黒灰褐色土層	炭化物·焼土わずかに入る。	細	◎	×		10
Pit-111	1住内	黒灰褐色土層	炭化物·焼土わずかに入る。	細	◎	×		12.5
Pit-112	MZ-2南	暗灰褐色土層	褐色土粒子20%、炭化物わずかに入る。	細	◎	×		12

第5表　遺構土層説明一覧（2）

Pit-113	2住内	暗灰褐色土層	褐色土粒子30%、炭化物·焼土わずかに入る。	細	◎	×	MZ-2に切られる	11
Pit-114	V-11北	暗灰褐色土層	褐色土粒子20%入る。	細	◎	○		17
Pit-115	2住内	暗灰褐色土層	褐色土粒子30%、炭化物·焼土5%入る。	ヤヤ細	◎	×	不明	7
Pit-116	V-11南東	暗灰褐色土層	褐色土粒子20%、炭化物わずかに入る。	細	○	×		14
Pit-117	MZ-2南	暗灰褐色土層	褐色土粒子10%入る。	細	○	×	PT-074に切られる	17.5
Pit-118	1住内	暗灰褐色土層	褐色土粒子10%、炭化物·焼土わずかに入る。	細	○	×		6.5
Pit-119	4住カマド東	暗灰褐色土層	褐色土粒子10%、φ1～3cm礫わずかに入る。	ヤヤ細	○	○		12.5
Pit-120	4住カマド東	暗灰褐色土層	褐色土粒子10%入る。	細	◎	○		13.5
Pit-121	4住カマド東	黒灰褐色土層	褐色土粒子20%入る。	細	◎	○		13
Pit-122	4住カマド南	暗灰褐色土層	褐色土粒子20%入る。	細	◎	○		13
Pit-123	4住カマド南	黒灰褐色土層	褐色土粒子5%入る。	細	◎	○		11
Pit-124	SH-3南	黒灰褐色土層		細	○	○		16
Pit-125	4住カマド南東	暗灰褐色土層	褐色土粒子10%入る。	細	◎	○		15
Pit-126	4住カマド南東	暗灰褐色土層	褐色土粒子20%入る。	細	◎	○		10
Pit-127	4住カマド南東	暗灰褐色土層	褐色土粒子20%、黒色土粒子10%入る。	細	○	○		10
Pit-128	4住カマド南東	暗灰褐色土層	褐色土粒子20%入る。	細	◎	△		10.5
Pit-129	2住内	暗灰褐色土層	褐色土粒子30%、焼土わずかに入る。	細	◎	○		15
Pit-130	2住内	暗灰褐色土層	褐色土粒子30%、焼土わずかに入る。	細	◎	○	PT-143と切り合う	-
Pit-131	2住内	暗灰褐色土層	褐色土粒子30%、炭化物·焼土わずかに入る。	細	◎	○		-
Pit-132	2住内	暗灰褐色土層	褐色土粒子30%、炭化物·焼土わずかに入る。	細	◎	○		13
Pit-133	2住内	暗灰褐色土層	褐色土粒子10%、焼土10%入る。	細	○	×		6
Pit-134	4住カマド南	暗灰褐色土層	褐色土粒子20%入る。	細	◎	×		14
Pit-135	4住カマド南	暗灰褐色土層	褐色土粒子10%入る。	細	◎	×		9.5
Pit-136	4住カマド東	暗灰褐色土層	褐色土粒子10%入る。	細	◎	△		15
Pit-137	4住カマド東	暗灰褐色土層	褐色土粒子20%、小礫わずかに入る。	細	◎	○		11
Pit-138	MZ-2南	黒灰褐色土層		細	◎	△		7.5
Pit-139	MZ-2南	黒灰褐色土層	炭化物わずかに入る。	細	◎	×		9
Pit-140	1住西	暗灰褐色土層	褐色土粒子20%入る。	細	○	×		6.5
Pit-141	2住内	灰褐色土層	焼土わずかに入る。	細	△	×		6
Pit-142	MZ-2南	暗灰褐色土層	褐色土粒子20%、炭化物ごくわずかに入る。	細	○	○		12
Pit-143	2住内	暗灰褐色土層	褐色土粒子30%、炭化物·焼土ごくわずかに入る。	細	○	○	PT-130と切り合う	11
Pit-144	1住内	黒灰褐色土層	褐色土粒子5%入る。	細	△	×	PT-041に切られる	43
Pit-145	1住内	完掘により不明						4
Pit-146	1住内	完掘により不明						17
Pit-147	1住南	完掘により不明						10.5
Pit-148	W-11北	黒灰褐色土層	褐色土粒子3%、1～3mmφ小礫1%入る。	細	○	○	方形プラン	18
Pit-149	4住カマド内	黒灰褐色土層		細	○	○		17.5
Pit-150	4住カマド内	黒灰褐色土層		細	○	○		16
Pit-151	1住北	暗灰褐色土層	褐色土粒子20%入る。	細	△	△		36
Pit-152	MZ-2南	黒灰褐色土層	焼土ごくわずかに入る。	細	○	△		12
Pit-153	MZ-2南	黒灰褐色土層	焼土ごくわずかに入る。	細	○	△		10
Pit-154	MZ-2南	暗灰褐色土層	褐色土粒子20%、焼土ごくわずかに入る。	細	○	△		8
Pit-155	MZ-2南	黒灰褐色土層	炭化物わずかに入る。	細	○	△		11
Pit-156	MZ-2南	暗灰褐色土層	褐色土粒子30%入る。	ヤヤ粗	○	△		13.5
Pit-157	V-10東	暗灰褐色土層	褐色土粒子10%入る。	ヤヤ粗	○	○		19
Pit-158	V-10東	黒灰褐色土層		極細	○	△		14.5
Pit-159	V-10東	黒灰褐色土層		極細	○	△		8
Pit-160	1住西	暗灰褐色土層	褐色土粒子15%入る。	細	○	△		11.5
Pit-161	MZ-2南	暗灰褐色土層	褐色土粒子20%入る。	ヤヤ粗	◎	○		12
Pit-162	MZ-2南	暗灰褐色土層	褐色土粒子20%入る。	ヤヤ粗	◎	○		14.5
Pit-163	MZ-2南	暗灰褐色土層	褐色土粒子20%、炭化物わずかに入る。	細	○	△		14
Pit-164	1住西	暗灰褐色土層	褐色土粒子20%入る。	ヤヤ粗	○	△		10
Pit-165	1住西	暗灰褐色土層	褐色土粒子20%入る。	ヤヤ粗	○	△		8
Pit-166	1住西	暗灰褐色土層	褐色土粒子25%入る。	細	△	×		13
Pit-167	1住西	暗灰褐色土層	褐色土粒子20%入る。	細	△	×		7.5
Pit-168	1住北	黒灰褐色土層		細	○	×		7
Pit-169	V-12東	暗灰褐色土層	褐色土粒子20%入る。	細	○	×		10
Pit-170	V-12東	暗灰褐色土層	褐色土粒子15%入る。	細	○	×		11
Pit-171	1住南西	黒灰褐色土層	焼土わずかに入る。	細	○	×		15
Pit-172	1住南西	黒灰褐色土層	焼土わずかに入る。	細	○	×		7

第6表　遺構土層説明一覧（3）

Pit-173	1住南西	暗灰褐色土層	褐色土粒子30%入る	細	○	×		8
Pit-174	1住西	暗灰褐色土層	褐色土粒子20%入る	細	◎	○		32
Pit-175	1住西	暗灰褐色土層	褐色土粒子20%入る	細	○	△		16
Pit-176	1住南	暗灰褐色土層	褐色土粒子30%、地山ブロックφ5cmで30%入る	粗	○	○		27
Pit-177	1住南西	完掘により不明						13
Pit-178	1住南西	暗灰褐色土層	褐色土粒子30%入る	細	◎	○		16
Pit-179	4住カマド西	暗灰褐色土層	褐色土粒子20%入る	細	◎	◎		13
Pit-180	4住カマド西	暗灰褐色土層	褐色土粒子20%入る	細	◎	◎		16
Pit-181	4住カマド西	暗灰褐色土層	褐色土粒子20%入る	細	◎	◎		14
Pit-182	MZ-2南	暗灰褐色土層	褐色土粒子20%、焼土わずかに入る	細	◎	○	SD-011に切られる	11
Pit-183	MZ-2南	暗灰褐色土層	褐色土粒子20%入る	細	○	○		6.5
Pit-184	MZ-2南	暗灰褐色土層	褐色土粒子20%入る	細	○	△		11
Pit-185	MZ-2南	暗灰褐色土層	褐色土粒子30%入る	細	○	×		11.5
Pit-186	4住カマド南	暗灰褐色土層	褐色土粒子20%、地山礫1%入る	細	○	×		10
Pit-187	4住カマド西	暗灰褐色土層	褐色土粒子20%入る	細	○	×		14.5
Pit-188	U-11南	黒灰褐色土層	焼土ごくわずかに入る	細	○	×		7
Pit-189	1住南	暗灰褐色土層	褐色土粒子30%入る	細	○	×		27
Pit-190	U-11南	黒灰褐色土層		細	○	×		7
Pit-191	U-11東南	黒灰褐色土層	褐色土粒子20%入る	細	○	×		19
Pit-192	1住内	黒灰褐色土層	褐色土粒子20%入る	細	○	×		15.5
Pit-193	4住カマド南	暗灰褐色土層	褐色土粒子20%、焼土ごくわずかに入る	細	○	×		15.5
Pit-194	MZ-2南	暗灰褐色土層	褐色土粒子20%、炭化物·焼土わずかに入る	細	○	×		13
Pit-195	4住カマド南	暗灰褐色土層	褐色土粒子30%、地山礫わずかに入る	細	○	×	SD-014に切られる	12
Pit-196	1住南	黒灰褐色土層	地山礫3%入る	細	○	×	SD-006に切られる	8

第7表　遺構土層説明一覧（4）

No.	位　置	土　　層	混　　入　　物	キメ	シマリ	粘性	切　り　合　い	深さ (cm)
SD-01	P7 別項							110
SD-02	R9 別項							70
SD-03	1住内	暗灰褐色土層		細	○	×	1住を切る? PT-020·021を切る	18
SD-04	1住南西	黒灰褐色土層	褐色土粒子5%、炭化物1%、焼土わずかに入る	細	○	×		21
SD-05	V11南	暗灰褐色土層	褐色土粒子20%、平安(11C)甕出土	細	○	×	PT-035を切る。 カマドに変更	
SD-06	U12南	黒褐色土層	炭わずかに入る				SD-7·PT-196を切る	35
SD-07	U12南	暗灰褐色土層	黒褐色土(φ3～5cm)まだらに30%入る				SD-6を切る	30
SD-08	V11東	欠番						
SD-09	W11北西	暗灰褐色土層	褐色土粒子30%入る				PT-048に切られる。	20
SD-10	U10南	黒灰褐色土層	焼土わずかに入る	細	△	×		39
SD-11		黒灰褐色土層	炭化物·焼土わずかに入る	細	○	×	PT-182を切る	21
SD-12		暗灰褐色土層	褐色土粒子20%、炭化物入る	細	○	△	PT-022·034に切られる	8
SD-13		暗灰褐色土層	褐色土粒子20%、1cmφ礫わずかに入る	細	○	×		5
SD-14		暗灰褐色土層	褐色土粒子20%、中央にφ30ｃｍ礫入る	細	○	×	PT-098に切られる、 PT-195を切る	9
SD-15		暗灰褐色土層	褐色土粒子20%、炭化物30%入る	細	○	×		10

第8表　遺構土層説明一覧（5）

図	番号	取上No	層位	種類	時期	重量（g）	色調（内/外）	胎　　土	調整（内・外）	残　存
29	1住-1	JU1-01	下層	土師器	平安	10	にぶい黄褐色	透明、黒光、金色粒子	内：なで・外：木葉痕（底部）	底部片
29	2住-1	JU2-NO04		土師器（甕）	平安	20	褐色/にぶい赤褐色	金、黒光、透明、乳白色粒子	内：横刷毛目、口唇部は刷毛→なで・外：なで	口縁部片
29	2住-2	JU2-NO05		土師器（甕）	平安	26	黒褐色/褐色	金、黒光、乳白色、透明粒子	内：横刷毛目・外：縦刷毛目	胴部片
29	2住-3	JU2-NO03		須恵器（坏）	平安	8	灰色	白、透明、金色粒子	内：ロクロ調整・外：回転糸切痕（底部）	底部片
29	SD4-1	SD4-01		土師器（小型甕）	平安？	29	灰褐色/褐色	乳白色、黒、黒光、白、金、赤色粒子	内：横刷毛目・外：縦刷毛目	口縁部～胴部片
29	SD6-1	SD6-01		土師器（坏）	平安	8	にぶい橙色/にぶい褐色	黒、白、赤、黒光粒子	ロクロ成形	口縁部～体部片
29	溝1-1	MZ1-NO01	上層	深鉢	曾後	42	浅黄橙色	白、乳白色、黒光、黒、金色粒子	外：隆線→指なで→条線	胴部片
29	溝1-2	MZ1-NO02	上層	内耳土器	中世	16	にぶい橙色	白、乳白色、黒光、透明、黒色粒子	外：口縁部に指頭圧痕がみられる	口縁部片
29	溝2-1	MZ2-NO04	上層	土師器（坏）	平安	4	橙色	黒、白、乳白色粒子	内：ロクロ成形・外：墨書あり	口縁部片
29	溝2-2	MZ2-NO03	上層	土師器（坏）	平安	11	にぶい黄橙色	乳白、白、黒、赤色粒子	ロクロ成形	口縁部片
29	溝2-3	MZ2-NO06	下層	灰釉陶器（小型壺）	平安	6	灰白色/灰オリーブ色	黒、白色粒子	内：ロクロ成形・外：施釉	肩部片
29	溝3-1	MZ3-NO03		土師器（甕）	平安	5	灰褐色～黒褐色	金、黒、白色粒子	外：横刷毛目→縦刷毛目	胴部片
29	溝4-1	MZ4-01	上層	内耳土器	中世	19	にぶい褐色/にぶい橙色	乳白色、白、黒光、黒、赤色粒子	内：横なで	口縁部片
29	集1-1	SH1-NO37		深鉢	縄諸	29	にぶい橙色/にぶい黄橙色	黒光、黒、白色粒子	外：条線→半竹内皮による押引文→ボタン状の貼付文 口縁部直下に細い押引文	胴部片
29	集1-2	SH1-NO01		深鉢	曾前	83	にぶい黄橙色/にぶい橙色	乳白、白、黒、赤色粒子	外：胴上部無文→隆線（刻みあり）→胴下部条線文	胴部片
29	集2-1	SH2-1		銭貨	江戸	2	暗緑灰色	- 寛永通宝	一部欠損	
29	5住-1	個体No2		羽釜	平安末	1680	にぶい黄橙～橙～黒褐色	乳白色、白、黒、赤粒子、径0.5cmレキ	口縁部：内外横なで、胴部：内外へらなで、底部にレキ付着	ほぼ完形

第9表　遺構出土遺物観察表

図	図番号	実測No	出土位置	取上番号	器種	長さ（mm）	幅（mm）	厚さ（mm）	重量（g）	石　材	備　　考
30	溝3-1	21	MZ-3	9	石鏃	16	13	4	0.5	黒曜石	
30	溝3-2	4	MZ-3	7	磨製石鏃	27	16	2	1.2	粘板岩	身部中央に穿孔　基部欠損
30	溝3-3	7	MZ-3	5	打製石斧	107	57	17	122.4	頁岩	一部側面に摩滅痕あり
30	溝3-4	15	MZ-3	8	凹石	91	78	32	330.0	安山岩	表裏とも著しいすり痕は残存せず
30	溝3-5	18	MZ-3	6	磨り石	91	82	27	288.5	安山岩	表面1/2に磨り痕あり

第10表　遺構出土石器観察表

図	番号	実測	種類	時期	重量	色調（内/外）	胎　　土	調整（内・外）	残存
31	1	早-22	深鉢	縄早	22	にぶい黄褐色/にぶい黄橙色	乳白色、透明、金色粒子	内：指頭圧痕→なで・外：山形文	胴部片
31	2	早-23	深鉢	縄早	7	にぶい黄褐色/にぶい黄橙色	乳白色、透明、黒光、金色粒子	内：横なで・外：山形文	胴部片
31	3	早-24	深鉢	縄早	11	にぶい黄褐色/にぶい黄橙色	乳白色、透明、黒光、金色粒子	内：横なで・外：山形文→なで	胴部片
31	4	早-25	深鉢	縄早	10	にぶい黄褐色	乳白色、透明、黒光、金色粒子、繊維	内：なで・外：山形文→なで	胴部片
31	5	早-09	深鉢	縄早	12	にぶい褐色/明褐色	赤色、乳白色、黒光粒子、繊維	内：一部剥落 外：押型文→指頭圧痕	胴部片
31	6	早-10	深鉢	縄早	6	にぶい赤褐色/にぶい黄褐色	乳白色、黒光、透明粒子	内：横なで・外：押型文	胴部片
31	7	早-18	深鉢	縄早	10	にぶい黄橙色/にぶい黄褐色	乳白色、黒光、透明、赤色粒子、繊維（少）	内：横なで・外：押型文	口縁部片
31	8	早-08	深鉢	縄早	25	にぶい橙色/橙色	赤、乳白色、透明粒子	内：指頭圧痕・外：押型文	胴部片
31	9	早-45	深鉢	縄早	21	にぶい褐色/にぶい黄褐色	金、黒光粒子	内：横なで・外：押型文	胴部片

第11表　土器観察表（1）

31	10	早-46	深鉢	縄早	19	明褐色	乳白、透明粒子	内:横なで・外:押型文	胴部片
31	11	早-19	深鉢	縄早	6	明赤褐色	乳白、透明、赤色粒子	外:押型文	胴部片
31	12	早-53	深鉢	縄早	6	にぶい黄橙色	透明、金、乳白色粒子	内:なで・外:沈線 口唇部に山形突起	口縁部片
31	13	早-17	深鉢	縄早	5	にぶい黄橙色/ 暗灰黄色	乳白、黒光、透明粒子	外:沈線	口縁部片
31	14	早-16	深鉢	縄早	2	にぶい黄橙色	透明、黒色粒子	内:なで・外:沈線→指頭圧痕 口唇部に刻み	口縁部片
31	15	早-44	深鉢	縄早	10	にぶい黄橙色	乳白色、黒光、赤色粒子、繊維	内:なで→指頭圧痕・ 外:沈線→指頭圧痕	胴部片
31	16	早-42	深鉢	縄早	8	にぶい黄橙色	乳白色、黒、赤色粒子、繊維	内:なで→指頭圧痕・ 外:沈線→指頭圧痕	胴部片
31	17	早-14	深鉢	縄早	17	明褐色/にぶい 黄橙色	赤、乳白、透明粒子、繊維(多)	内:条痕文→指頭圧痕・ 外:沈線→なで	胴部片
31	18	IGNO-2	深鉢	縄早	12	にぶい黄橙色/ 暗灰黄色	白、透明、黒光粒子、繊維	内:なで→指頭圧痕・外:沈線	胴部片
31	19	早-28	深鉢	縄早	31	にぶい黄褐色/ 黄褐色	透明、金、黒光、乳白色粒子、繊維	内:指頭圧痕→なで・外:なで→沈線	胴部片
31	20	早-41	深鉢	縄早	11	にぶい黄橙色/ 灰黄色	乳白色、透明、黒色粒子	内:なで・外:沈線	胴部片
31	21	早-43	深鉢	縄早	11	褐色/にぶい黄褐色	白、金、黒、乳白色粒子	内:条痕文・外:条痕文→沈線→ 刺突	胴部片
31	22	早-07	深鉢	縄早	46	浅黄橙～橙色/ 浅黄色	乳白色、白色粒子、繊維	内:条痕文→爪形文・外:爪形 文→条痕文　口唇部に刻み	口縁部片
31	23	IGNO-3	深鉢	縄早	23	暗灰黄色/ にぶい黄色	白、透明、黒光粒子、繊維	内:なで→指頭圧痕・外:なで→ ２条の結節沈線→指頭圧痕	胴部片
31	24	早-04	深鉢	縄早	7	黄橙色	白、乳白色、金、黒色粒子、繊維	内:なで→爪形文・外:爪形文 口唇部に刻み	胴部片
31	25	早-36	深鉢	縄早	16	橙色	透明、乳白色粒子、繊維	内:条痕文・外:条痕文→爪形文 口唇部に刻み	口縁部片
31	26	早-01	深鉢	縄早	8	にぶい黄橙色	白、黒色粒子、繊維	内:条痕文・外:爪形文	胴部片
31	27	早-05	深鉢	縄早	13	にぶい黄橙色	白、乳白色、黒色粒子、繊維	内:貝殻による条痕文(横)・ 外:爪形文	胴部片
31	28	早-38	深鉢	縄早	8	橙色/にぶい橙色	乳白色、透明粒子、繊維	内:条痕文・ 外:貝殻条痕文→爪形文	胴部片
31	29	早-47	深鉢	縄早	33	にぶい黄橙色/ にぶい黄色	乳白色、透明、金色、赤色粒子、 繊維	外:条痕文→爪による斜め刺 突(爪形文)	胴部片
31	30	早-03	深鉢	縄早	27	黄灰色/にぶい 黄橙色	白、金色粒子、繊維	内:貝殻による条痕文(横)・ 外:貝殻による条痕文(縦)	胴部片
31	31	早-06	深鉢	縄早	24	にぶい黄橙色	乳白色、白、黒色粒子、繊維	内:条痕文・外:爪形文	胴部片
31	32	IGNO-12	深鉢	縄早	11	にぶい黄橙色/に ぶい黄橙～黄灰色	白、乳白色、金、黒色粒子	内:指頭圧痕・外:結節沈線文 口縁部に刻み	口縁部片
31	33	早-11	深鉢	縄早	10	暗灰黄色/黄褐色	乳白色、黒光粒子、繊維	外:結節沈線(２条１組)	胴部片
31	34	早-55	深鉢	縄早	5	にぶい黄褐色	乳白色粒子	内:なで・外:条痕文→貝殻腹縁 による山形文(２段)	胴部片
31	35	早-13	深鉢	縄早	30	にぶい黄橙色/ 黄褐色	乳白色、黒光、透明、赤色粒子、 繊維	内:なで→指頭圧痕・ 外:沈線→なで	胴部片
31	36	早-33	深鉢	縄早	23	にぶい黄橙色/ にぶい黄色	透明、白、乳白色、黒、赤色粒 子、繊維	内:なで→指頭圧痕・外:結節沈線 (３条１組)(タテ)→なで	胴部片
31	37	早-02	深鉢	縄早	16	浅黄橙色/橙色	白、乳白色、透明、黒光粒子、繊維	内:爪形文・外:なで→爪形文 口唇部に刻み(２本１単位)	口縁部片
31	38	早-15	深鉢	縄早	8	にぶい黄橙色/ にぶい黄褐色	透明、黒光、金色粒子、繊維	内:なで・外:沈線	胴部片
31	39	早-31	深鉢	縄早	7	にぶい黄橙色	透明、乳白、黒光、赤色粒子、繊維	内:なで・外:３条の結節沈線→ 指頭圧痕　口唇部に刻み	口縁部片
32	1	早-27	深鉢	縄早	24	にぶい黄褐色/ にぶい褐色	透明、金、乳白色粒子、繊維	内:条痕文→指頭圧痕・外:条痕文	胴部片
32	2	早-39	深鉢	縄早	35	にぶい黄橙色	乳白色、透明粒子、繊維	内:条痕文→指頭圧痕・外:条痕文	胴部片
32	3	早-49	深鉢	縄早	13	にぶい黄橙色/ 明黄褐色	透明、乳白色粒子	外:条痕文	胴部片
32	4	早-54	深鉢	縄早	6	にぶい赤褐色/ 赤褐色	黒色粒子	内:指頭圧痕→なで・ 外:条痕文　口唇部に条痕文	口縁部片
32	5	早-40	深鉢	縄早	23	にぶい黄褐色	乳白色、透明粒子、繊維	内:条痕文→指頭圧痕・ 外:条痕文	胴部片
32	6	早-12	深鉢	縄早	35	にぶい橙色/ にぶい黄橙色	乳白色、透明、黒光粒子、	内:横条線・外:縦・横の条痕文 繊維(極めて多)	胴部片

第12表　土器観察表（2）

32	7	IGNO-1	深鉢	縄早	18	褐色/にぶい褐色	乳白色、黒光、透明粒子	内:丁寧なみがき・外:条痕文	胴部片
32	8	早-48	深鉢	縄早	14	浅黄色/橙色	乳白色、透明粒子、繊維	外:条痕文	胴部片
32	9	IGNO-13	深鉢	縄早	17	にぶい褐色/赤褐色	黒光、赤、乳白色粒子	内:条痕文→指頭圧痕・外:条痕文	胴部片
32	10	早-57	深鉢	縄早	1,000	橙色	黒光、赤色粒子	内:なで・外:貝殻条痕文	口1/16、胴8/16、底0/16
32	11	早-58	深鉢	縄早	12	にぶい黄褐色/にぶい黄色	乳白、黒、透明、赤色粒子、繊維	内:なで・外:縄文	胴部片
32	12	早-32	深鉢	縄早	8	にぶい黄色/にぶい黄橙色	白、透明、黒光粒子	内:なで・外:縄文	胴部片
32	13	早-29	深鉢	縄前	10	にぶい黄色/にぶい黄橙色	乳白色、黒光、金、透明粒子、繊維	内:条痕文→なで・外:撚糸文→沈線→なで(口縁部下)	口縁部片
32	14	早-30	深鉢	縄早	9	にぶい褐色	乳白、金、黒光、透明粒子	内:なで・外:縄文→条痕文→沈線	胴部片
32	15	早-50	深鉢	縄早	14	にぶい黄橙色	乳白色、透明粒子	内:なで・外:指なで	胴部片
32	16	早-34	深鉢	縄早	19	にぶい褐色/にぶい黄橙色	乳白色、黒光、透明粒子	内:指頭圧痕・外:沈線→絡条体圧痕文→指頭圧痕	口縁部片
32	17	早-37	深鉢	縄早	25	灰黄褐色/明赤褐色	乳白色、黒色粒子、繊維	内:指頭圧痕	胴部片
32	18	早-26	深鉢	縄早	40	にぶい黄色/にぶい黄褐色	乳白色、透明、黒光、金色粒子、繊維	内:ヘラなで→指頭圧痕・外:条痕文→指頭圧痕	底部片
33	1	早-61	深鉢	縄早	41	明褐～灰褐色	黒光、白、赤、黒、乳白色粒子、繊維(多)	なで	口縁部片
33	2	早-59	深鉢	縄早	13	にぶい黄褐色	金、黒光、乳白色、黒色粒子	なで	口縁部片
33	3	早-35	深鉢	縄早	17	明褐色/橙色	白、黒光、金色粒子	なで	口縁部片
33	4	早-51	深鉢	縄早	11	赤褐色/にぶい黄褐色	乳白色、黒光粒子、繊維	内:横なで・外:わずかになで	口縁部片
33	5	早-56	深鉢	縄早	3	灰黄褐色/にぶい黄橙色	乳白色、透明粒子	なで	口縁部片
33	6	早-63	深鉢	縄早	31	にぶい橙～灰褐色	赤、白、黒色粒子、繊維(多)	なで	胴部片
33	7	早-20	深鉢	縄早	20	にぶい黄橙色	乳白色、透明、黒光粒子、繊維	なで→指頭圧痕	胴部片
33	8	早-60	深鉢	縄早	9	灰黄褐色/にぶい黄褐色	金、乳白色、黒光粒子	なで	胴部片
33	9	早-62	深鉢	縄早	86	橙～にぶい橙色	乳白色、白、黒色粒子、繊維	なで	胴部片
33	10	早-64	深鉢	縄早	33	にぶい橙色	乳白色、白、赤、黒色粒子、繊維	なで	胴部片
33	11	早-52	深鉢	縄早	13	にぶい黄褐色/明褐色	黒、乳白色粒子	なで	胴部片
33	12	早-65	深鉢	縄早	39	にぶい黄橙色/橙色	白、黒光粒子、繊維(多)	なで	胴部片
33	13	早-66	深鉢	縄早	88	橙色/褐～褐灰色	乳白、白、黒色粒子、繊維	なで	胴部片
33	14	早-21	深鉢	縄早	18	にぶい黄橙色	透明、黒光、乳白色粒子、繊維(多)	なで→指頭圧痕	胴部片
33	15	IGNO-11	深鉢	縄早	27	にぶい黄色/にぶい黄褐色	乳白、白、黒光、透明、金色粒子、繊維	なで→指頭圧痕	胴部片
34	1	諸-26	深鉢	縄諸	18	明赤褐色 一部にぶい黄褐色	乳白色、白、金、黒色粒子	外:沈線　波状口縁	口縁部片
34	2	諸-27	深鉢	縄諸	6	明赤褐色	乳白色、黒、赤色粒子	外:口縁部連続刺突文→沈線 波状口縁	口縁部片
34	3	諸-29	深鉢	縄諸	4	にぶい橙色	乳白色、白、黒色粒子	外:口縁部連続刺突文→沈線	口縁部片
34	4	諸-30	深鉢	縄諸	7	橙色/にぶい黄褐～黒褐色	黒、白色粒子	外:沈線→ボタン状の貼付文	口縁部片
34	5	諸-03	深鉢	縄諸	5	にぶい橙～にぶい褐色	黒、赤、白、透明、乳白色粒子	外:矢羽根状の沈線文→ボタン状貼付文　口縁部に浅い連続刺突文	口縁部片
34	6	諸-01	深鉢	縄諸	38	にぶい橙色/にぶい黄橙色	黒、黒光、白、赤色粒子	外:沈線→結節浮線文	口縁部片
34	7	諸-02	深鉢	縄諸	17	にぶい黄橙～黒褐色	白、透明、乳白色、黒光、黒、赤色粒子	外:横方向の沈線文→結節浮線文 口縁部に連続刺突文	口縁部片
34	8	諸-28	深鉢	縄諸	11	明褐色/明褐～にぶい黄褐色	乳白色、黒、金、白色粒子	外:口縁部連続刺突文→沈線→結節浮線文　波状口縁	口縁部片
34	9	諸-24	深鉢	縄諸	10	明赤褐色	赤、黒、白、黒光粒子	外:沈線	胴部片
34	10	諸-19	深鉢	縄諸	18	橙色/にぶい橙色	白、乳白色、黒、赤色粒子	外:沈線	胴部片
34	11	諸-12	深鉢	縄諸	14	にぶい黄橙色/黒褐色	白、乳白色、透明、黒色粒子	外:沈線	胴部片
34	12	諸-17	深鉢	縄諸	8	にぶい橙色/橙色	白、乳白色、透明、黒色粒子	外:沈線	胴部片
34	13	諸-10	深鉢	縄諸	16	明赤褐色	乳白色、白、黒光、黒色粒子	外:沈線	胴部片
34	14	IGNO-32	深鉢	縄諸	19	褐色/にぶい黄褐色	乳白色、透明、黒光粒子	内:なで・外:沈線(横方向矢羽根状)	胴部片
34	15	諸-22	深鉢	縄諸	14	にぶい橙色/橙～褐灰色	赤、乳白色、白、黒色粒子	外:沈線	胴部片

第13表　土器観察表（3）

34	16	諸-05	深鉢	縄諸	33	にぶい赤褐色/にぶい褐色	乳白、白、黒光、黒色粒子	外:沈線	胴部片
34	17	IGNO-53	深鉢	縄諸	48	褐色	乳白色、透明、黒光粒子	内:なで・外:沈線(横方向矢羽根状)	胴部片
34	18	IGNO-29	深鉢	縄諸	53	にぶい黄褐色	乳白、透明、黒光、赤色粒子	内:なで・外:沈線	胴部片
34	19	諸-31	深鉢	縄諸	25	にぶい黄橙色/橙～褐灰色	白、黒色粒子	外:沈線	胴部片
34	20	諸-33	深鉢	縄諸	24	褐～にぶい黄褐色/褐色	金、乳白色粒子	外:沈線	胴部片
34	21	諸-35	深鉢	縄諸	4	にぶい黄橙色	白、乳白、黒色粒子	外:沈線	胴部片
34	22	諸-16	深鉢	縄諸	8	にぶい赤褐色/褐色	金、黒、乳白色粒子	外:矢羽根状の沈線文→ボタン状の貼付文	胴部片
34	23	諸-18	深鉢	縄諸	9	赤褐色	白、乳白、透明、黒色粒子	外:矢羽根状の沈線文→ボタン状の貼付文	胴部片
34	24	諸-11	深鉢	縄諸	12	にぶい黄橙色	乳白、白、黒、赤、黒光粒子	外:矢羽根状の沈線→ボタン状貼付文	胴部片
34	25	諸-09	深鉢	縄諸	22	にぶい褐色/褐色	白、赤、黒、黒光粒子	外:矢羽根状の沈線文→ボタン状貼付文	胴部片
34	26	諸-34	深鉢	縄諸	18	明褐～にぶい褐色/黒褐色	白、黒、黒光、赤粒子	外:沈線→ボタン状の貼付文	胴部片
34	27	諸-32	深鉢	縄諸	20	明赤褐色/赤褐色	白、乳白、黒光、黒色粒子	外:沈線→ボタン状の貼付文	胴部片
34	28	諸-08	深鉢	縄諸	24	橙色/にぶい黄褐色	白、黒、黒光粒子	外:沈線→ボタン状貼付文	胴部片
34	29	諸-04	深鉢	縄諸	15	にぶい赤褐色/にぶい橙色	赤、白、黒光、黒色粒子	外:沈線→結節浮線文→ボタン状貼付文	胴部片
34	30	諸-06	深鉢	縄諸	32	にぶい橙色/にぶい黄褐色	乳白、白、黒光、黒色粒子	外:沈線→結節浮線文	胴部片
34	31	諸-07	深鉢	縄諸	15	橙色/にぶい橙色	乳白、透明、白、黒光、黒色粒子	外:沈線→結節浮線文→ボタン状貼付文	胴部片
34	32	諸-15	深鉢	縄諸	8	にぶい黄褐色	赤、黒、黒光、白、透明粒子	外:沈線→結節浮線文	胴部片
34	33	諸-20	深鉢	縄諸	3	にぶい黄橙色	乳白、白、黒色粒子	外:沈線→結節浮線文	胴部片
34	34	諸-21	深鉢	縄諸	9	明赤褐色	乳白、白、黒光、黒色粒子	外:沈線→浮線文→ボタン状の貼付文	胴部片
34	35	諸-36	深鉢	縄諸	5	にぶい褐色/褐色	黒光、黒、白、赤色粒子	外:結節浮線文	胴部片
34	36	諸-23	深鉢	縄諸	10	にぶい黄橙色	黒光、黒、赤、白色粒子	外:沈線→結節浮線文	胴部片
34	37	諸-14	深鉢	縄諸	11	にぶい褐色/明赤褐～褐灰色	白、赤、黒、黒光粒子	外:渦巻状の結節浮線文	胴部片
34	38	諸-37	深鉢	縄諸	20	にぶい橙色/橙色	白、赤、黒、黒光粒子	外:沈線→ボタン状の貼付文	底部片
34	39	諸-39	深鉢	縄諸	15	にぶい黄橙色/にぶい褐色	白色、乳白、赤色粒子	外:横なで	底部片
34	40	IGNO-48	深鉢	縄諸	33	にぶい黄褐色/褐色	乳白、透明、黒光粒子	内:なで・外:なで　底部に網代痕	底部片
34	41	諸-25	深鉢	縄諸	18	にぶい橙色/橙色	白、乳白、赤、黒色粒子	外:沈線	底部片
34	42	諸-38	深鉢	縄諸	11	にぶい黄橙色	白、黒、乳白色粒子	外:横なで→沈線	底部片
34	43	諸-40	深鉢	縄諸	15	にぶい黄橙色/にぶい橙色	白、乳白、赤、黒光粒子	外:横なで→沈線	底部片
34	44	諸-13	深鉢	縄諸	12	にぶい橙色/にぶい黄橙色	白、乳白、黒色粒子	外:沈線	胴部片
35	1	縄不-02	深鉢	早～中?	5	にぶい黄橙色/灰黄褐色	乳白、黒、白、金色粒子	外:格子状の沈線	胴部片
35	2	縄不-01	深鉢	勝後？	11	にぶい黄橙色	乳白、金、赤、黒、白色粒子	外:押引きによる沈線→竹管外皮による沈線	口縁部片
35	3	縄不-03	深鉢	勝後？	3	にぶい褐色/にぶい褐色～褐灰色	黒光、乳白、赤色粒子	外:口唇部に刻み、付けてあった飾りが剥がれたような痕あり	口縁部片(把手？)
35	4	曾-03	深鉢	曾前	50	浅黄橙色/にぶい橙色	黒、白、黒光、赤色粒子	外:隆線→半竹内皮による条線	胴部片
35	5	曾-04	深鉢	曾前	24	明褐色～にぶい褐色	白、黒色粒子	外:条線	胴部片
35	6	曾-05	深鉢	曾前	35	褐色	赤、黒、白、黒光粒子	外:縄文→粘土紐による隆線	胴部片
35	7	曾-06	深鉢	曾後	27	にぶい褐色～褐灰色	赤、白、黒、金色粒子	外:細かい条線	胴部片
35	8	曾-02	深鉢	曾後	29	にぶい黄橙色/にぶい黄橙色、一部灰黄褐色	白、乳白、黒、金色粒子	外:ハの字状の沈線	口縁部片
35	9	曾-01	深鉢	曾後	16	橙色/橙色、一部灰黄褐色	白、乳白、赤色粒子	外:口縁部は竹管外皮による沈線	胴部片
35	10	IGNO-52	深鉢	曾終？	35	にぶい褐色	乳白、白、透明、金、赤色粒子	内:なで・外:細い斜行沈線(2cm)、波状口縁	口縁部片
35	11	後-05	深鉢	縄後	10	にぶい黄褐色	乳白、透明、黒光粒子	外:縄文→半竹内皮による沈線	胴部片
35	12	後-06	深鉢	縄後	16	にぶい黄褐色/褐色	乳白、透明、黒光粒子	外:半竹内皮による沈線→なで	胴部片
35	13	後-03	深鉢	縄後	21	暗灰黄色/黄褐色	乳白、透明、黒光、金色粒子	内:指頭圧痕→なで・外:縄文→半竹内皮による沈線→指頭圧痕→なで	胴部片
35	14	後-04	深鉢	縄後	19	黄褐色/にぶい黄色	乳白、透明、黒光粒子	内:なで・外:縄文→半竹内皮による沈線→なで	胴部片
35	15	後-01	深鉢	縄後	31	にぶい黄褐色	乳白、透明、黒光粒子	内:なで→指頭圧痕・外:隆線→なで	口縁部片
35	16	後-02	深鉢	縄後	12	にぶい褐色/灰黄褐色	乳白色、黒光粒子	外:半竹内皮による沈線→なで	口縁部片

第14表　土器観察表（4）

35	17	縄不-04	土偶?	縄文不明	1	にぶい赤褐色	乳白、透明、黒色粒子	内:指頭で押したような痕がみられる	土偶の手片?
35	18	IGNO-68	土製円盤	不明	36	灰色	乳白、黒光、金色粒子	側面を割って成形、外側より穿孔(貫通せず)、瓦製	—
36	1	古-02	土師器(甕)	古墳	16.3	橙～にぶい橙色	白、黒、赤色粒子	内:横方向の丁寧なみがき・外:ヘラなで一みがき	口縁部片
36	2	古-01	土師器(壺)	古墳	30	にぶい橙色、一部橙色	赤、黒、白色粒子	内:横方向の丁寧なみがき・外:ヘラなで一みがき	胴部片
36	3	弥-01	甕	弥生	54	明赤褐色/褐色	乳白、白、赤、黒光、黒色粒子	内:横なで・外:横方向の条痕文	胴部片
36	4	平-11	土師器(坏)	平安	5	橙色	赤、黒、白色粒子	ロクロ成形	口縁部片
36	5	平-08	土師器(坏)	平安	8	橙色	白、乳白、黒、赤色粒子	ロクロ成形	口縁部片
36	6	平-10	土師器(坏)	平安	3	浅黄褐色、一部黒変	白、乳白、黒、赤色粒子	ロクロ成形	口縁部片
36	7	平-07	土師器(坏)	平安	3	にぶい橙色、一部黒変/にぶい橙～明赤褐色、一部黒変	黒、赤色粒子	ロクロ成形	口縁部片
36	8	平-06	土師器(坏)	平安	4	黒色/にぶい黄橙～褐灰色	黒、白、赤色粒子	ロクロ成形、内黒土器	口縁部片
36	9	平-09	土師器(坏)	平安	3	黒色/にぶい黄橙～黒色	黒、白色粒子	ロクロ成形、内黒土器	口縁部片
36	10	平-13	土師器(甕)	平安	37	にぶい橙色/にぶい黄橙色	白、乳白、黒色粒子	木葉痕(底部)	底部片
36	11	平-12	須恵器(甕)	平安	12	灰黄褐色/褐灰色	白、黒光、赤色粒子	ロクロ成形、回転糸切痕(底部)	底部片
36	12	平-02	土師器(甕)	平安	15	灰褐色/にぶい褐色	乳白、白、黒光、黒色粒子	内:横刷毛目、みこみ部に指頭圧痕 外:縦刷毛目、胴下部削り?、木葉痕(底部)	底部片
36	13	平-14	土師器(甕)	平安	35	にぶい赤褐色/赤褐色	乳白、白、黒、黒光、金、赤色粒子	胴部は横刷毛目、みこみ部外周に指頭圧痕?、木葉痕(底部)	底部片
36	14	平-03	土師器(皿)	平安	6	にぶい橙色/橙～にぶい橙色	赤、黒、白色粒子	内:ロクロ成形・外:回転へら削り(底部)	底部片
36	15	平-04	土師器(甕)	平安	5	明赤褐色/にぶい赤褐色	乳白、黒色粒子	内:横刷毛目・外:縦刷毛目、木葉痕(底部)	底部片
36	16	平-01	須恵器(甕)	平安	57	褐灰色/黄灰～褐灰色	白、黒色粒子	外:頸部に櫛描波状文	頸部片
36	17	平-05	須恵器(蓋)	平安	3	にぶい黄橙～灰黄褐色	白、黒色粒子	内:ロクロなで・外:ロクロ削り	体部片
36	18	中-01	内耳土器	中世	39	暗灰黄色/黄褐色	乳白、透明、黒光、赤色粒子	外:横なで一指頭圧痕	底部片
36	19	IGNO-44	灰釉陶器(坏)	不明	17	灰白色		ロクロ成形、全面施釉(底部は一部施釉)	底部片
36	20	中-02	内耳土器	中世	6	褐色	黒光、金、乳白、透明粒子	なで	口縁部片

第15表　土器観察表(5)

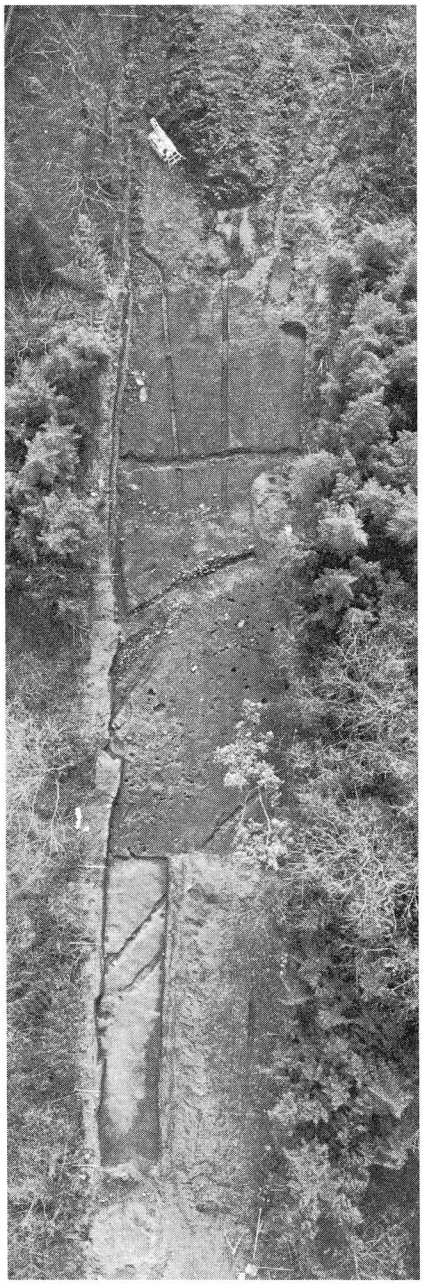
図	番号	実測	出土位置	番号	器　種	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石　材	備　　考
37	1	25	IG	74	石鏃	22	19	4	1.3	黒曜石	先端部欠損
37	2	30	IG	一括	石鏃	22	19	3	0.8	黒曜石	
37	3	20	IG	43	石鏃	19	15	3	1.1	黒曜石	先端・片脚部欠損
37	4	26	3区	一括	石鏃	17	14	3	0.6	黒曜石	片脚部欠損
37	5	29	2区	一括	石鏃	11	12	3	0.4	黒曜石	極小石鏃
37	6	27	IG	一括	石鏃	20	18	2	0.5	珪質頁岩	周辺加工
37	7	28	2区	一括	石鏃	16	14	6	0.8	黒曜石	
37	8	31	IG	一括	石鏃	13	16	5	0.9	黒曜石	片脚部欠損
37	9	5	IG	一括	掻器	26	45	6	8.1	硬質頁岩	横長 つまみなし
37	10	1	1区	一括	掻器	36	25	5	4.7	頁岩	
37	11	23	IG	10	掻器	34	21	5	4.0	黒曜石	機能部のみ加工
37	12	3	IG	一括	石鏃未成品	27	22	8	5.3	硬質頁岩	
37	13	19	IG	一括	石匙	62	78	15	61.3	砂岩	
37	14	34	3区	一括	石錐	30	18	6	2.1	黒曜石	部分加工　断面菱形

第16表　石器観察表(1)

37	15	2	IG	一括	石鏃未成品	30	32	15	12.4	チャート	
37	16	36	IG	一括	加工痕あり剥片	30	18	2	1.2	黒曜石	基部欠損
37	17	35	IG	一括	石錐	19	12	3	0.8	黒曜石	周辺加工　　断面三角形
37	18	32	IG	一括	石鏃未成品	18	15	3	0.8	黒曜石	周辺加工
37	19	33	IG	一括	石鏃未成品	21	15	5	1.6	珪質頁岩	
37	20	37	3区	一括	使用痕あり剥片	19	21	12	3.9	ﾁｬｰﾄ	
37	21	24	IG	63	加工痕あり剥片	90	55	9	53.0	頁岩	
37	22	8	IG	26	加工痕あり剥片	55	118	11	66.0	頁岩	
37	23	6	3区	表採	打製石斧	97	43	18	88.5	安山岩	一部側面に摩滅痕あり
37	24	9	IG	58	打斧	82	54	14	63.0	凝灰岩	端部欠損
37	25	10	IG	4	打斧	87	54	22	94.0	頁岩	一部側面に摩滅痕あり
37	26	16	2区	一括	磨り石	114	97	50	786.0	安山岩	側面すり痕なし。 裏磨り面は表磨り面より狭い。
37	27	17	IG	75	磨り石	111	100	45	599.0	安山岩	右手で持ちやすい。(自然の形状)
38	1	12	IG	65	礫器	90	105	45	444.0	頁岩	
38	2	13	1区	一括	礫器	95	104	40	407.0	安山岩	
38	3	11	1区	一括	礫器	71	110	35	235.8	頁岩	使用痕有り
38	4	14	IG	60	礫器	139	99	52	644.0	砂岩	
38	5	22	IG	一括	礫器	78	43	15	67.6	黒曜石	

第17表　石器観察表（2）

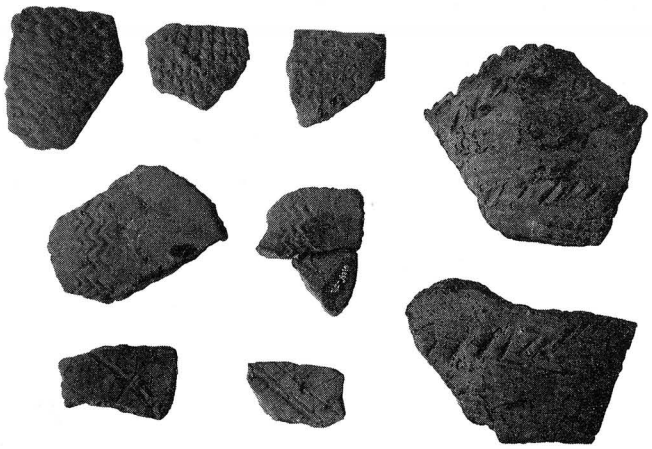
写　真　図　版



調査区全体図

遺構外出土土器

５号住居跡出土羽釜



縄文時代早期の土器

遺跡出土石器

報告書抄録

ふりがな	しだいくぼいせき		
書名	次第窪遺跡		
著者名	秋山圭子、パリノ・サーヴェイ株式会社		
発行者名	韮崎市教育委員会		
編集者名	秋山圭子		
編集機関	韮崎市教育委員会		
発行機関	韮崎市教育委員会		
住所	〒407-8501　山梨県韮崎市水神1-3-1		
発行日	平成15年3月28日		
所収遺跡名	次第窪遺跡	ふりがな	しだいくぼいせき
所在地	韮崎市穴山町次第窪	ふりがな	にらさきしあなやまちょうしだいくぼ
市町村コード	19207	遺跡番号	S－2
北緯	35°45′9″	東経	138°24′53″
調査期間	平成13年7月23日～11月28日	調査面積	3000m²
調査原因	県道17号線バイパス建設事業		
種別	集落跡		
おもな時代	縄文時代（早・前期）、古墳時代、平安時代、中世		
おもな遺構	竪穴式住居跡、溝、集石土坑、土坑、柱穴		
おもな遺物	縄文土器（早・前期）、土師器、内耳土器、石器、磨製石鏃など		
特記事項	植物遺存体分析・土壌分析		

次第窪遺跡

発行日　平成15(2003)年3月28日

発行　韮崎市教育委員会
〒407-8501
山梨県韮崎市水神1－3－1
TEL 0551-22-1111(内224)

印刷　有限会社 タクト